

平成30年度

中学生の意識・行動と  
保護者の家庭教育に関する調査

報 告 書

福岡県立社会教育総合センター

## はじめに

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが「生きる力」を身につけていくうえで重要な役割を担っています。それゆえ、家庭教育はこれからの未来を担うすべての子どもにとって重要です。

しかし、近年、家族構成の変化や地域社会の人間関係が希薄になる等を背景として、子育てについて悩みや不安を感じる保護者が増加しています。また、ひとり親世帯の増加や貧困、学校行事や地域行事へ参加しない保護者の増加により、孤立する家庭が多くなってきています。さらに、共働き世帯は増加を続けており、子育て家庭を社会全体で支える必要性はますます高まっています。

平成18年12月の教育基本法改正では、「家庭教育」に関する条文が追加され、家庭教育についての保護者の責任や役割、行政の支援などが規定されました。また、平成20年の社会教育法改正では、家庭教育に関する社会教育の立場と関係者等との連携・協力の促進に努めると明記されました。

文部科学省に設置された「家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会」では、平成29年1月に報告書を取りまとめ、全ての親の学びや育ちを応援するための方策や家庭教育支援のための具体的な方策を示しました。

当センターでは、福岡県における家庭教育の実態や課題を明らかにするため、昭和55年度から幼児をもつ保護者、小学生をもつ保護者、中学生及び中学生をもつ保護者を対象に「保護者の養育態度・意識の実態調査」を実施し、比較検討してきました。その中で、家庭教育を支える環境の変化によって、保護者の意識や養育態度も少なからず影響を受けている実態が明らかになってきました。本年度は、県内の中学生の意識・行動と保護者の家庭教育の実態について調査し、過去の調査と経年比較しながらその分析結果をまとめました。

保護者が、今何を課題とし、どのような支援を必要としているのかを明らかにするためには、子育て中の保護者の現状を十分把握する必要があります。本報告書が家庭教育に関する課題解決に向け、保護者のみならず家庭教育を支援する多くの方々のお役にたてれば幸いです。なお、これまでの調査報告書は県立社会教育総合センターが管理するホームページ「ふくおか社会教育ネットワーク」の「福岡県内データ集」で検索できますので、是非、御活用ください。

おわりに、本調査を実施するにあたり、御尽力いただきました九州女子大学の島田まな教授、調査に御協力いただきました各中学校の中学生・保護者・職員の皆様、関係教育委員会の方々に心から御礼申し上げます。

平成31年3月

福岡県立社会教育総合センター  
所長 原 正 彦

# もくじ

## I 中学生の意識・行動と保護者の家庭教育に関する調査のまとめ

### 第1章 調査の概要

- 1 調査の目的 . . . . . 1
- 2 調査の方法 . . . . . 1
- 3 分析の基本的視点 . . . . . 4

### 第2章 中学生の意識・行動の実態

- 1 学校生活 . . . . . 5
- 2 保護者と子どもの交流 . . . . . 8
- 3 家庭生活 . . . . . 11
- 4 個人生活 . . . . . 18
- 5 自己評価 . . . . . 21

### 第3章 保護者の家庭教育の実態

- 1 家庭生活 . . . . . 27
- 2 保護者と子どもの交流 . . . . . 33
- 3 子どもの評価 . . . . . 35
- 4 養育態度 . . . . . 40

### 第4章 全体考察（過去36年間の変化）

- 1 過去36年間の変化 . . . . . 46
- 2 総合考察と提案 . . . . . 50

## II 参考資料

- 実施要項
- 配布アンケート
- 集計表
- 調査協力校

# I 中学生の意識・行動と保護者の家庭教育に関する調査のまとめ

## 第1章 調査の概要

### 1 調査の目的

家庭はすべての教育の出発点であり、基本的な生活習慣、豊かな情操、自立心を養う上で重要な役割を担っている。さらに近年、少子高齢化や人間関係の希薄等、社会状況の変化にともない、家庭の教育力の重要性が改めて問われている。子どもたちの成長に様々な影響を及ぼす家庭の教育力を向上させるために、家庭における教育を支援するしくみをつくる取組は、社会の緊急かつ重要な課題である。

福岡県では、昭和55年度からおよそ5年ごとに、幼児をもつ保護者、小学生をもつ保護者、中学生及び中学生をもつ保護者を対象に「保護者の養育態度・意識の実態調査」を実施してきた。本年度は中学生の意識・行動と保護者の家庭教育の実態について調査を実施し、過去の調査結果と比較検討により、今後の乳幼児期から小中学生期までを通じた家庭教育の支援の在り方を探る基礎資料とする。

### 2 調査の方法

#### (1) 調査の対象

本調査は、福岡県下6地区、6中学校の1年生から3年生までの中学生2,219名とその保護者を対象として実施した。中学生及びその保護者の有効回答サンプル数と回収率は表1～3のとおりである。

#### (2) 調査の方法

本調査は質問総数37項目からなる調査票「生活に関するアンケート」(中学生用)と34項目からなる「家庭教育に関するアンケート」(保護者用)により無記名で行った。

中学生用の調査票は大きく「学校生活」「保護者と子どもの交流」「家庭生活」「個人生活」「自己評価」の5領域で構成している。

保護者用の調査票は大きく「家庭生活」「保護者と子どもの交流」「子どもの評価」「養育態度」の4領域で構成している。

なお、本年度調査の結果と過去の昭和57年度、平成5年度、平成10年度、平成14年度、平成19年度、平成25年度の経年の変化を得るため、前回調査対象校及び前回の調査項目を基本として今回の調査を行った。質問項目の構成については表4に示している。

#### (3) 調査の実施方法と時期

調査の実施にあたっては、調査に協力いただいた中学校に調査票を直接持参し、学級担任をとおして各家庭に配布し、記入をお願いした。

調査を実施した時期は平成30年7月である。調査に協力いただいた中学校の名称は本報告書の末尾に記載している。

**表1 中学生学年別サンプル数（単位：人）**

学年	1年生	2年生	3年生	計	中学生 有効回答率
男子	364	302	332	998	90%
女子	333	314	343	990	
計	697	616	675	1988	

**表2 保護者男女別（学年別）サンプル数（単位：人）**

保護者	中学生	1年生	2年生	3年生	計	保護者 有効回答率
男性	男	263	226	253	742	男性保護者 63%
	女	230	215	205	650	
	小計	493	441	458	1392	
女性	男	322	281	299	902	女性保護者 85%
	女	324	306	350	980	
	小計	646	587	649	1882	
	計	1139	1028	1107	3274	保護者合計 73%

**表3 保護者年代別サンプル数（単位：人）**

年代	20代	30代	40代	50代	60代 以上	計
男性	2	185	916	271	18	1392
女性	4	405	1309	163	11	1892
計	6	590	2225	434	29	3284
割合 (%)	0.2%	18.0%	67.7%	13.2%	0.9%	100.0%

※ アンケート配布数は、中学生 2,219 名とその保護者 4,438 名

※ 表1～3は、アンケートの未記入を除いた有効回答サンプル数

**表4 質問項目の構成** (丸数字はアンケートの設問番号)

中学生への質問項目	保護者への質問項目
<b>1 学校生活</b> (1) 勉強 ③勉強の目的 ④勉強の理解 (2) 友人関係 ⑤親友 (3) クラス活動 ⑥決められた仕事	<b>1 家庭生活</b> (1) 基本的な生活習慣 ①起床 ②朝食 ③あいさつ ④校則違反 ⑤宿題・家庭の仕事忘れ ⑦テレビ・ゲームのルール (2) 仕事と生活 ⑨帰宅時間 (3) 言葉づかい ⑥親への言葉 (4) 学習 ⑧成績との影響要因 (5) 地域との交流 ②地域の行事への参加 ③地域活動等への参加
<b>2 保護者と子どもの交流</b> (1) 日常会話 ⑦将来・人生 ⑧学校生活 ⑨言い分 (2) イメージ ⑩家庭の存在 (3) 養育態度 ⑪しつけがあまいか	<b>2 保護者と子どもの交流</b> (1) 日常会話 ⑩将来・人生の話 ⑪学校生活の話 (2) 意見交換 ⑫子どもへの聴取や相談 ⑬親への意見 ⑭子どもの言い分を聞く
<b>3 家庭生活</b> (1) 基本的な生活習慣 ①起床 ②就寝 ⑫朝食 ⑬夕食 ⑭こづかい ⑮家庭の仕事 ⑯決まった家庭の仕事 ⑰皮むき ⑲近所へのあいさつ ⑳日常のあいさつ ㉑生活の満足度 (2) 家庭学習 ⑱塾・家庭教師 ⑲学習時間 (3) メディア接触 ㉒テレビ等視聴時間 ㉓ゲームの時間 ㉔携帯電話・スマートフォンの所持 ㉕携帯電話・スマートフォンの利用時間	<b>3 子どもの評価</b> (1) 子どもの意識や生活 ⑯自主性 ⑰積極性 ⑱忍耐力 (2) 接し方 ⑲他の子との比較 ⑳男女別の注意 ㉑腹が立つ (3) 悩み ㉒子どもに関する悩み
<b>4 個人生活</b> (1) 自由時間の過ごし方 ㉖楽しい場所 ㉗休日の過ごし方 ㉘地域活動等への参加	<b>4 養育態度</b> (1) 親の意識 ㉔㉕しつけの自信 ㉖しつけのあまさ ㉗世話 ㉘子どもの将来像 ㉙家庭の役割 (2) 養育態度 ⑮ほめる ㉚しつけの学習 ㉛悩みの相談相手 ㉜しつけの配慮
<b>5 自己評価</b> (1) 自己評価 ㉚自主性 ㉛積極性 ㉜忍耐力 (2) 悩み ㉝イライラ ㉞悩み・困惑 ㉟相談相手 ㊱学校に行きたくない意識 ㊲自尊感情	

### 3 分析の基本的視点

調査結果の分析は、調査票の構成に沿って行った。質問毎の特徴や傾向を把握するために、結果の集計は男性保護者・女性保護者、学年別に行った。分析・考察については男性保護者・女性保護者、学年別に加え、過去6回の調査結果と比較しながら行っている。さらに、調査を始めてからこれまでの過去36年間の変化のありようについて分析・考察を行った。

なお、グラフの数値については、過去のデータも含め小数点以下を四捨五入しているため、1%程度の誤差が生じている。また、保護者の表記については、祖父母等も含めているため「男性保護者・女性保護者」としている。

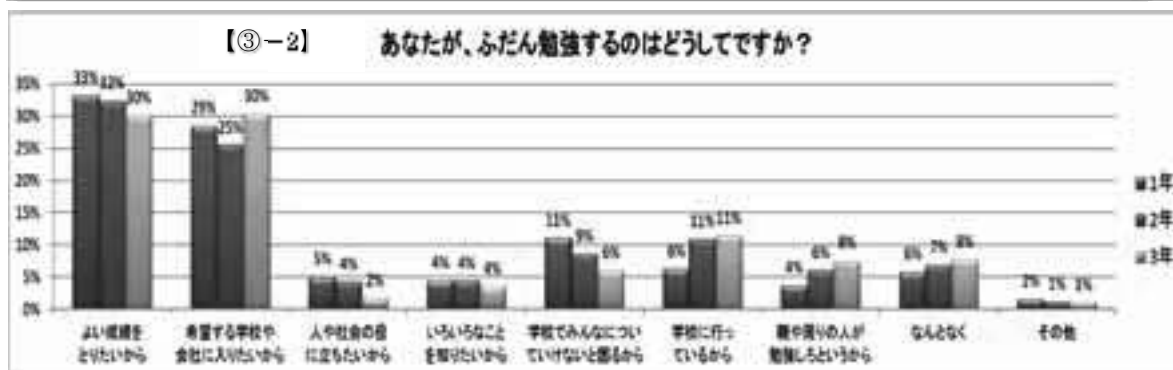
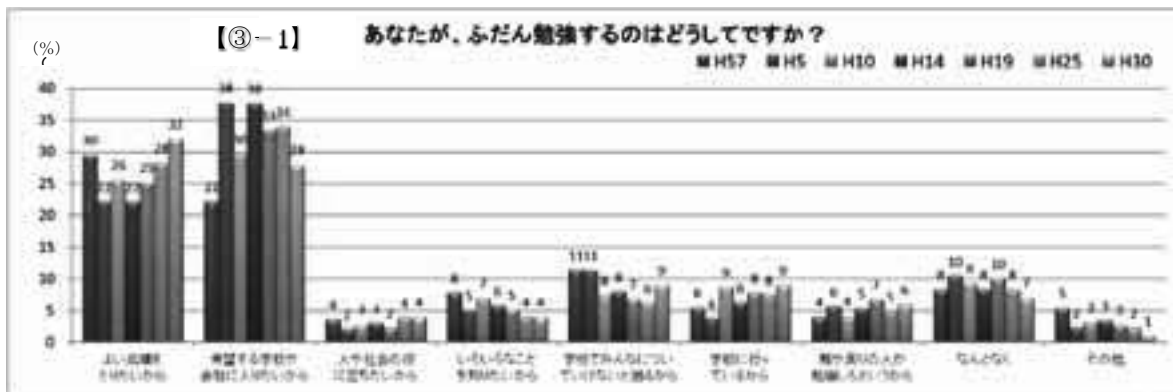
また、学校で行ったアンケートのデータについては、「中学生」「男子」「女子」として表記している。一方、保護者へのアンケートでは、立場上から「子ども」と表記している。

## 第2章 中学生の意識・行動の実態

### 1 学校生活

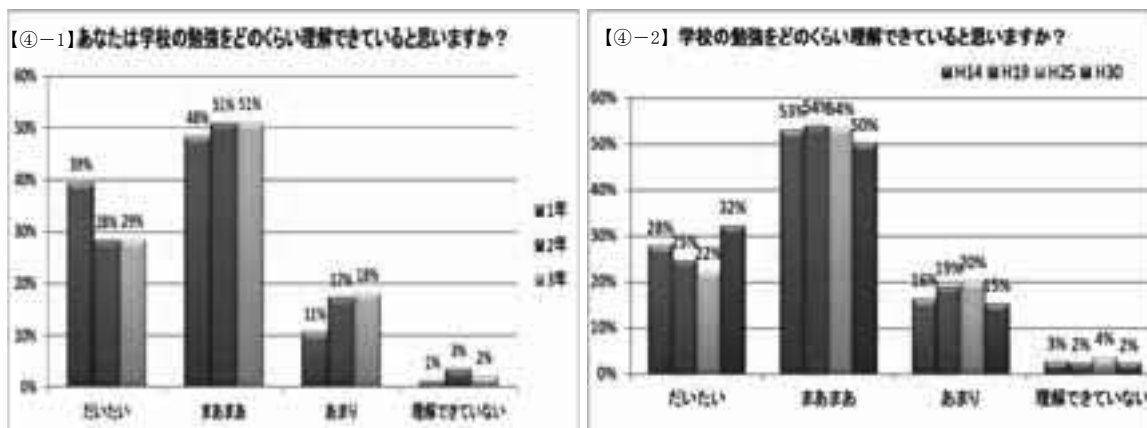
#### (1) 勉強

##### Q③勉強の目的



ふだん勉強する理由は、前回まで最も多かった「希望する学校や会社に入りたいためから」を抜いて「よい成績をとりたいから」が最も多く 32%となっているが、この二つが主な目的であることは変わらない(③-1)。「学校でみんなについていけないと困るから」が若干増加している(③-2)。「いろいろなことを知りたいから」と「人や社会の役に立ちたいから」はともに4%と低く、学ぶ喜びや得た知識を何のために使うのかを社会との関わりで考える意識はあまりないことがうかがわれる。

##### Q④勉強の理解

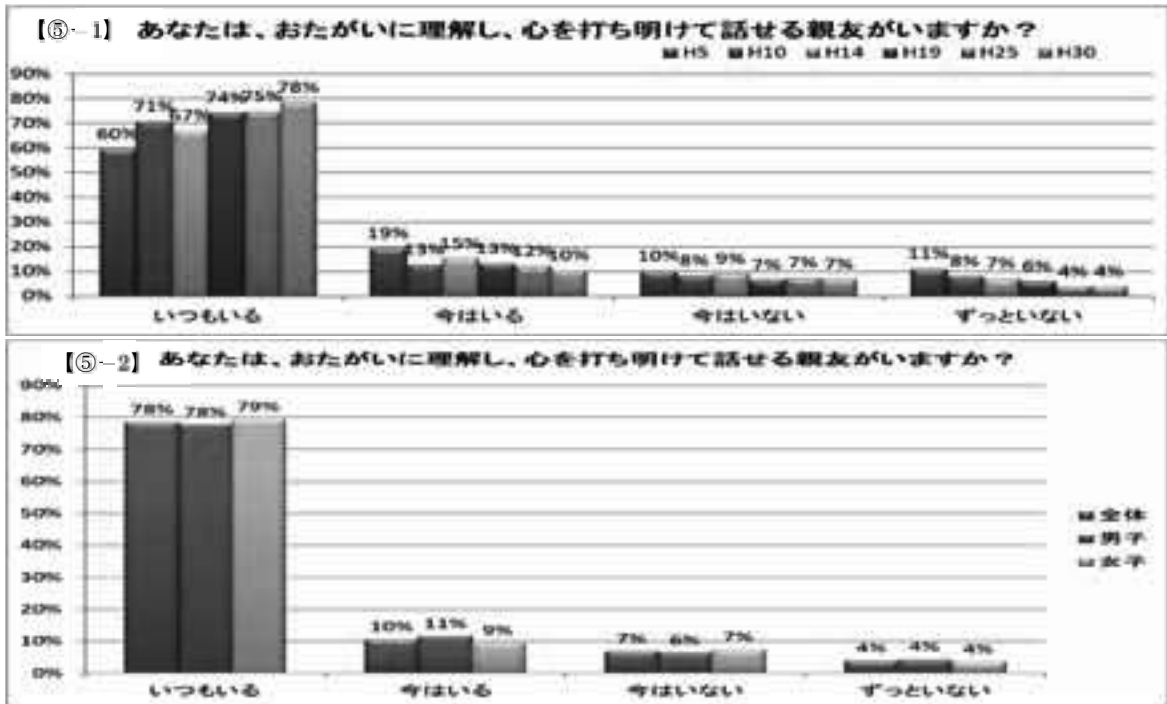




「だいたい理解できている」が前回より少し増え「まあまあ理解できている」と合わせると 82%の中学生が勉強をおおむね理解できている (④-1)。「あまり理解できていない」と「理解できていない」を合わせると前回より7ポイント減少しているものの、学年を追うごとに勉強を理解できていない中学生が増加している傾向は変わらない (④-2)。1年生で「だいたい理解できている」39%が、2年生・3年生では10ポイント以上減少していることと相関していると考えられ課題である。

(2) 友人関係

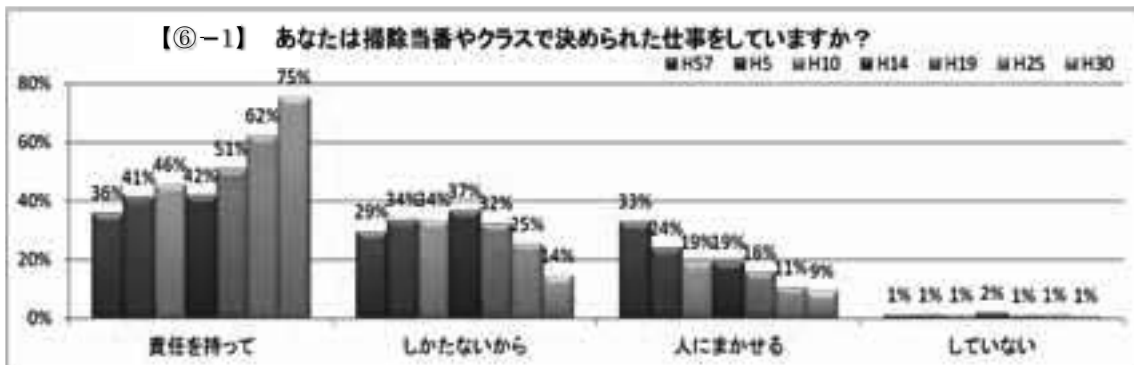
Q⑤親友

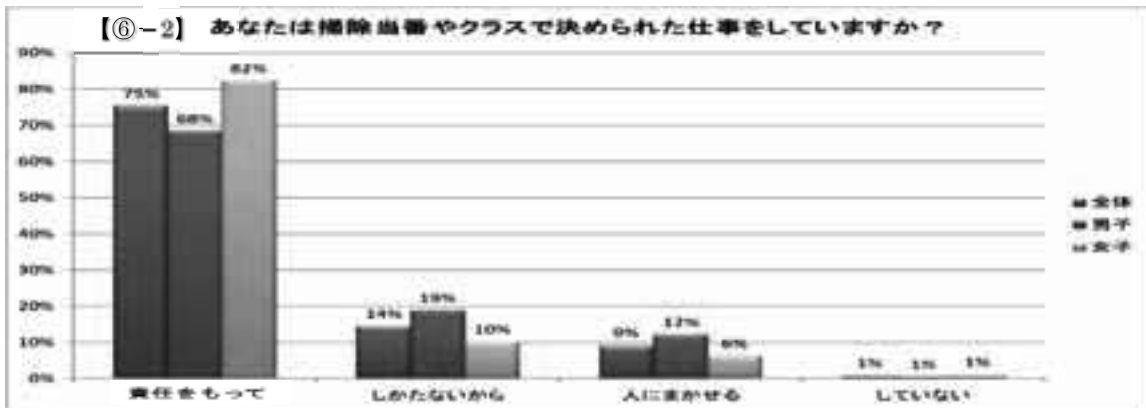


親友と呼べる親しい友達について「いつもいる」「前はいなかったが今はいる」を合わせると 88%となっている (⑤-1)。これは前回調査とほぼ同じだが、「いつもいる」が微増傾向である。また、男女とも同じような結果となっている (⑤-2)。「今はいない」「ずっといない」は前回と同じでこれまでの調査の中では最も低い数値となっている。

(3) クラス活動

Q⑥決められた仕事





「まじめに責任をもってしている」中学生の割合は75%で、前回11ポイント上昇した数値から今回さらに13ポイント上昇している(⑥-1)。反対に「しかたないからしている」「ときどき人にまかせて手を抜く」中学生の割合は、調査年ごとに減少している。女子は8割以上の中学生が「責任をもってしている」と答えているが、男子は「しかたないから」「人にまかせる」「していない」が合わせて32%いる(⑥-2)。

## まとめ

中学生の生活の中で学校は大きな位置を占めている。特に中学は「勉強」がますます高度になり、家族よりも「友人関係」が重要度を増してきて、保護者にとっては子どもとの関わり方が難しくなる時期でもある。また、集団生活の中で期待される役割を果たしつつ社会性を育むことが大切な段階でもある。ここでは、これまでの調査と同様の「勉強」「友人関係」「クラス活動」といった視点から、中学生の実態をみている。

勉強する目的としては、「よい成績をとりたいから」が1位で、次が「希望する学校や会社に入りたいため」となっている。「いろいろなことが知りたい」という主体的な学習意欲や学ぶ喜びに基づくもの、あるいは「人や社会の役に立ちたいから」という意識は低い傾向が続いている。家庭で、社会人である保護者との会話等を通して社会のことや仕事のやりがいなどを伝えることも大切であろう。自己評価での勉強の理解度は約8割ができているという結果であり、大半の中学生は理解しているという実態である。しかしながら、約2割は理解できていない、すなわち5人に1人が勉強に困難を抱えていることも示されている。また、学年が上がるにつれて理解できない割合が増加しているため、早めの気づきや学習支援活動への橋渡しなどの対応が求められる。

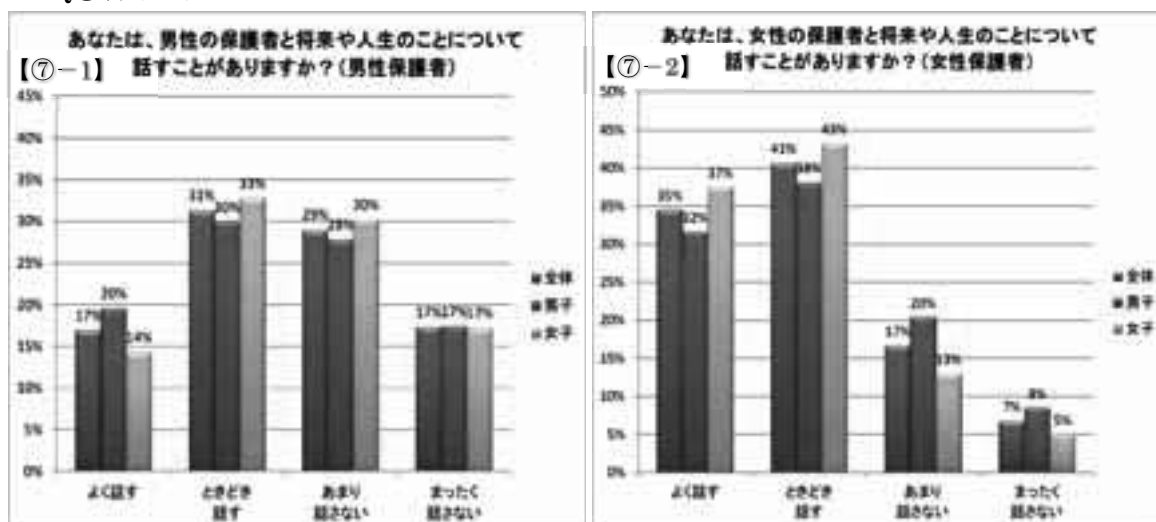
友人関係では、これまでと同様に全体としては良い人間関係づくりがみられる。ただし、約1割は「心をうちあけて話せる親友」がいないと答えており、留意が必要である。

クラス活動では、「責任をもってしている」割合が格段に増加している。このような態度や意識は家庭教育で育まれる部分も大きい。この責任をもって取り組む姿勢を、家庭や地域社会でさらに生かされるとよい。

## 2 保護者と子どもの交流

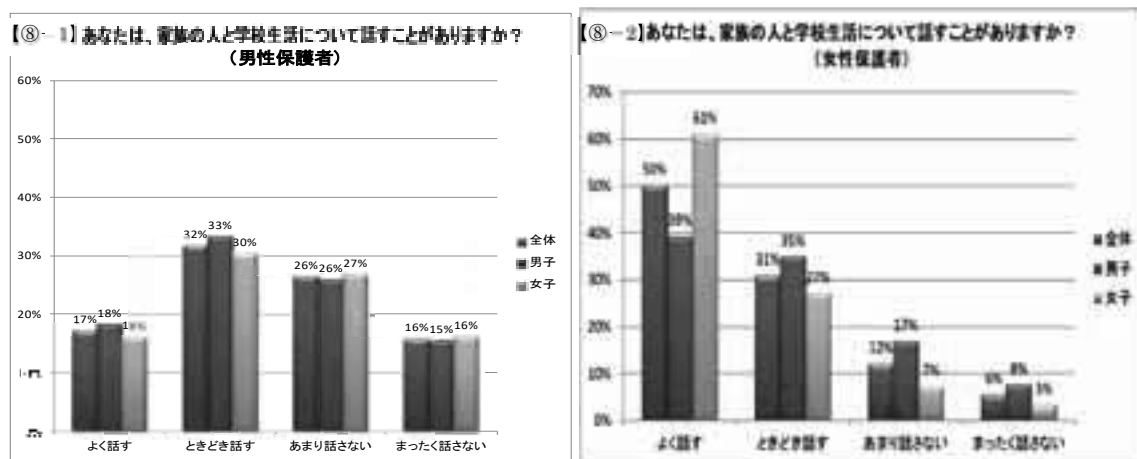
### (1) 日常会話

#### Q⑦将来・人生について



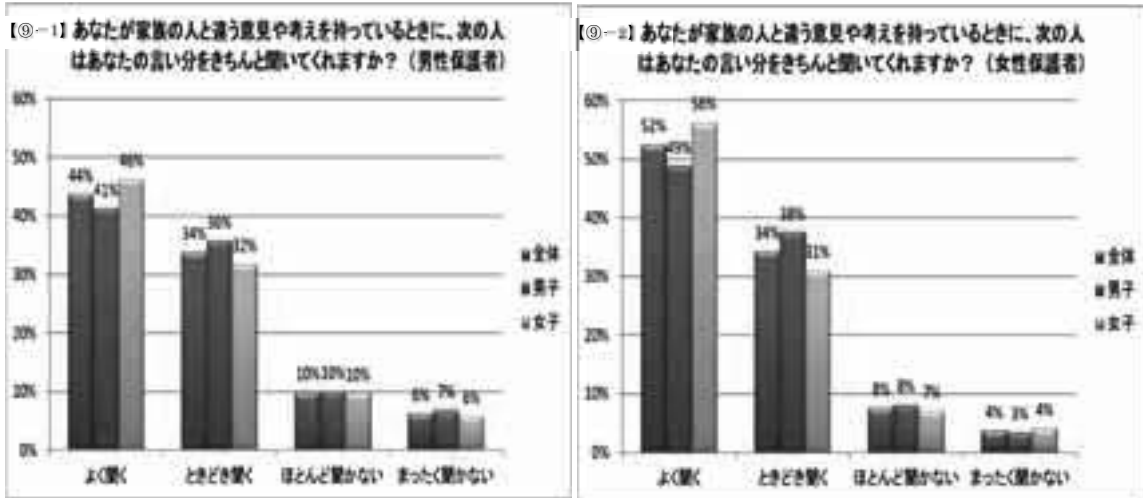
将来や人生について、全体で女性保護者と話す割合は「よく話す」「ときどき話す」を合わせて76%と高い(⑦-2)。男性保護者と話す割合は48%で約半数である(⑦-1)。また、「よく話す」の割合が、男子は男性保護者、女子は女性保護者が多いという傾向がある。男性保護者と「まったく話さない」中学生が男子、女子ともに2割近くいる。

#### Q⑧学校生活について



学校生活について保護者に話す相手は、男子、女子ともに女性保護者が多く「よく話す」「ときどき話す」を合わせて81%となっている(⑧-2)。女性保護者とは日常的に学校の話をしている様子が見られる。特に女子は女性保護者と「よく話す」割合が61%と高い割合を示している。男性保護者とは「あまり話さない」「まったく話さない」中学生の割合が42%となっており、男性保護者は学校生活の様子を知ろうと意識することが望まれる(⑧-1)。

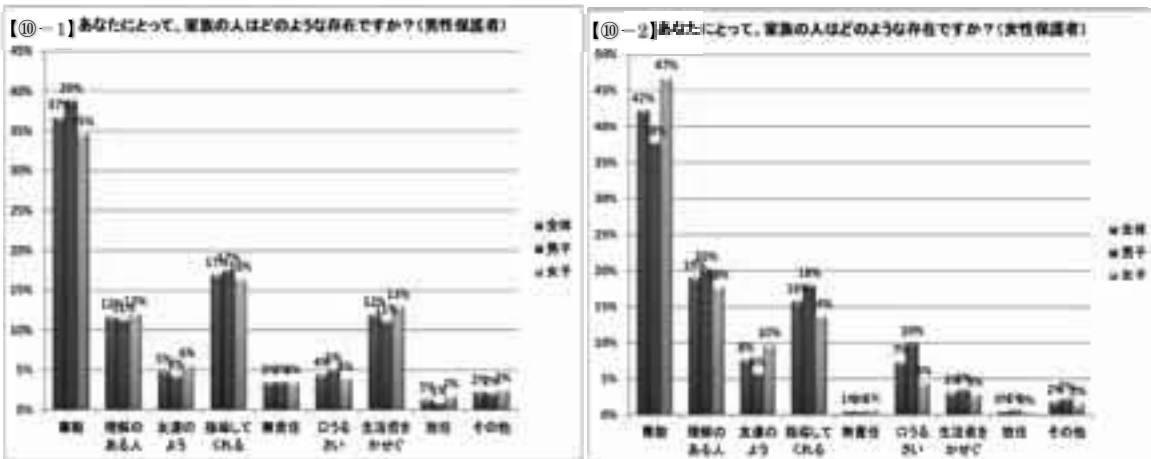
Q⑨言い分を聞いてくれるか



男性保護者が言い分を「よく聞く」「ときどき聞く」割合は、男子で77%、女子で78%である(⑨-1)。女性保護者の場合は男子、女子ともに87%となっている(⑨-2)。女性保護者の方が高いものの、全体的に保護者は子どもの言い分をかなり聞いている様子がうかがわれる。また、「よく聞く」割合は、男性保護者、女性保護者ともに女子の方が男子より5~7ポイント高くなっている。

(2) イメージ

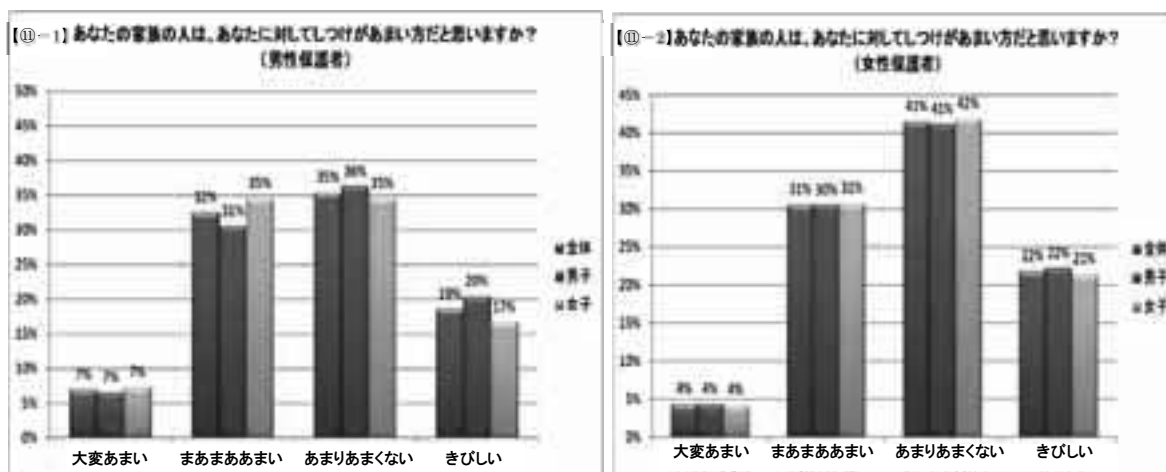
Q⑩家庭の存在



中学生にとって保護者がどんな存在かについては、男性保護者、女性保護者ともに「尊敬ができてたり、頼りになったりする人」が最も多くなっている(⑩-1)。この結果は前回、前々回調査と同じであるが、その割合は回ごとに高くなっている(H19調査：男性保護者30%、女性保護者29%、H25調査：男性保護者35%、女性保護者39%)。また、男子は男性保護者を、女子は女性保護者をよりそう思う傾向がみられる。次いで多いのは、男性保護者は「指導してくれる人」、女性保護者は「理解のある人」となっている(⑩-2)。

### (3) 養育態度

#### Q⑩しつけがあまいか



しつけについては、「あまりあまくない」「きびしい」を合わせた割合は女性保護者の方が9ポイント高く、全体的に女性保護者の方がきびしいと感じている子どもが多い(⑩-2)。特に男性保護者に対して、女子は「あまい」と感じている割合が男子より高く、男子は「きびしい」と感じている割合が女子より高い結果となっている(⑩-1)。

### まとめ

家庭における親子の会話やコミュニケーションは家庭教育の基本であり、そこで培われる信頼関係は社会生活に前向きに臨んでいくための土台として重要である。ここでは、「日常会話」「家族のイメージ」「養育態度」の3点について、中学生自身がどうとらえているのかを確認した。

日常会話については、これまでと同様、全体としては男性保護者よりも女性保護者と話す割合が高い。特に「学校生活について」の日常的な会話は、女子は女性保護者と高い割合で行っている。「将来や人生のことについて」は、男子は男性保護者と、女子は女性保護者よりも話しているという結果になっており、保護者は身近な同性の先輩あるいは生き方のモデルとしての役割も担っていると考えられる。また、保護者が「言い分を聞いてくれる」と感じている子どもの割合は総じて高く、前回調査よりも増加しており、話しやすい保護者が増えていることがうかがえる。他方、「話さない」「聞かない」という保護者も1~2割あり、家庭による会話の格差があることには留意しなければならない。

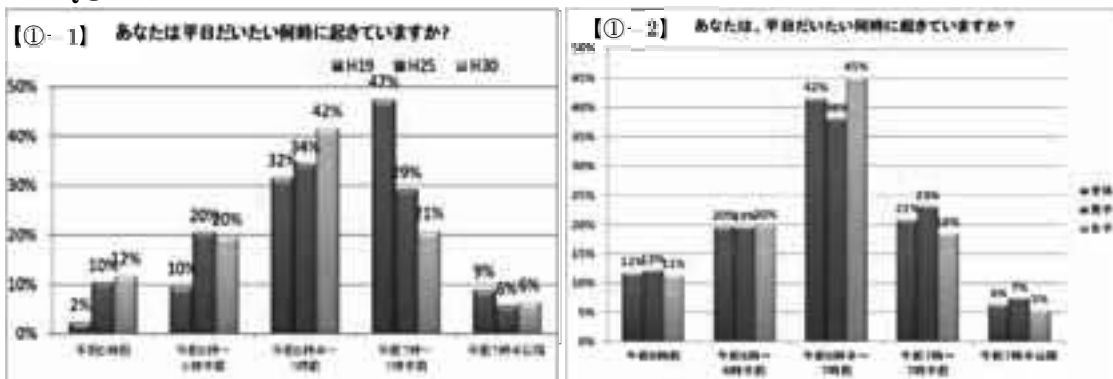
家族のイメージについては、男性・女性保護者ともに「尊敬ができたり、頼りになったりする人」が継続して最も多い。全体的な傾向としては、保護者は尊敬されているといえよう。特に同性の保護者をより尊敬する結果となっていることは、上述した人生の先輩として保護者をみる視点と重なっている。

養育態度については、全体的に女性保護者の方がきびしいと感じている。しかしながら、前回調査とは反対に子どもが「あまい」と感じている割合が男性・女性保護者ともに増加しており、しつけの態度が揺れていることが想像される。

### 3 家庭生活

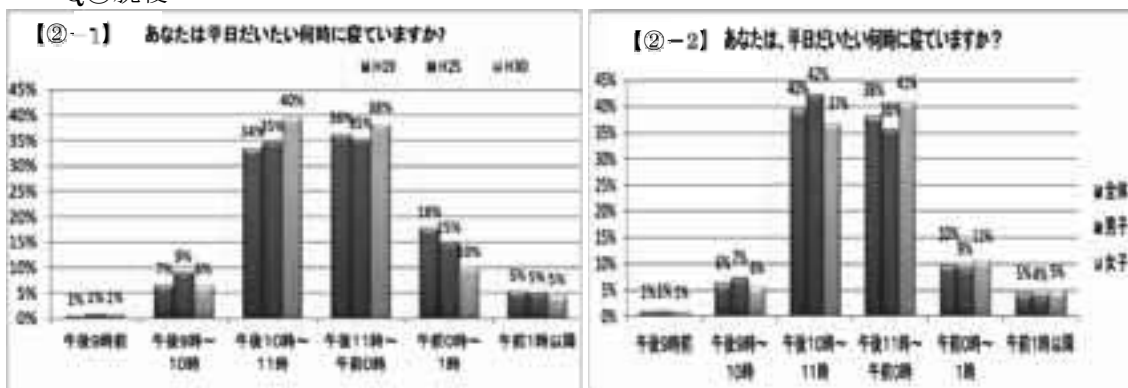
#### (1) 基本的生活習慣

##### Q①起床



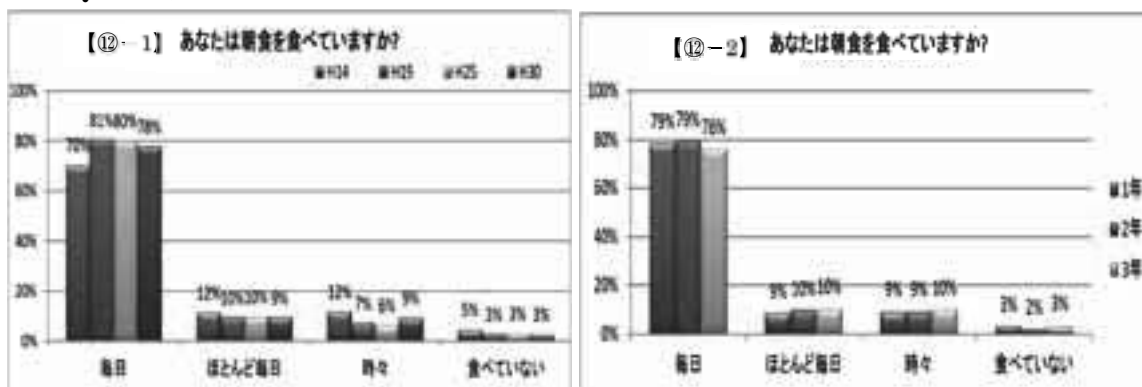
前回調査に引き続き、起床時間が早くなっている傾向がみられる。7時以降の起床は、前回の35%からさらに減少して27%になっており、好ましい傾向が続いている(①-1)。男女別でみると、女子は7時以降に起床する割合は23%だが、男子は30%と少し高くなっている(①-2)。

##### Q②就寝



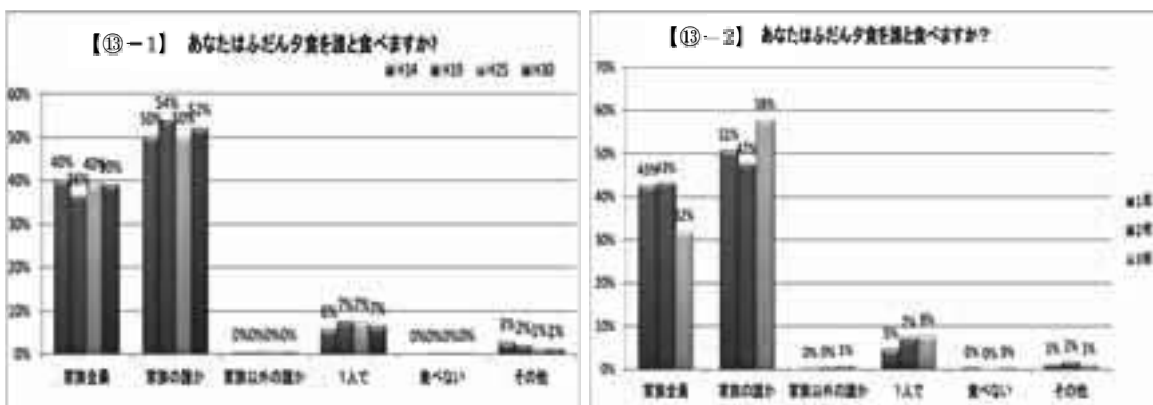
就寝時刻も前回調査に引き続き午前0時以降に就寝する割合が減少しているが、午前1時以降に就寝する中学生の5%は変わらない(②-1)。男女別では前回と同様、女子の方が深夜まで起きている傾向がみられる(②-2)。午前0時以降に就寝する割合は前回の20%から今回15%に減少している。啓発の継続が大切である。

##### Q③朝食



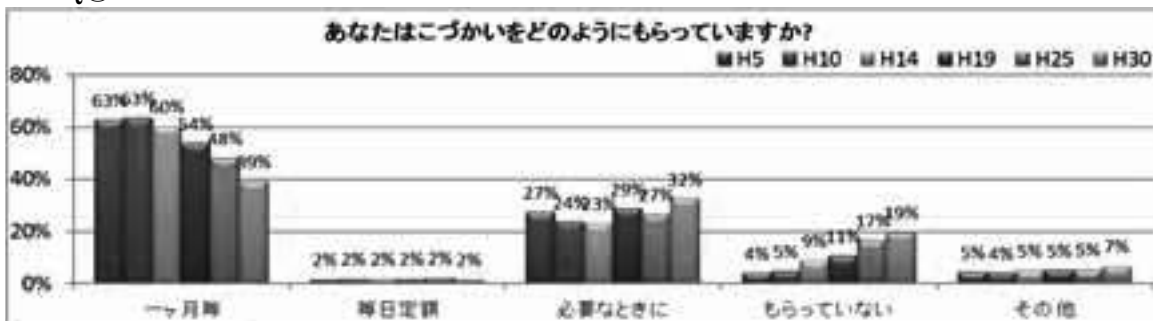
朝食を食べる割合は、全体的な傾向はこれまでの調査と同様、「毎日」「ほとんど毎日」を合わせると87%と9割近い数値となっている(⑫-1)。しかしながら、その数値が微減ではあるが減少傾向であることは気になる。併せて、少数ではあるが「食べていない」中学生がいることにも留意し、対応する必要がある。

Q⑬夕食



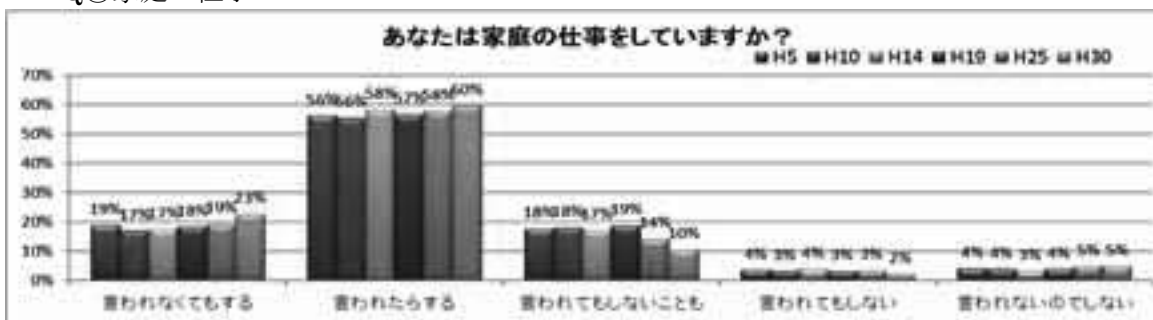
夕食を「家族全員」または「家族の誰か」と食べる割合は91%で前回調査とほぼ変わらない(⑬-1)。全体では7%、3年生では8%の孤食があり、通塾等との関係も推察される(⑬-2)。

Q⑭こづかい



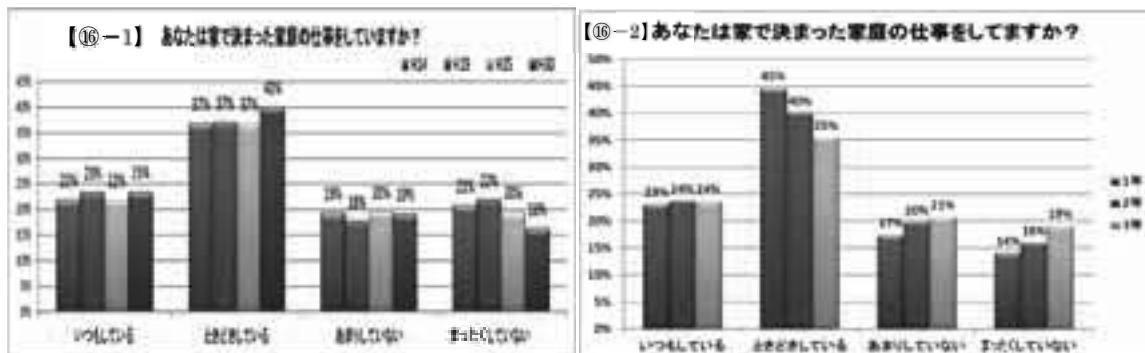
こづかいを「一ヶ月毎」もらっている割合が39%と前回に引き続き大きく減少している。反対に「必要なときに」「もらっていない」が増加している。特に「もらっていない」が約2割で、経済的な背景があることも考えられる。

Q⑮家庭の仕事



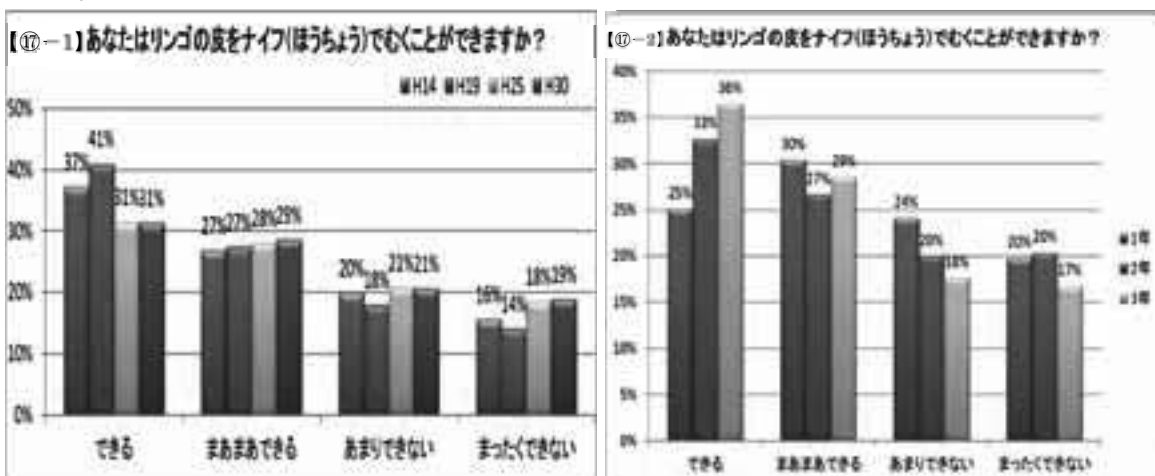
家庭での仕事や手伝いについては、「言われなくてもする」「言われたらする」を合わせた割合は 83%で、これまでの傾向と同様に少しずつ増加している。同時に「言われてもしないことがある」「言われてもしない」を合わせた割合は 12%で前回よりも 5 ポイント減少している。しかしながら「言われないのでしない」中学生は前回同様 5%おり、家庭の中で子どもにも役割を持たせる保護者の働きかけが期待される。

#### Q⑩決まった家庭の仕事



家で決まった手伝いを「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせると 63%で、前回より 4 ポイント増加している (⑩-1)。反対に「あまりしていない」「まったくしていない」を合わせた割合は 5 ポイント減少している。決まった役割を持ち、その役割を家族の一員としてきちんと果たすことで、責任感や勤労観が育ち、生活面の自立も促されよう。その意味で、「あまり」「まったくしていない」が 35%いることが懸念される。また、学年が上がるにつれて「あまり」「全くしていない」割合が増加しており、受験に向けて家庭で仕事をさせない傾向があるのではないと思われる (⑩-2)。

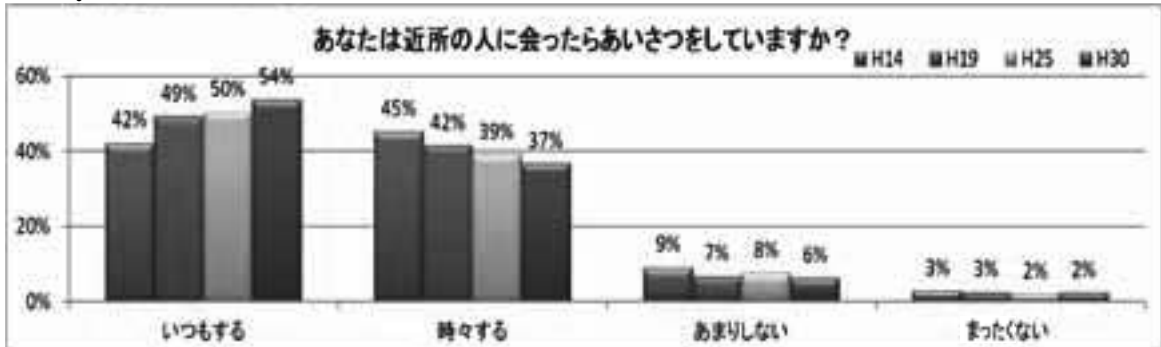
#### Q⑰皮むき



ナイフでの皮むきを「できる」と回答した中学生の割合は前々回調査で大きく減少したが、今回も減少したままの 31%である。「まあまあできる」は微増傾向ではあるが、「まったくできない」中学生もわずかに増えている (⑰-1)。学年が上がるにつれて「できる」割合は増加しているが、1年生の 44%が「あまり」「まったくできない」と答えており、学童期からの基本的な生活技能の習得に課題があることがわかる (⑰-2)。



Q②④近所へのあいさつ



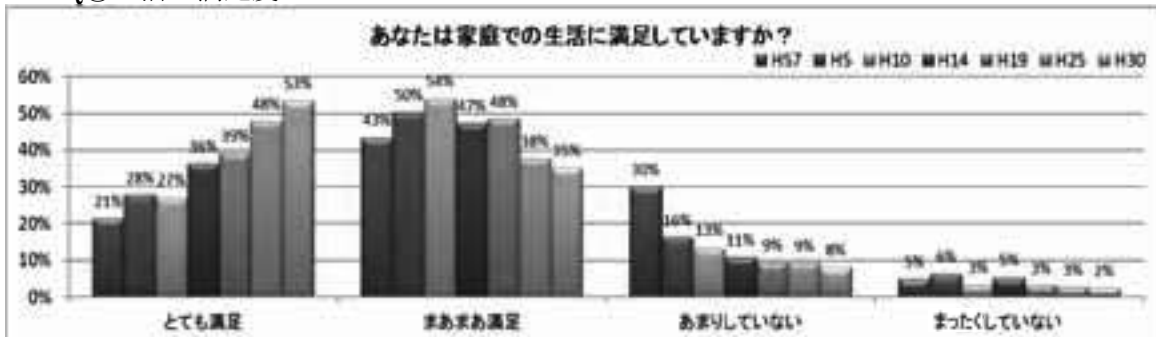
近所の人へのあいさつを「いつもする」割合が前回 50%に達したが、今回はさらに 4 ポイント増加している。同時に「あまりしない」は少し減少している。小学校からの指導や地域で取り組まれているあいさつ運動の効果もあると考えられる。

Q②⑤日常のあいさつ



家族へのあいさつは近所へのあいさつよりも全体的に行う割合が高く、90%の中学生が「いつも」「時々する」と回答している。また、調査ごとに「いつもする」割合が増加し、「あまりしない」割合が減少している。しかし、「あまりしない」「まったくしない」中学生は依然として約 1 割いる。まずは家庭からあいさつの習慣をつけたいものである。

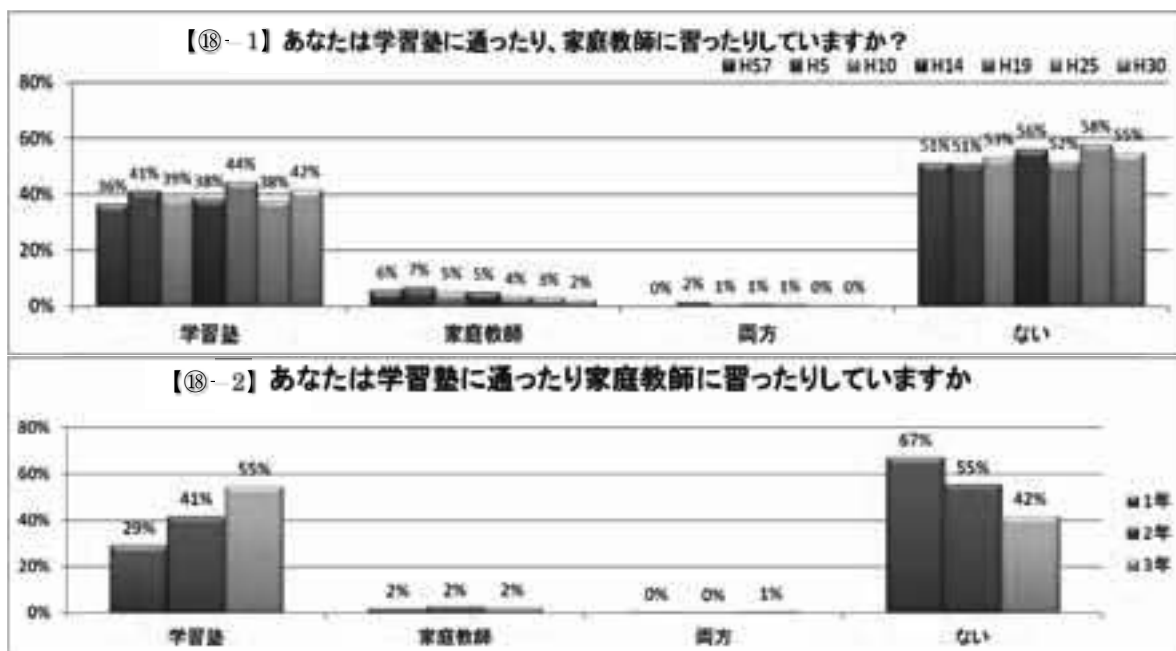
Q③⑥生活の満足度



家庭での生活に「とても満足している」と回答した中学生は、調査のたびに増加しているが、今回も 53%と前回から 5 ポイント上昇している。「あまりしていない」「まったくしていない」中学生の割合も毎回減少しており、今回は合わせて 10%となっている。

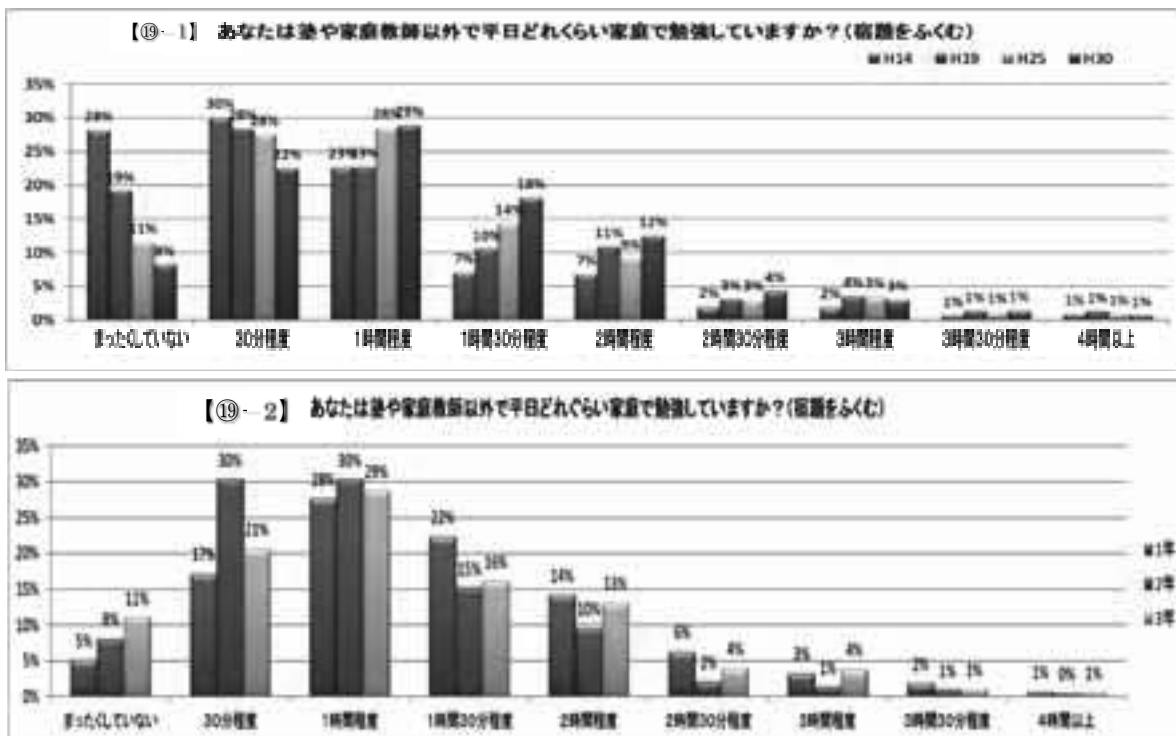
(2) 家庭学習

Q⑱塾・家庭教師



「学習塾に通う」割合は前回調査から4ポイント増え42%に、「家庭教師」の割合が1ポイント減って2%になっている。「どちらもない」中学生も55%と半数以上いる(⑱-1)。学年別では、学年が上がるにつれ「学習塾」の割合が高くなる傾向はこれまでと変わらない(⑱-2)。

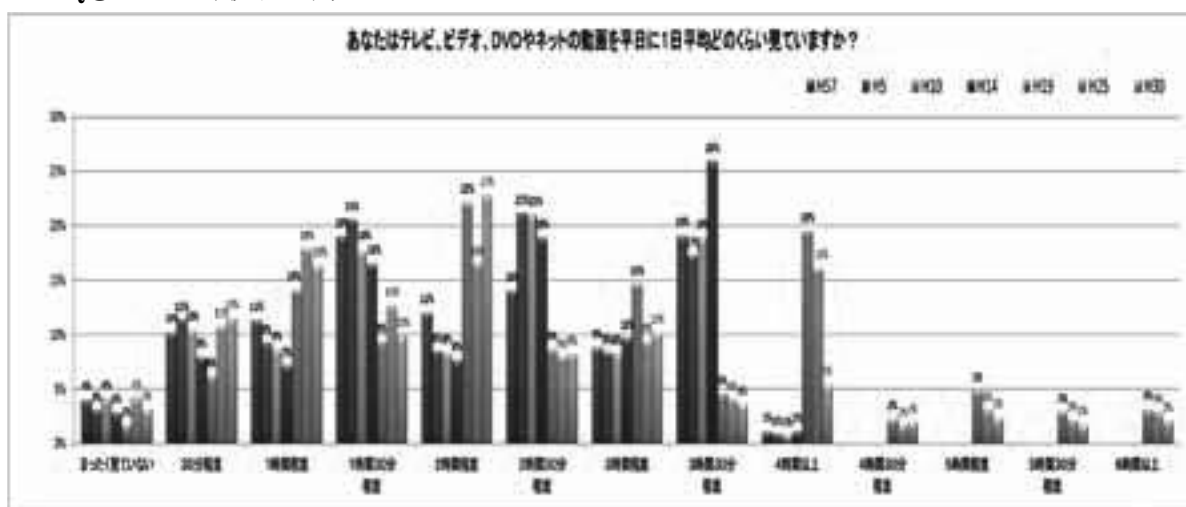
Q⑲学習時間



塾や家庭教師以外での平日の家庭学習は、全体の傾向としては1時間程度以上が増加しており、30分程度以下は減少してきている。「全くしない」割合も前回の11%から8%に減少している(⑩-1)。学年別にみると、1年生は、「1時間程度以上」が76%で最も長く勉強している。2年生の家庭学習の時間が少ないのは、気の緩みではないかと思われる。3年生は、「全くしない」が11%で一番多い(⑩-2)。3年生は、Q⑧の通塾の割合が高いからと考えられるが、家庭での学習習慣も大切である。

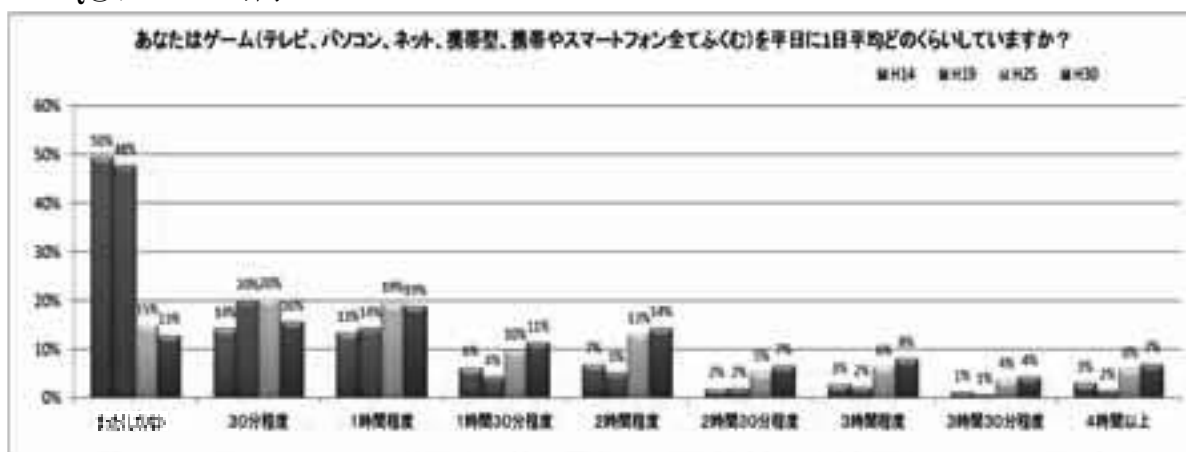
### (3) メディア接触

#### Q⑩ テレビ等視聴時間



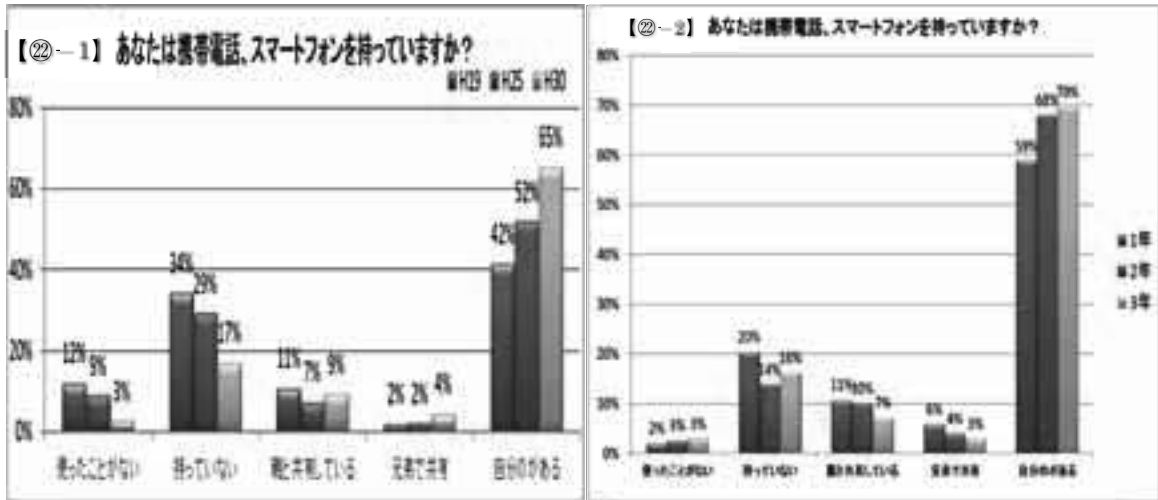
テレビやインターネット等の動画を平日に見ている時間については、4時間以上見ている中学生の割合は、前々回、前回から大幅に減少している。メディアへの接触時間に関する啓発等が改善につながっていることが考えられる。ただ、減少はしたものの5時間程度以上で6%、6時間以上も2%いる。引き続き働きかけが必要である。

#### Q⑪ ゲームの時間



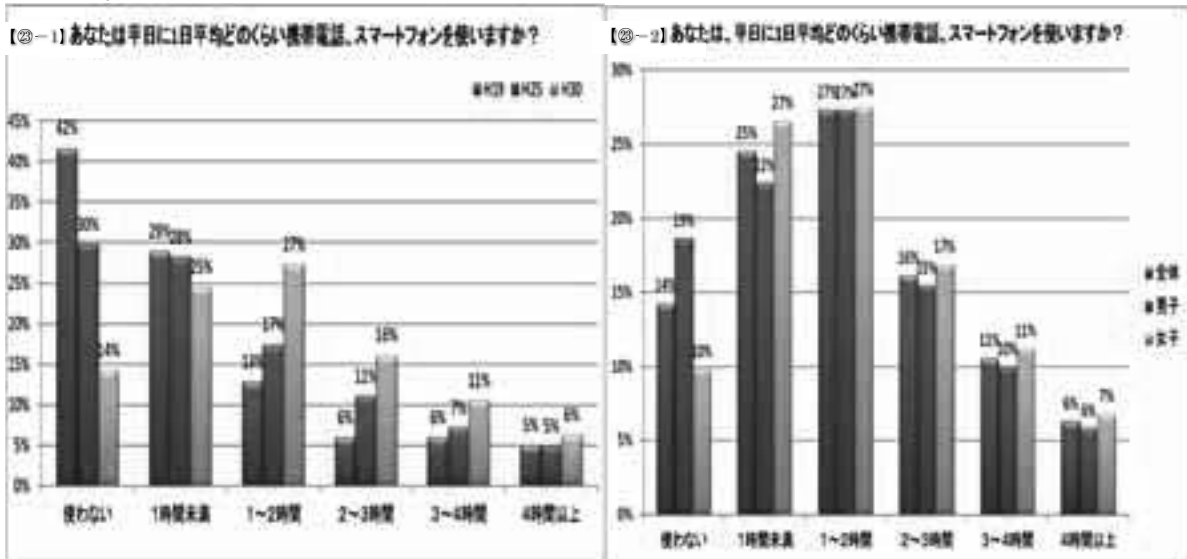
ゲームを平日にしている時間は、前回調査から長時間化の傾向が表れているが、今回さらにその傾向が強まっている。7割以上の中学生が1時間程度以上はしており、4時間以上も7%いる。家庭学習や睡眠時間の確保のためにも、家庭で使用するルールを決め、守ることを徹底させることが引き続き必要である。

Q②携帯電話・スマートフォンの所持



携帯電話やスマートフォンを持っている割合は、前回調査から13ポイントも上昇して65%となっている(②-1)。3年生では70%が自分のものを所持している。保護者や兄弟との共有を含めると、約8割の中学生が携帯電話やスマートフォンを使用している(②-2)。

Q③携帯電話・スマートフォンの利用時間



平日に携帯電話やスマートフォンを使う時間は、前回も増加傾向が顕著であったが、今回はさらに長時間化の傾向が出ている。これは、ゲームの時間や携帯電話等の所持の数値と相関している。前は「使わない」中学生は30%であったが、今回は14%と半数以下に減少している。使っている中学生では前は「1時間未満」が主流であったが、今回は「1~2時間」使っている中学生が27%と最も多く、3~4時間以上も17%いる(③-1)。また、男女別では女子の方が長時間使用している傾向も前回と同様である。さらに、女子は2~3時間以上の数値が前回よりも増えている。女子は、就寝時刻が遅い傾向にも関連していることが考えられる(③-2)。

## まとめ

中学生の家庭生活について、「基本的生活習慣」「家庭学習」「メディア接触」の視点からみしてみる。

家庭生活の満足度は「とても満足」が初めて半数を超え、よりよい家庭環境が整ってきているともいえるが、約 1 割の満足していない状況はわずかに減少しているもののあまり変わらない。基本的生活習慣については、「早寝早起き朝ごはん」運動など福岡県 PTA 連合会などを中心に福岡県教育委員会で取り組んできた成果がみられる。特に、早寝・早起きの傾向は着実に進んでいる。約 5 割の中学生が午後 11 時までには就寝し、7 割以上が午前 7 時前には起床しており、睡眠時間を確保しゆとりをもって登校する習慣が定着してきている。ただし、「午前 1 時以降」に寝ている中学生は 5%と毎回の調査で一定数いることには留意しなければならない。また、男女別では、女子の方がやや夜更かしで男子の方がやや寝坊の傾向がみられる。朝食は、約 9 割の中学生が「毎日」「ほとんど毎日」食べており、全体としては前回同様、朝食摂取が定着してきているといえるが、「時々」「食べていない」中学生が 1 割いる状況は、引き続き課題である。家族全員で夕食を一緒に食べる割合は前回とあまり変わらず 4 割であるが、1 人で食べている中学生も毎回約 1 割存在している。通塾の時間、働いている保護者の帰宅時間の問題などもあるかと思われるが、栄養バランスのよい食事とコミュニケーションをとる場として夕食は大切である。啓発は引き続き大切であろう。こづかい「もらっていない」中学生が約 2 割で増加傾向が続いている。家庭の経済的事情の変化も関係しているのではないだろうか。家庭の仕事や手伝いなどは 8 割以上がする、近所の人へのあいさつは 9 割以上がするという回答で、自己評価は毎回高くなってきている。

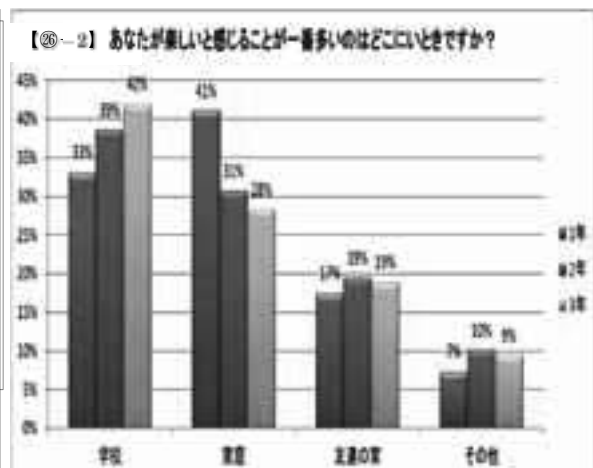
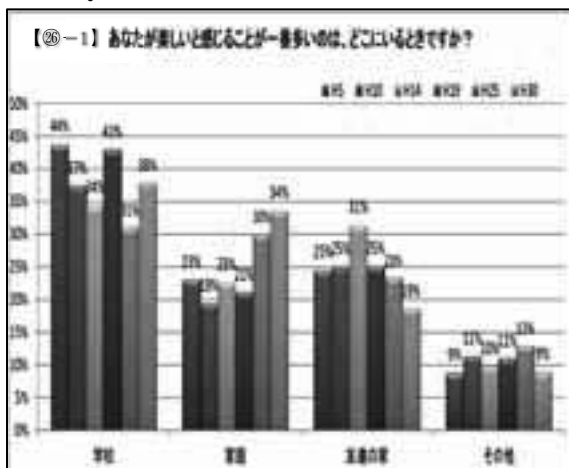
家庭学習では、「まったくしていない」割合が 1 割以下に減少し、より長い時間学習する傾向が出ている。特に 1 年生がより長く家庭で学習している。約 4 割の中学生が学習塾に通っているが、3 年生では半数以上が通っている。学年が上がるにつれて、家庭学習から塾での学習に比重が移っている様子が考えられる。

メディアとの接触については、深刻な傾向が出ている。テレビ等の視聴時間は減少しているもののゲームやスマートフォン等の使用時間は急増する傾向が続いている。特に、4 時間以上使用している中学生は 6~7%おり増加傾向である。使用の制限、正しい使い方の指導を含め、家庭でのルールづくりとルールを守る約束事の徹底がますます重要になっている。

## 4 個人生活

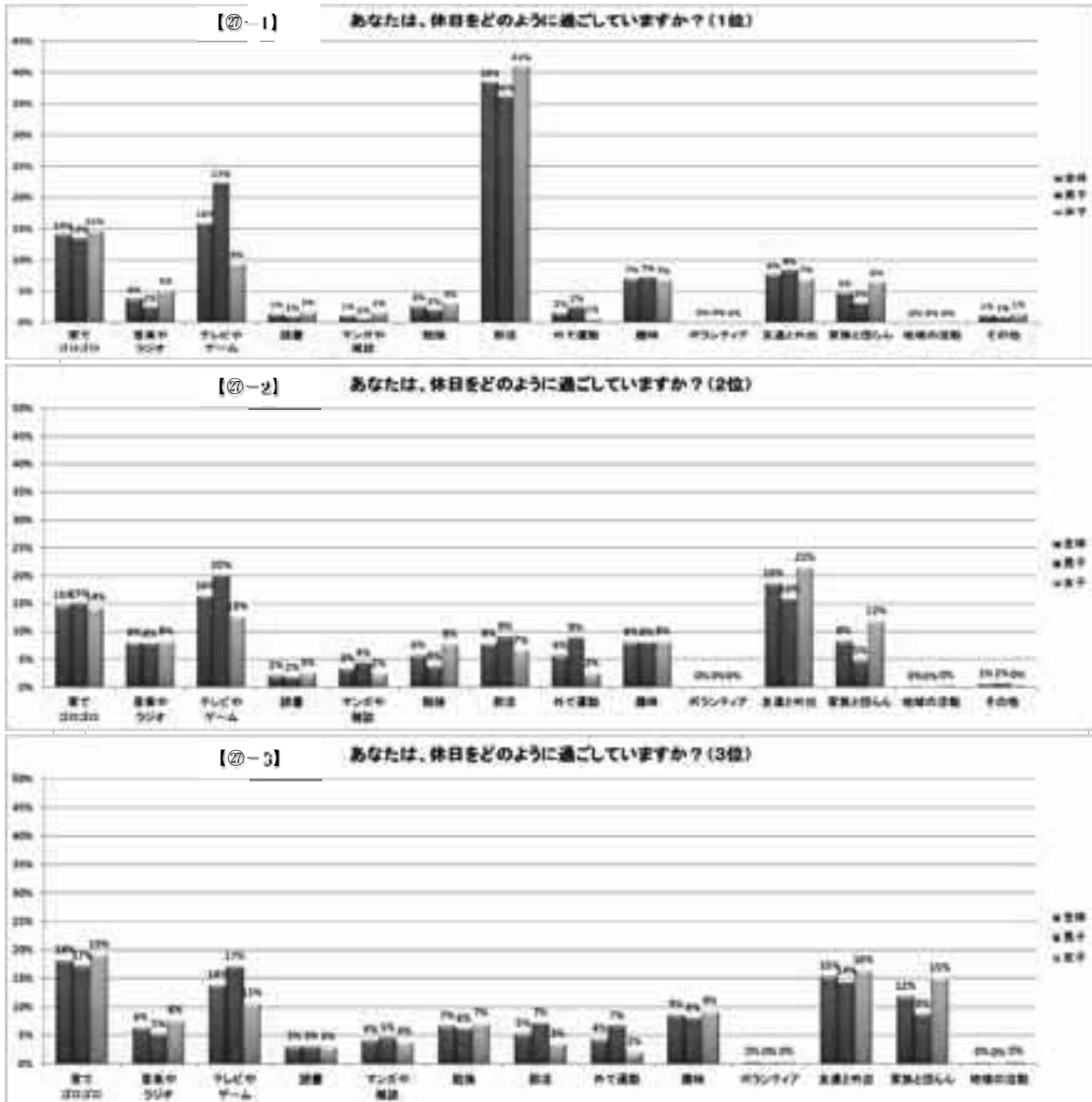
### (1) 自由時間の過ごし方

#### Q⑳楽しい場所



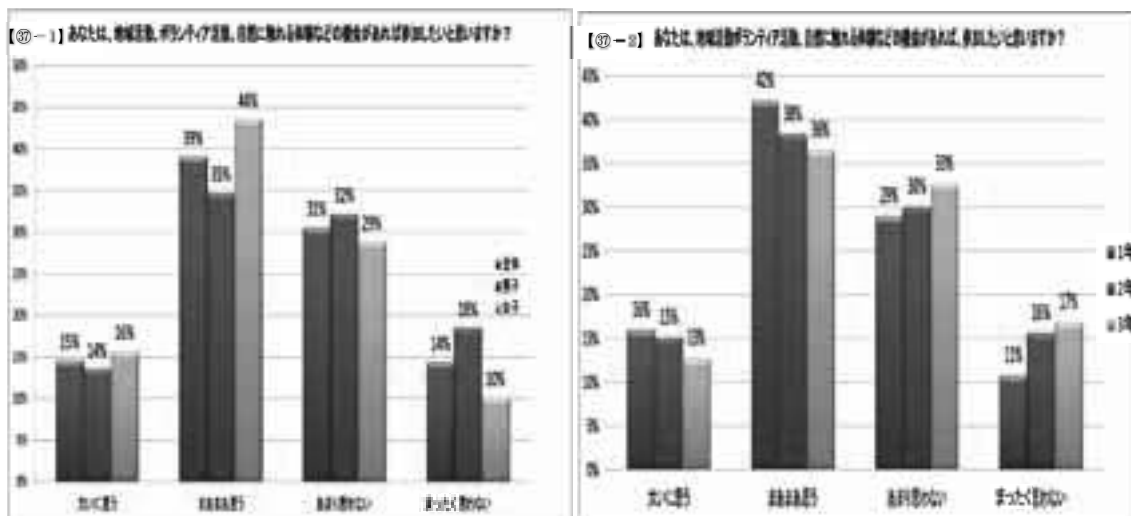
楽しいと感じる場所については、「学校」と回答した中学生の割合は前回調査から7ポイント上昇して38%、「家庭」も4ポイント上昇して34%となっている(26-1)。学年別でみると、1年生は「学校」よりも「家庭」が高いが、2年生以降は順位が逆転して、3年生では「学校」42%、「家庭」28%となっている(26-2)。楽しいと感じる場所が「学校」「家庭」「友達の家」のどこでもない「その他」が9%いることは気がかりである(26-1)。

Q27 休日の過ごし方



休日の過ごし方1位の回答で最も多いのは「部活動やスポーツクラブに参加する」38%である。男子より、女子の方が5ポイント多く41%となっている(27-1)。次いで「友達と外出」「家でゴロゴロしている」「テレビやゲーム」が多い。「テレビやゲーム」は男子の方が、「家族と団らん」は女子の方がやや多い傾向がみられる。「ボランティア活動」や「公民館など地域の活動」は0%であった(27-1.2.3)。

## Q③⑦地域活動等への参加



地域活動やボランティア活動、自然に触れる体験に参加するかについては、肯定的に回答した中学生が 54%であった。男子より女子の方が 11 ポイント多く 60%となっている (③⑦-1)。学年が進むにつれて活動に参加したいと思う中学生は減っている (③⑦-2)。休日の過ごし方で、「ボランティア活動」や「公民館など地域の活動」をしている中学生は 0%であったのと関連しており、参加したい気持ちがあっても活動はできていない。

## まとめ

個人生活に関しては「自由時間の過ごし方」を中心にみる。

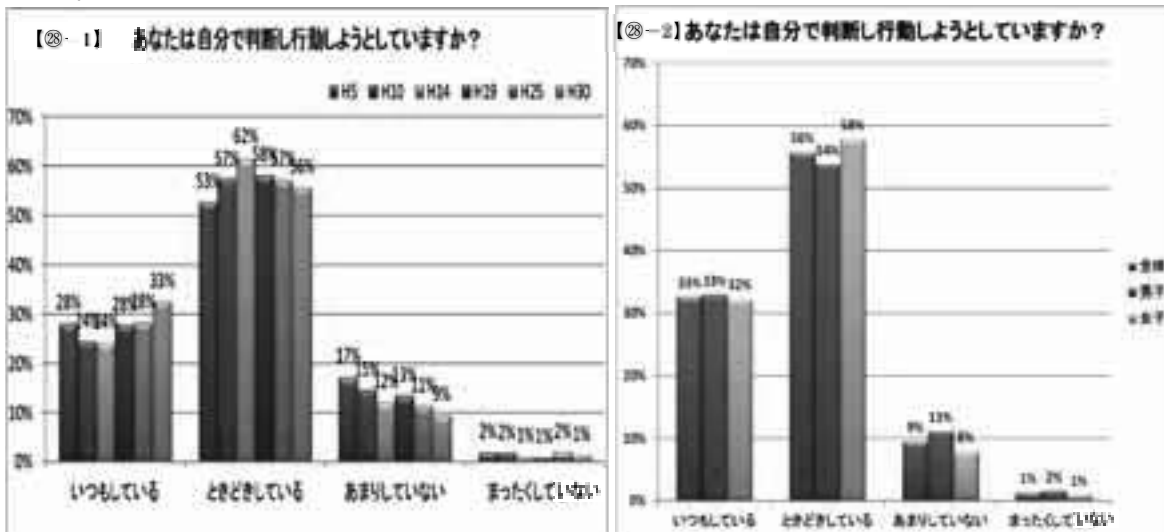
不登校やいじめ問題が懸念される昨今であるが、学校を楽しんでいる中学生が増加していること、また学年が上がるにつれ学校がより楽しい居場所になっている傾向には安堵する。また、家庭を楽しんでいる中学生の割合は前回 9 ポイント上昇したが、今回も引き続き増加している。生活の中心である学校と家庭が楽しい場所である中学生が増えている一方、楽しいと感じる場所が「学校」「家庭」「友達の家」以外の「その他」と答えた中学生が 1 割いる状況には留意すべきである。

休日の過ごし方としては、約 4 割が「部活動やスポーツクラブ」で突出して 1 位である。「テレビやゲーム」「家でゴロゴロしている」が多いのは、家庭を楽しんでいる中学生が増えている状況と関連していると思われる。「読書」が 3 位までの過ごし方のすべてで 3%以下と低い数値は危惧される。「ボランティア活動」や「地域の活動」は 3 位までの過ごし方のすべてで 0%であった。学校支援地域本部事業や地域学校協働活動が推進される中、地域住民が学校に関わる機会は増えていると思われるが、中学生たちが休日に地域社会と関わる時間や機会は上位にはない状況が示されている。部活動やゲームだけではなく、地域の活動に参加したり、読書にいそしんだり、文化芸術にふれたり、多様な過ごし方ができる環境を整え、家庭でも促していく必要がある。

## 5 自己評価

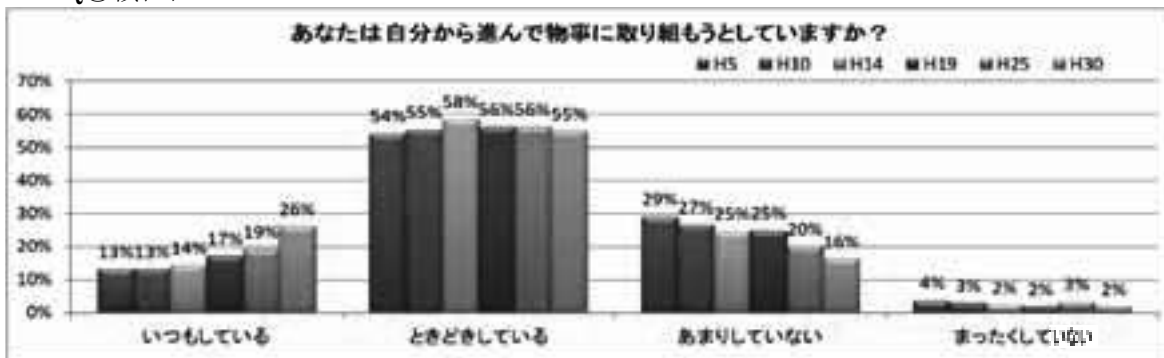
### (1) 自己評価

#### Q⑳ 自主性



自分で判断し行動しようとしているかについては、「いつもしている」「ときどきしている」を合わせた割合は、前回調査より4ポイント増えて89%となっている。全体的に自主性をもって行動しようとしている(㉔-1)。男女別では、男子の方が「あまりしていない」「まったくしていない」割合が少し高い(㉔-2)。「あまりしていない」「まったくしていない」を合わせた割合が10%で、10人に1人が主体的に行動できていない状況には留意したい(㉔-1)。

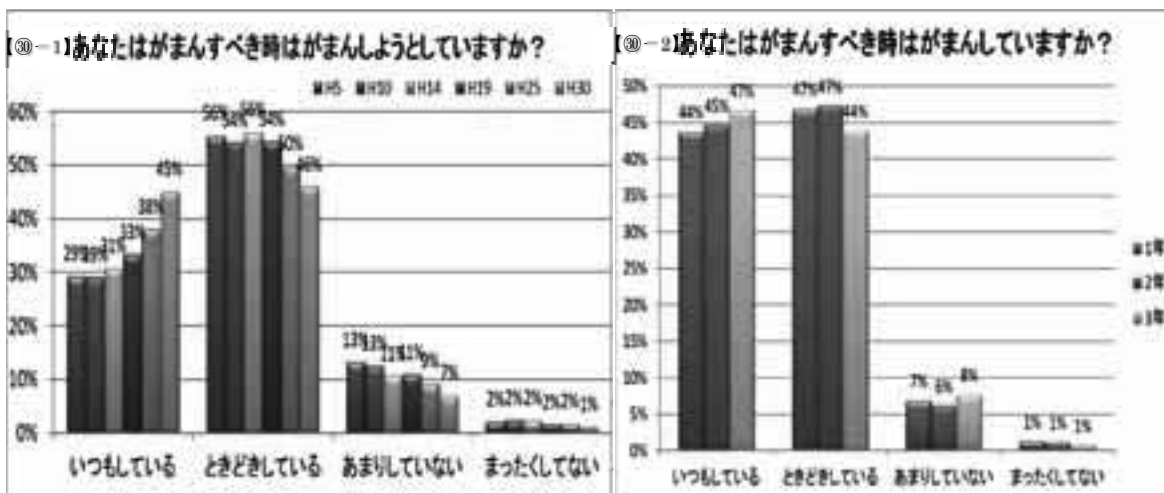
#### Q㉑ 積極性



自分から進んで物事に取り組もうと「いつもしている」割合が前回調査より7ポイント増えている。「いつもしている」「ときどきしている」を合わせた割合は81%で、調査ごとに増加傾向であったが今回初めて8割を超えている。しかしながら、「あまりしていない」「まったくしていない」を合わせた割合は前回の23%から5ポイント減少しているものの、約2割の中学生が積極的に取り組む姿勢がない状況は課題である。



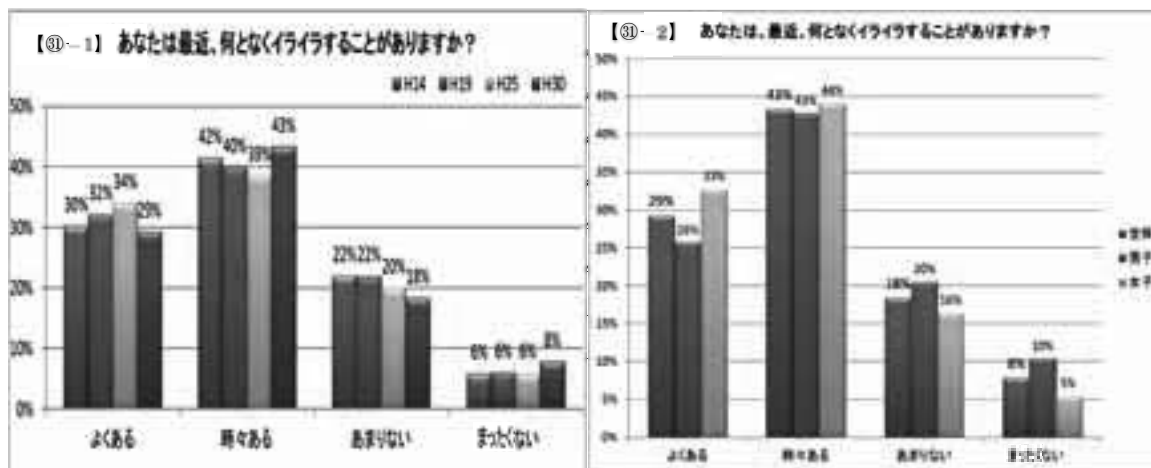
Q⑩ 忍耐力



がまんすべき時はがまんしようと「いつもしている」割合は前回調査より 7 ポイント増えて 45%と半数近くになっている。「いつもしている」「ときどきしている」を合わせた割合も 91%で増加している (⑩-1)。今回、学年差はあまりみられない。「あまりしていない」「まったくしてない」は 3 年生が 9%と最も多い (⑩-2)。忍耐力に欠ける中学生は減少しているものの 1 割近く存在している (⑩-1)。

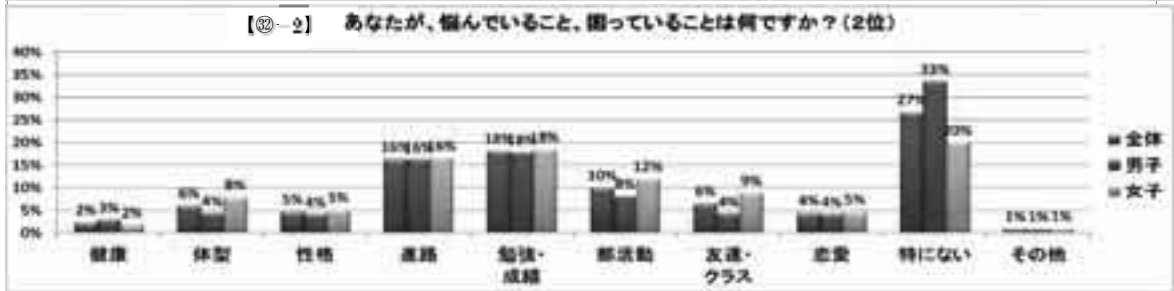
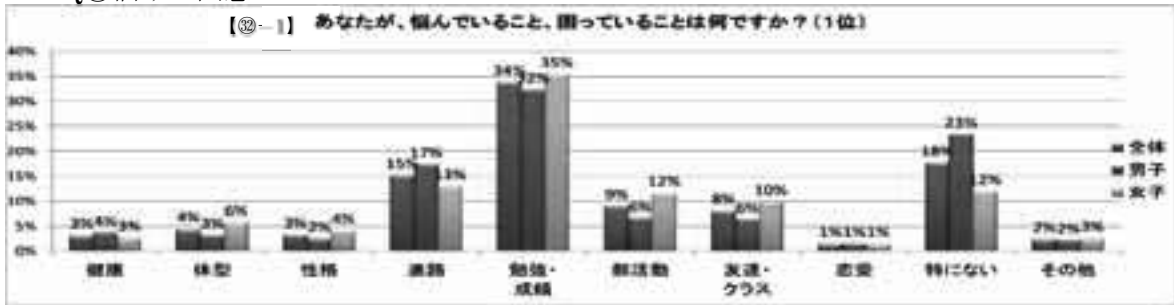
(2) 悩み

Q⑪ イライラ



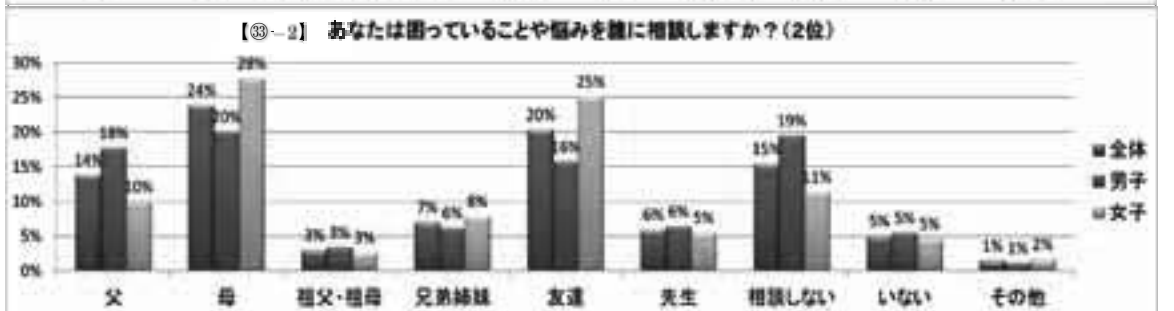
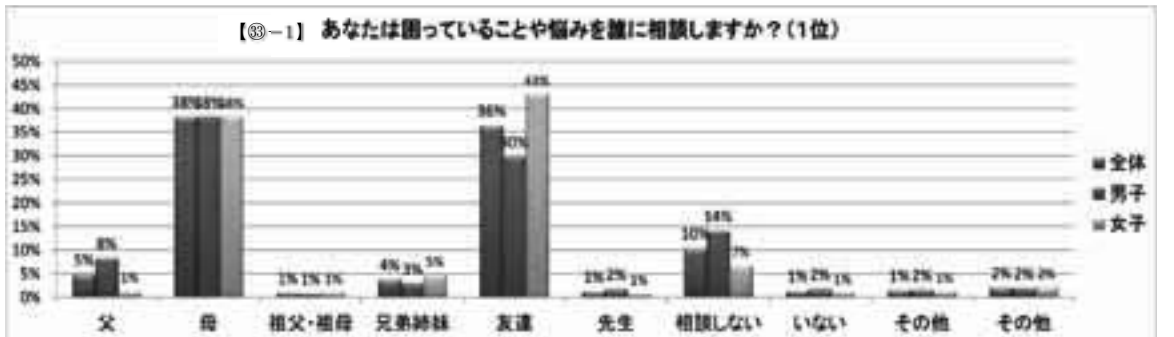
何となくイライラすることが「よくある」と回答した中学生の割合は、前回までは回を重ねるごとに増加していたが、今回は前回から 5 ポイント減少して 29%であった。同時に「まったくない」割合は 2 ポイント増えており、全体としての傾向が好転している (⑪-1)。男女別では、女子の方がイライラすることが多い傾向があり、「よくある」「時々ある」を合わせた割合は、女子が男子より 8 ポイント高くなっている (⑪-2)。

Q③② 悩み・困惑



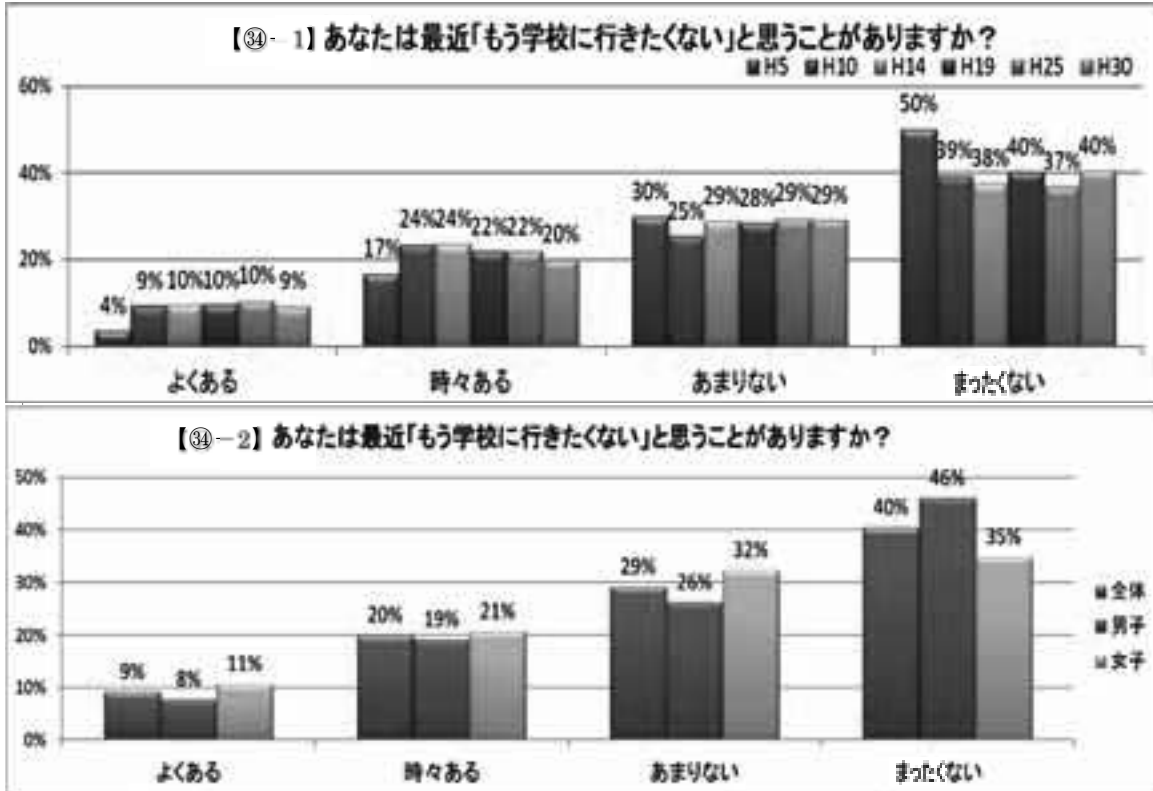
最も悩んでいることの1位は、「勉強・成績」の34%、次いで「進路」であった(③②-1)。男子は、「特にない」が女子の約2倍ある。悩んでいる内容についてみると、女子は「勉強・成績」以外では「部活動」「友達・クラス」「体型」「性格」「恋愛」といった人間関係や自分自身についての悩みが男子よりも高い。

Q③③ 相談相手



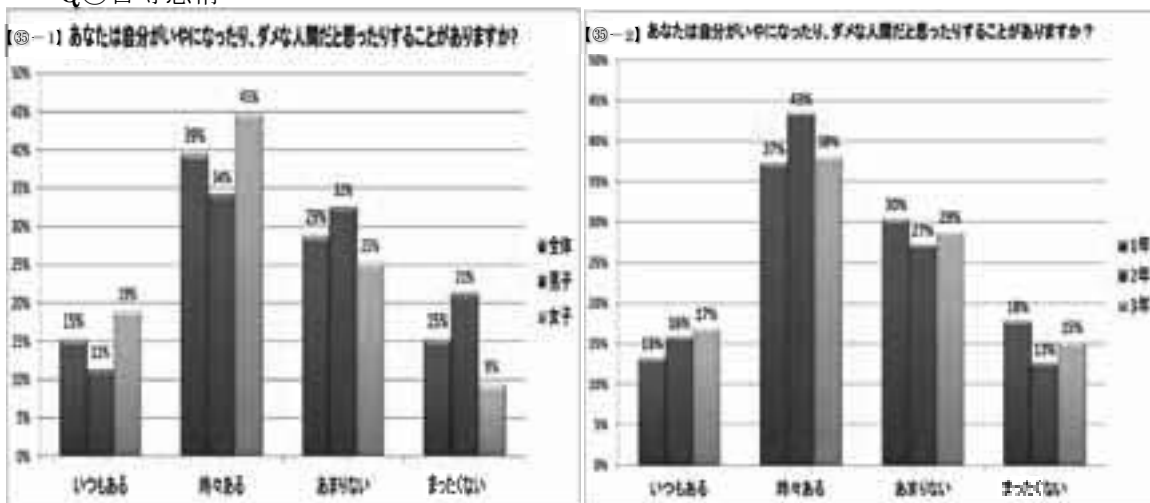
困っていることや悩みを相談する相手について、男子の1位は「母」、次いで「友達」「父」となっている。女子の1位は「友達」、2位は「母」となっている。女子は、「父」に相談するよりも「誰にも相談しない」割合の方が高い。母は男女ともに身近な相談相手となっている。男子の方が「誰にも相談しない」割合が女子より高い。

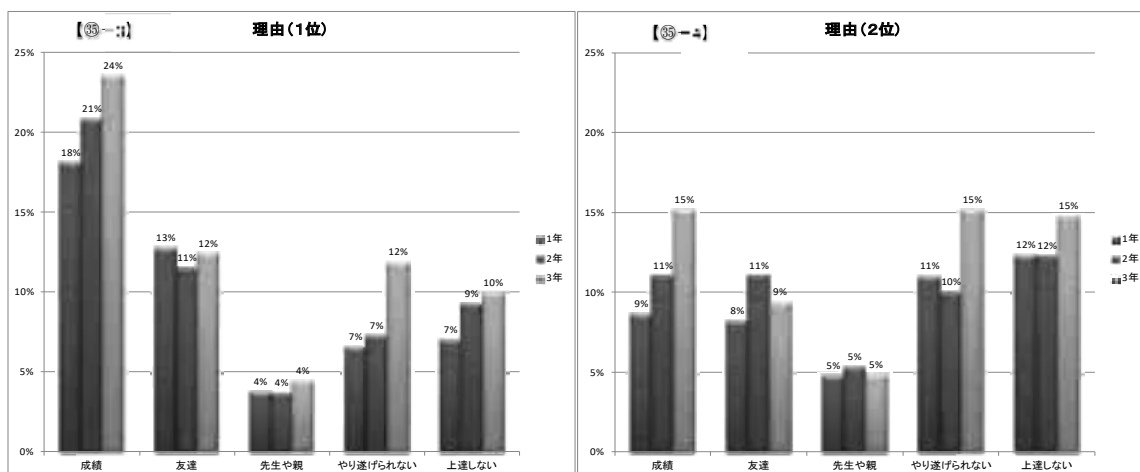
Q③④学校に行きたくない意識



最近「もう学校に行きたくない」と思うことが「よくある」「時々ある」を合わせた割合はほぼ横ばいであったが、今回は前回より3ポイント減少して29%であった。「まったくない」も少し増加しており、この傾向が続くことが望まれる(③④-1)。男女別では、女子の方が行きたくないと感じる割合が高くなっている。イライラすることや悩みが男子よりも多いことが関係していると考えられる(③④-2)。

Q③⑤自尊感情





自分がイヤになったり、ダメな人間だと思ったりするが、「いつもある」「時々ある」と回答した中学生は 54%で、男女別では、女子の方が男子よりもそう思う割合が高い傾向がある (35-1)。学年別では、2年生の「いつもある」「時々ある」の割合が少し高めとなっている (35-2)。

どんな時にそう思うのかという理由については、どの学年においても「成績が上がらない時」が1位で、学年が上がるにつれて割合が上昇している。Q③勉強の目的の1位が「よい成績をとりたいから」と関連していると思われる (35-3.4)。

## まとめ

「自己評価」と「悩み」という視点から中学生の意識を検討する。

自分自身の自主的な判断、積極性、忍耐力については、前向きに努めていると評価している割合が総じて高く、しかも増加傾向にある。しかしながら、自分で判断し行動しようと「していない」、自分から進んで物事に取り組もうと「していない」、がまんすべき時にがまん「していない」中学生は1~2割程度存在しており、この割合には同じ中学生が重複しているとも想像される。この中学生たちに気を留めて支援し、意欲につなげていくことが課題である。

イライラすることや学校に行きたくない意識では、全体としては「ある」が減少して「ない」が増加し、状況がわずかに好転している。この傾向が続くことが望まれる。男女別では、前回同様、女子の方が男子よりもイライラすることや学校に行きたくないと思うことが多い。悩みの内容をみると、「勉強・成績」「進路」が上位にある。これは、Q③勉強の目的が、「よい成績をとりたいから」「希望する学校や会社に入りたいから」という回答が上位であったことと関連していると考えられる。男女の違いもみられ、男子では悩みが「特にない」割合が女子の2倍近かった。また女子は、「部活動」「友達・クラス」など人間関係に関する悩みが特に男子より多い。相談相手の上位は「母」と「友達」であるが、女子の1位は「友達」、男子の1位は「母」である。ともに「母」は相談相手として上位で、身近な相談相手として大切な存在であることがうかがえる。男子の約2割は「父」にも相談しているが、女子は「父」は1割程度となっている。男子の方が「誰にも相談しない」割合が高い。

自尊感情については、これまでの調査とほぼ同様の割合で、自分がイヤになったりダメだと思ったりすることが「いつもある」「時々ある」と回答した中学生が半数を超えている。その理由の1位は「成績」で、これについてもQ③勉強の目的との相関関係が推察される。

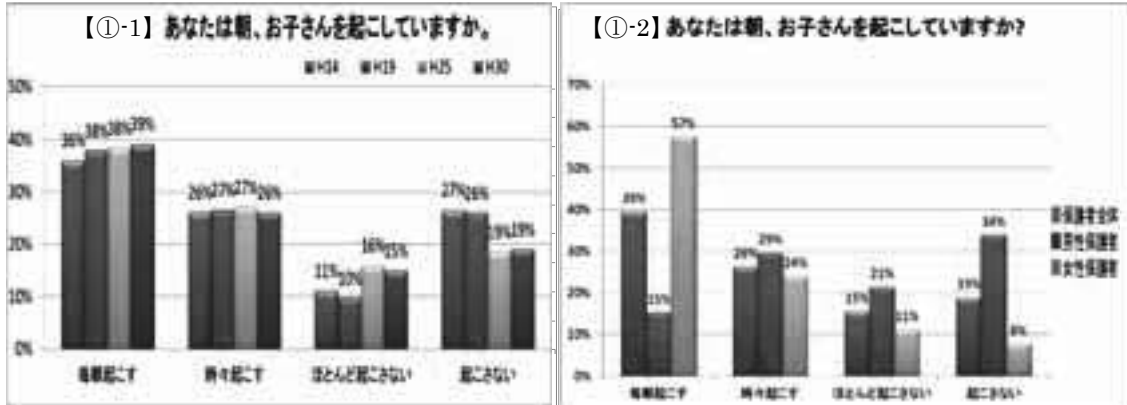
学年が上がるにつれて「成績」の割合が上昇していることから、進学や受験に徐々に意識が向かっていることがうかがえる。Q⑦で将来や人生のことについて、女性保護者と約8割の子ども、男性保護者と約5割の子どもが「話す」と回答していたことと合わせて考えると、中学生にとって保護者の役割は養育だけでなく相談相手としても重要であることが改めて分かる。

### 第3章 保護者の家庭教育の実態

#### 1 家庭生活

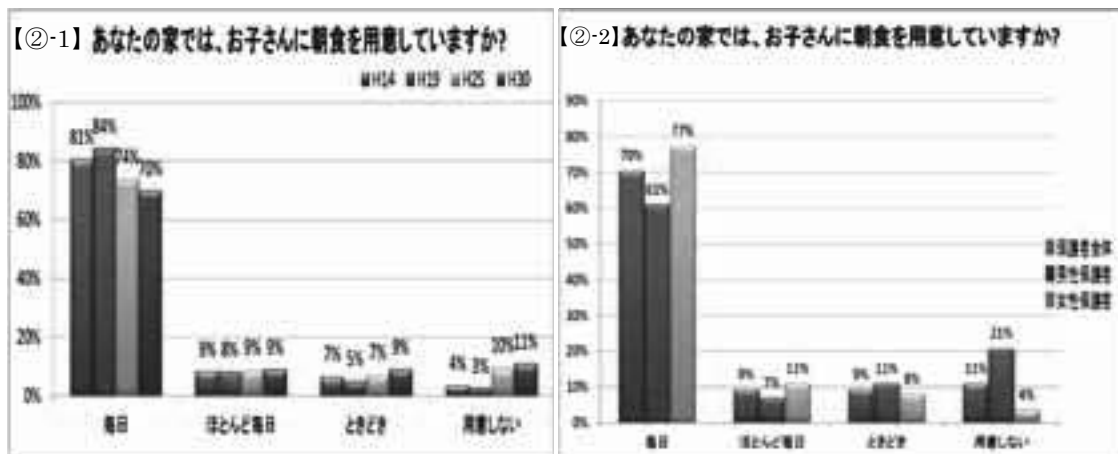
##### (1) 基本的な生活習慣

##### Q①起床



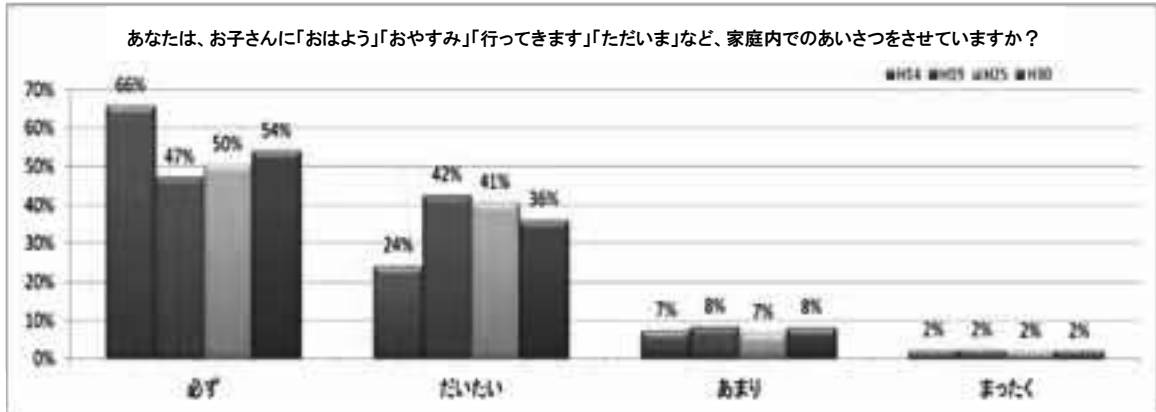
「朝、子どもを起こすか」という問いについては、前回調査とほぼ同じ傾向で、「毎朝起こす」「時々起こす」を合わせた割合は65%となっている。「毎朝起こす」割合だけでも4割ある(①-1)。「毎朝起こす」のは約6割が女性保護者であることも前回と同様である(①-2)。中学生の調査では早寝早起きの習慣が改善している傾向がみられたが、保護者に促されて改善している中学生も少なくないということが分かる。保護者が起こさなくても子どもが自分自身で起床する習慣を身につけるようにしたい。

##### Q②朝食



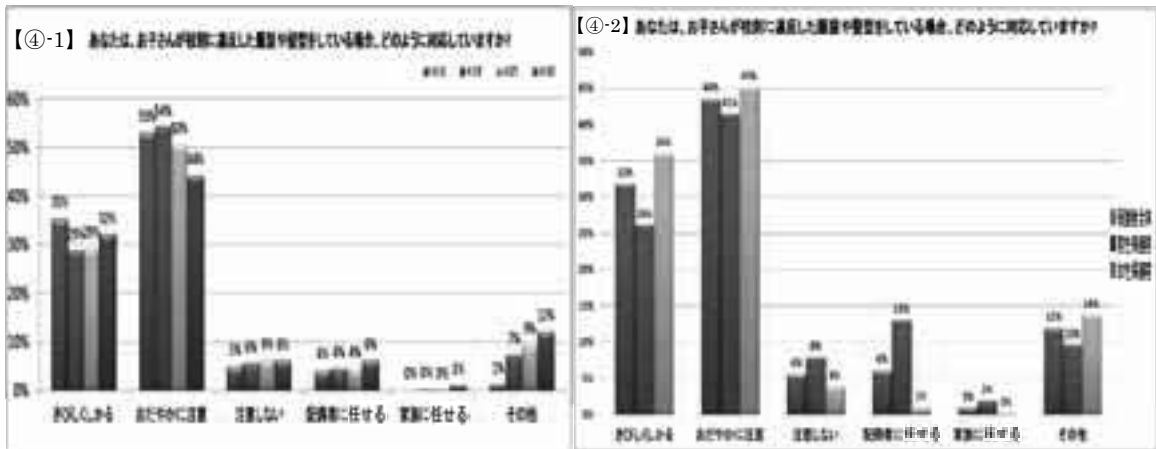
「子どもに朝食を用意しているか」という問いについては、「毎日用意する」という保護者の割合は70%で、前回調査で10ポイント減少していたが、今回もまた減少し、約10年間で14ポイント下がっている。「ほとんど毎日」と合わせると79%である。同時に「用意しない」という保護者は、平成19年度調査では3%であったが、今回は11%で1割を超えている(②-1)。

Q③あいさつ



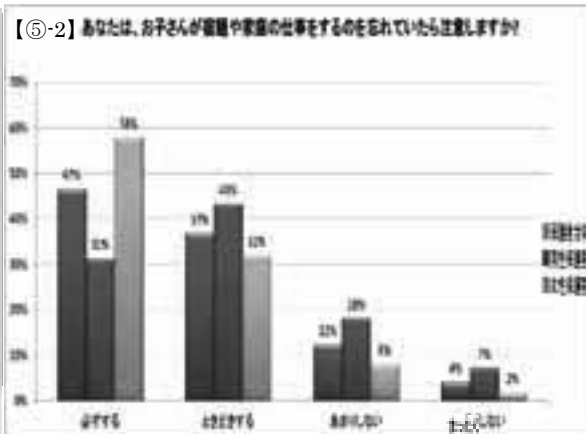
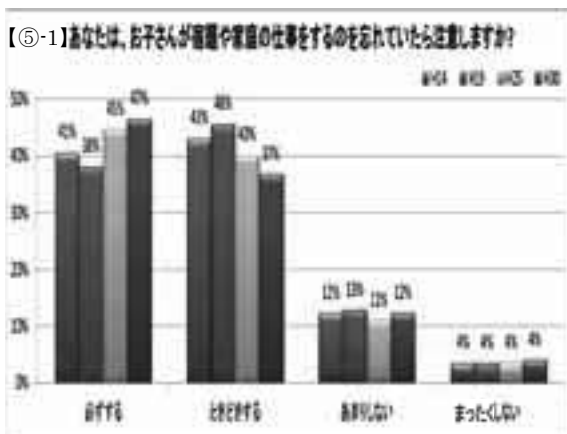
あいさつのしつけについて、家庭内でのあいさつを「必ずさせている」「だいたいさせている」を合わせると 90%である。中学生の調査で、日常のあいさつを「いつもする」「時々する」を合わせた割合が 90%であったことと合致する数値となっている。全体としてはかなりよい状況ではあるが、1割の保護者があいさつを「あまりさせていない」「まったくさせていない」と回答しており、保護者への啓発は引き続き大切である。

Q④校則違反



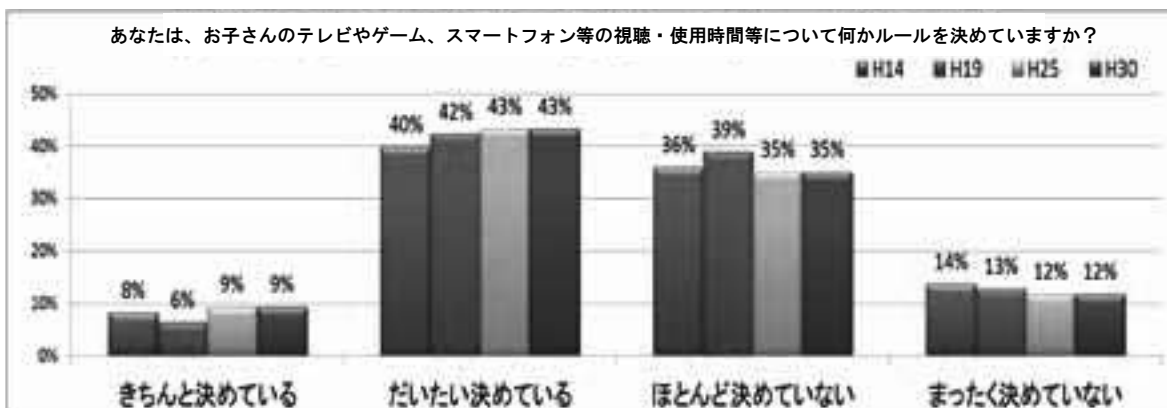
校則違反への保護者の対応については、「おだやかに注意する」割合が 44%で最も多いが前回調査より 6ポイント減少している。次いで「きびしくしかる」割合が 32%で、前回調査より 3ポイント増加している。これらの子どもを自ら注意する割合は、調査を迫うごとに減少する傾向である。「特に注意しない」保護者は前回同様 6%である（④-1）。男性保護者は、「特に注意しない」割合が 8%、「配偶者に任せる」割合が 13%で女性保護者よりもかなり高くなっている。中学生の調査で、男性保護者よりも女性保護者の方がしつけについて「あまりあまくない」「きびしい」と回答した中学生の割合が高い傾向であったことと結びつく結果である（④-2）。

### Q⑤宿題・家庭の仕事忘れ



宿題や家庭の仕事をしていない場合に、注意を「必ずする」割合が最も多く、前回よりも少し増えて47%となっている。「必ずする」「ときどきする」を合わせて84%の保護者が注意している。残りの16%が「あまりしない」「まったくしない」という数値は気になる(⑤-1)。女性保護者は「必ずする」「ときどきする」を合わせた割合は90%であるが、男性保護者は74%と16ポイント少ない。男性保護者は注意を「あまりしない」「まったくしない」を合わせた割合が25%で、4人に1人があまり注意していないことが分かる。家庭での日常の場面では、しつけは主に女性保護者が担っている状況がうかがえる(⑤-2)。

### Q⑦テレビ・ゲームのルール

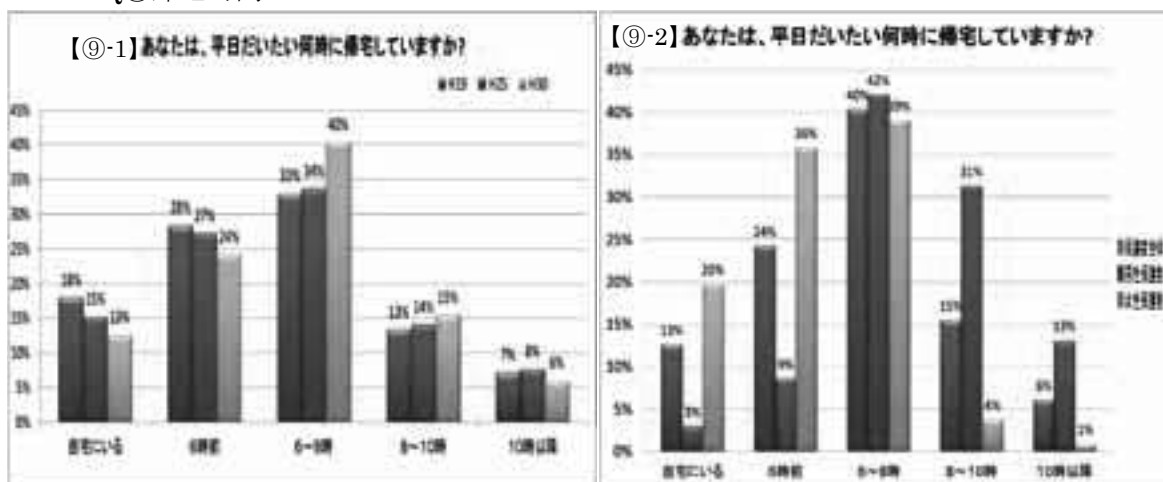


テレビやゲーム、スマートフォン等の視聴・使用時間等のルールについて、「きちんと決めている」割合も「だいたい決めている」割合もともに増加傾向で、合わせると62%となっている。中学生のゲーム、スマートフォン等との接触時間が増え、深夜まで使用している中学生も一定数いる状況の中で、前回に続いて望ましい傾向である。ただ、「ほとんど決めていない」「まったく決めていない」を合わせた割合は前回より10ポイント減少したものの37%であり、引き続き保護者の意識を高める必要がある。



## (2) 仕事と生活

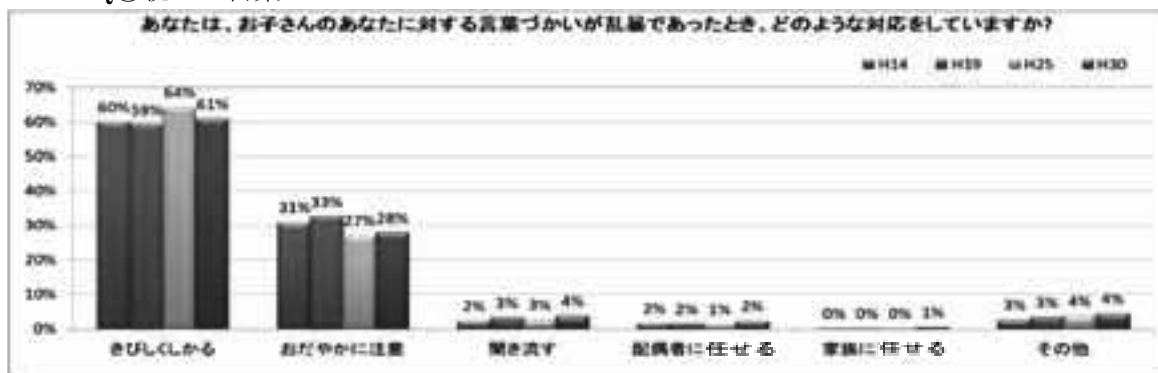
### Q⑨帰宅時間



保護者の平日の帰宅時間は、前回調査に続いて男性・女性保護者とも少しずつ遅くなっている傾向がみられる。午後 8 時以降に帰宅している保護者は前回、前々回とほぼ一定で 21%いる (⑨-1)。午後 8 時までには帰宅している女性保護者の割合は 95%だが、男性保護者は 54%である。午後 10 時以降に帰宅している男性保護者は 13%で前回より少し減少しているものの 1 割以上はいる。中学生の調査で、男性保護者の存在について「生活費をかせいでくれる人」という回答をした中学生の割合が 12%であることとの関連も想像される。時間的にも、しつけの多くを女性保護者が担わざるをえない状況がうかがえる (⑨-2)。

## (3) 言葉づかい

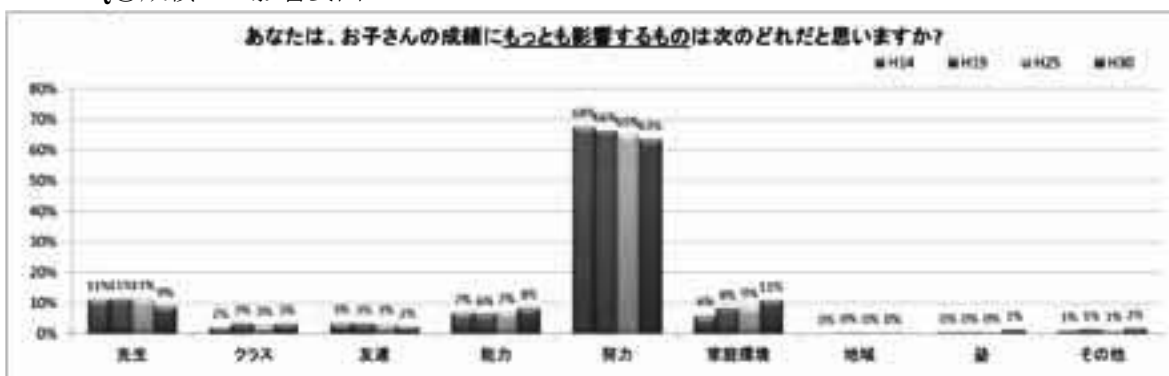
### Q⑥親への言葉



保護者に対する言葉づかいが乱暴であったときには「きびしくしかる」割合が最も高く 61%である。この数値は、校則違反を「きびしくしかる」割合の 2 倍近い。「おだやかに注意する」割合と合わせると 89%で、9 割の保護者が何らかのしつけの行動をとっており、保護者自身に対する態度にはより厳格に対処していることが分かる。

#### (4) 学習

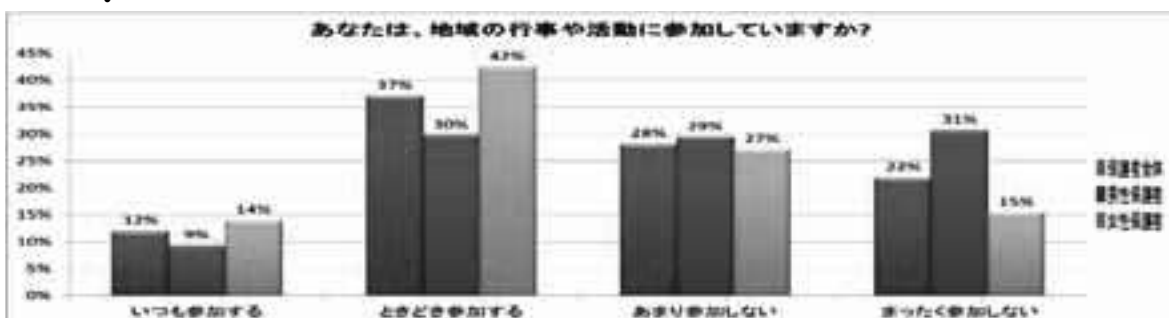
##### Q⑧成績との影響要因



成績に影響するものとしては「本人の努力」と回答した保護者が最も多く 63%であるが、調査ごとにその割合はわずかに減少してきている。半面、「家庭環境」の割合は少しずつ増え、今回初めて1割を超えている。

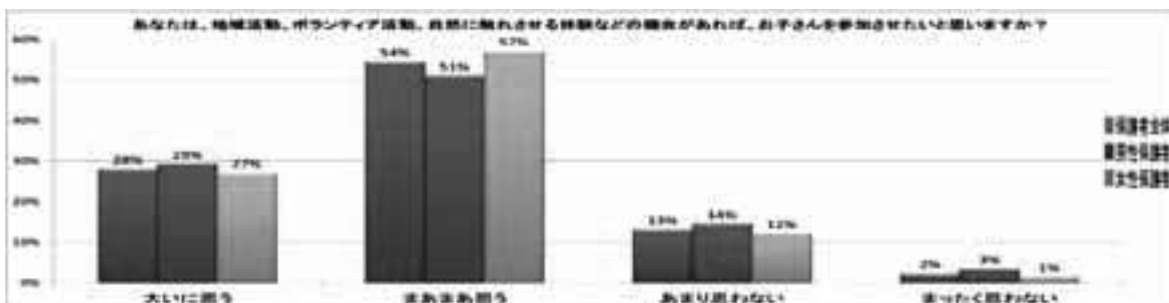
#### (5) 地域との交流

##### Q②地域の行事への参加



地域行事に「いつも参加する」「ときどき参加する」と回答した保護者は合わせて49%で過半数を割り、前回調査より7ポイント減少している。参加率は女性保護者の方が17ポイント高く、男性保護者は31%が「まったく参加しない」と回答している。保護者の地域との結びつきは弱くなってきている様子が見える。

##### Q③地域活動などへの参加



地域活動、ボランティア活動、自然に触れさせる体験などに子どもを参加させたいかについては、「大いに思う」「まあまあ思う」を合わせると82%が参加させたいと回答している。保護者の多くが、子どもを地域活動等に参加させたいと考えている。

## まとめ

保護者の養育態度や意識について、家庭生活における「基本的生活習慣」「保護者の帰宅時間」「言葉づかい」「成績の影響要因」「地域との交流」という視点からみしてみる。全体としては、特に女性保護者がより積極的にしつけに関わっている様子が見えてくる。よりよい生活習慣のために対応している保護者が大半ではあるものの、生活習慣づけを行っていない保護者も変わらず一定数いることが課題である。

中学生の調査では、早寝早起きの習慣に改善の傾向が見られるが、保護者が起こしていることが少なくないのが実態である。起こされなくても子どもが自分で起床するようしつけることが大切である。朝食については、約8割の保護者は「用意している」が、「用意しない」保護者が少しずつ増えてきている。保護者の帰宅時間が遅くなっている傾向もあるので、朝食の用意の時間にも仕事の影響が出てきているのかもしれない。「用意しない」約1割の家庭については、啓発や支援が必要かと思われる。また、中学生ともなれば、経済的な問題は別として、保護者が用意できなくても自分で食事を済ませて出かけるくらいにはできるようにしたいものである。

コミュニケーションの基本である家庭内でのあいさつについては、9割の保護者はするようにしているが、1割は「させていない」と回答している。最も身近な大人のモデルである保護者にあいさつの意識がなければ、子どもにあいさつの習慣が定着することが難しくなる。保護者への啓発とともに、学校や地域でのあいさつ運動などにも期待したい。校則違反については、「おだやかに注意する」が最も多く「きびしくしかる」と合わせて何らかの対応をしている保護者が76%である。特に男性保護者は「配偶者に任せる」「注意しない」割合が女性保護者より多い。宿題や家庭の仕事を忘れている場合に注意をする割合は84%で、校則違反よりも気にかけて対応しているが、注意をしていない保護者が16%存在していることは気がかりである。

中学生のゲームやスマートフォン等メディアとの接触時間が増えている状況の中で、家庭で使用時間等に何らかのルールを決めている割合は6割を超え、漸増していることは好ましい傾向である。しかしながら4割近い家庭ではルールを決めていない。メディアへの依存やさまざまなトラブルの原因になる等の課題も出てきていることから、保護者の意識を高めていく啓発活動と同時に、家庭と学校が協力して対応することが必要であろう。

保護者の帰宅時間については、男女ともに遅くなる傾向が続いている。特に男性保護者の4割以上が午後8時以降に帰宅するという状況は前回調査と変わらない。ワーク・ライフ・バランスを考慮した働き方ができることが望ましいが、子どもと関わる時間が減少してきている現状で、保護者は限られた時間を有効に使う意識も求められる。保護者に対する言葉づかいに関しては、9割の保護者が「きびしくしかる」か「おだやかに注意する」等何らかの対応をしている。

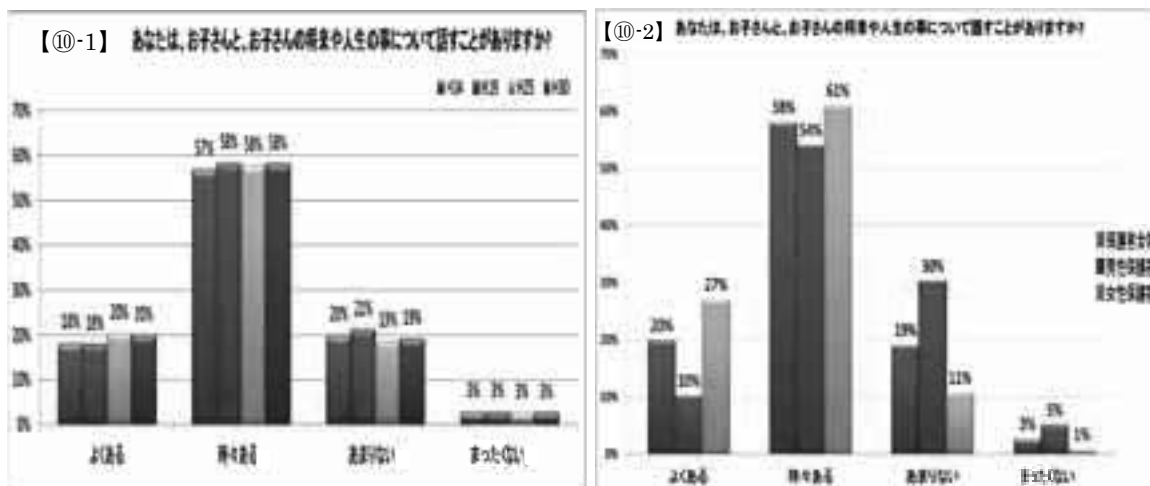
中学生の成績にもっとも影響しているものについては、「本人の努力」が6割で最も多いものの減少傾向である。「家庭環境」が徐々に増えて1割を超えている。家庭での学習環境を整えてやることが重要だと考える保護者が増えつつある。

地域との交流では、保護者の地域行事への参加が減少傾向である。それでも女性保護者は6割近くが参加しているのに比べて、男性保護者の参加は4割にも届かない。「まったく参加しない」男性保護者は3割である。帰宅時間が遅い傾向とも関係していることが考えられるが、地域全体での子育てを推進している中で、保護者自身も地域と連携する意識を持って行動することが大切であろう。

## 2 保護者と子どもの交流

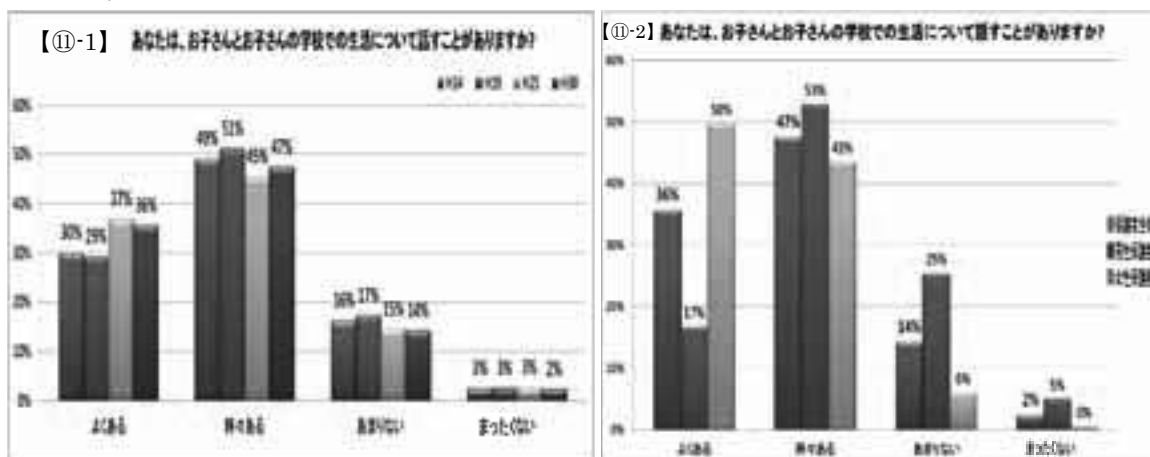
### (1) 日常会話

#### Q⑩将来・人生の話



子どもと将来や人生のことについて話すことが「よくある」「時々ある」を合わせると78%で、経年変化でもあまり変化はない。「あまりない」「まったくない」を合わせた割合は22%である(⑩-1)。男性保護者だけでみると35%である(⑩-2)。また、中学生の調査結果と照らしてみると、全体的に子どもが保護者と「話す」と回答した数値よりも保護者の数値の方が高く、保護者はより話していると思う傾向がみられる。

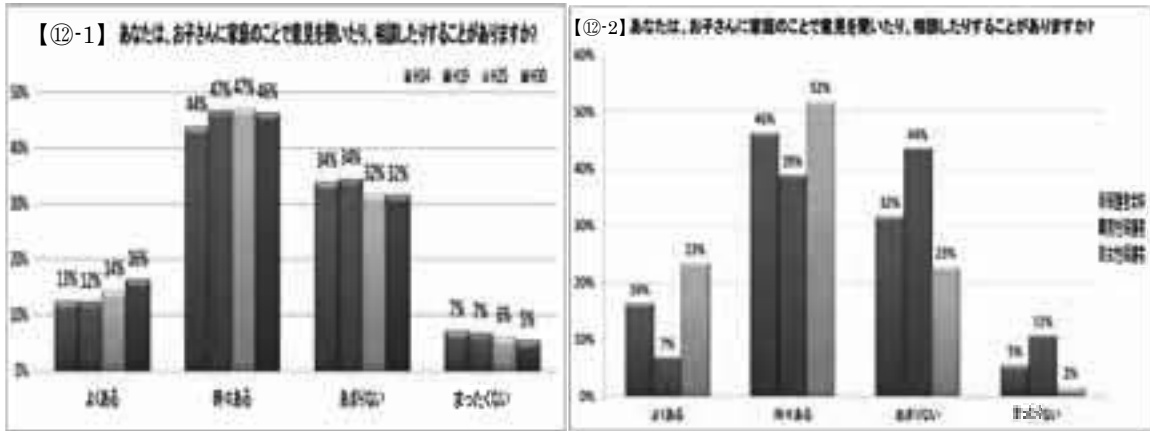
#### Q⑪学校生活の話



子どもと学校での生活について話すことが「よくある」「時々ある」を合わせると83%で、全体では調査を追うごとに微増している(⑪-1)。ただ、「よくある」と回答した割合は女性保護者が50%、男性保護者は17%で大きな差がある。「あまりない」「まったくない」と回答した男性保護者は合わせて30%である。中学生の調査結果と重なる傾向が出ているが、全体的に子どもが保護者と「話す」と回答している数値よりも保護者の数値の方が高く、保護者は結構話しているとも子どもはそうは思っていない場合もあることが考えられる(⑪-2)。

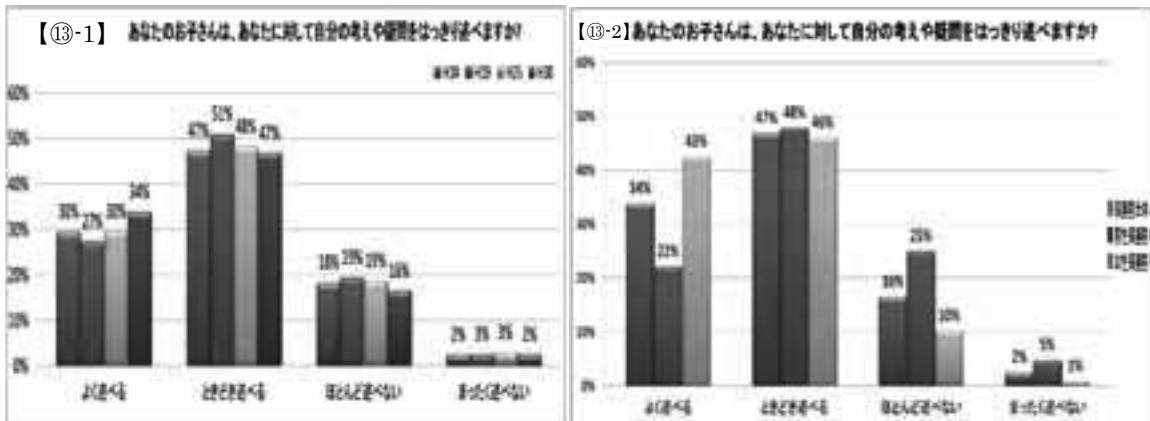
(2) 意見交換

Q⑫子どもへの聴取や相談



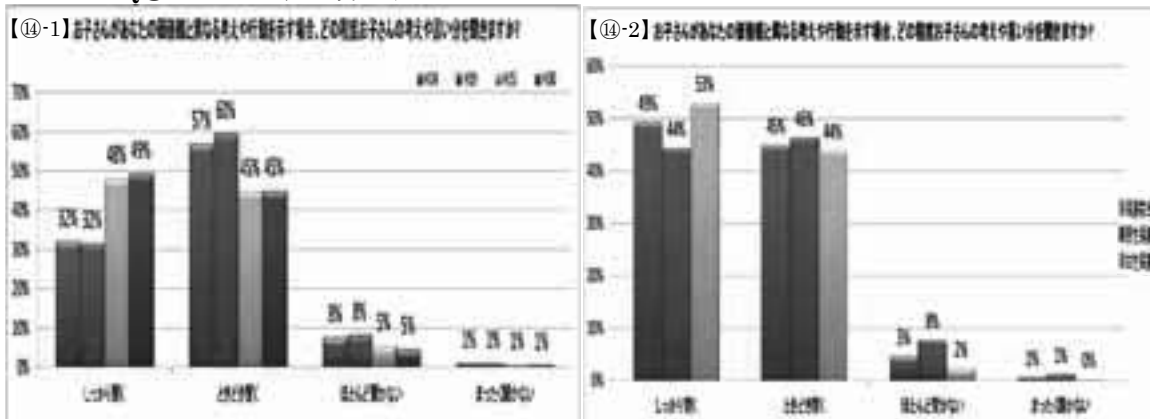
子どもに家庭のことで意見を聞いたり、相談したりすることが「よくある」「時々ある」を合わせた割合は62%で、調査を追うごとに少しずつ増えている(⑫-1)。男女別では、女性保護者は75%で男性保護者より29ポイントも高い(⑫-2)。

Q⑬親への意見



子どもが保護者に対して自分の考えや疑問をはっきり述べるかについては、「よく述べる」が前回調査より4ポイント増え、「ときどき述べる」と合わせると81%となっている(⑬-1)。男女別では、「よく述べる」割合は女性保護者が男性保護者の約2倍である(⑬-2)。

Q⑭子どもの言い分を聞く



子どもが保護者と異なる考えや行動を示す場合に、子どもの考えや言い分を「しっかりと聞く」保護者は前回調査でかなり増加していたが、今回も前回とほぼ同様の数値で 49%と半分の保護者がよく聞いている結果となっている (14-1)。「ときどき聞く」と合わせると 94%である。中学生の調査結果では「聞いてくれない」数値がもう少し高いものの、傾向はほぼ重なっている (14-2)。

## まとめ

保護者と子どもの交流について、「日常会話」「意見交換」という視点でみる。全体的に保護者は子どもと交流できていると回答している割合が高い。また会話や意見交換の割合は増加傾向である。しかしながら、前回と同様、中学生が思っている数値の方が保護者の回答した数値よりも少し辛くなっており、中学生は保護者が思っているほどには交流できていないと感じている実態がみえる。

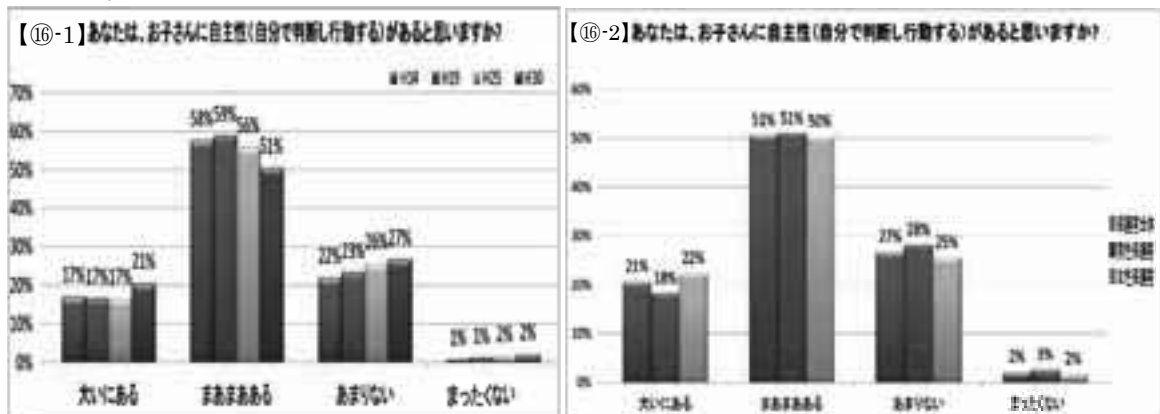
保護者の男女別でみると、これまで同様、女性保護者と中学生との交流の割合はかなり高いが、男性保護者は3~4割が日常的にあまり話せていない状況がある。男性保護者の方が総じて帰宅時間が遅い傾向であることとも関連していると思われる。

ただ全体としては、より子どもの意見や言い分をしっかりと聞く保護者が増えており、子どもの立場からするとより話しやすい保護者、自分の考えを受けとめてくれる保護者が増えているといえよう。

### 3 子どもの評価

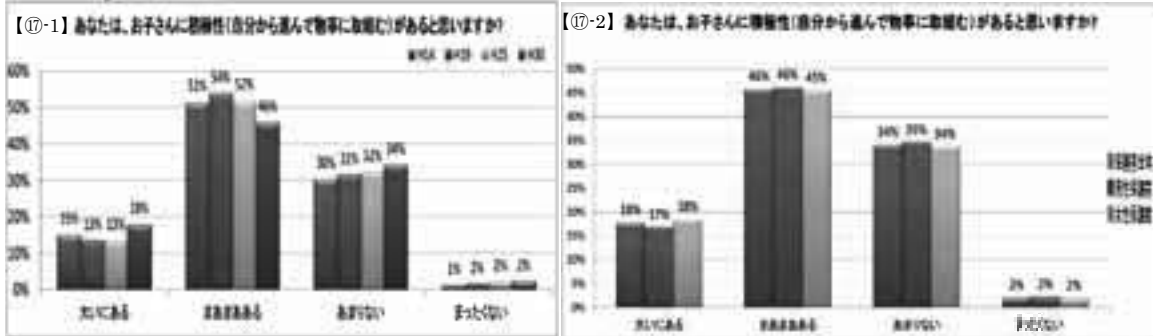
#### (1) 子どもの意識や生活

##### Q16 自主性



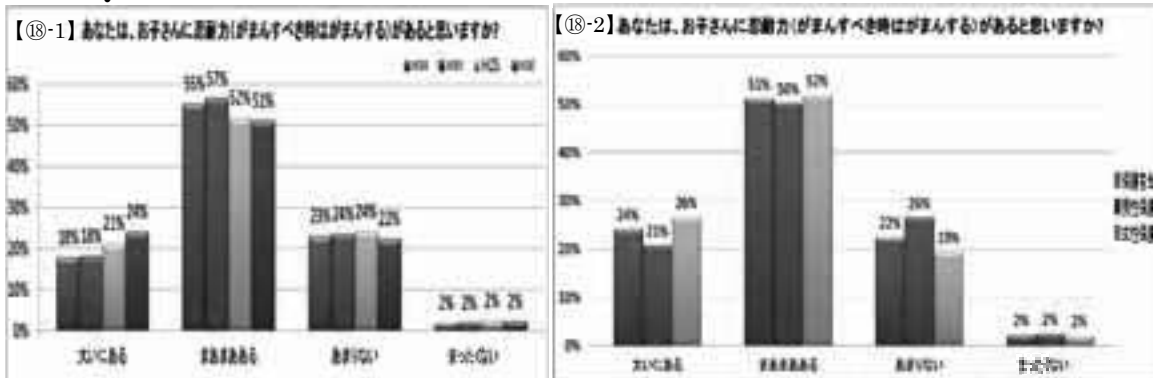
子どもに自主性が「大いにある」と回答した保護者は前回より 4 ポイント増えて 21%で、「まあまあある」と合わせると 72%である。「大いにある」は少し増えたものの、「まあまあある」と合わせた割合は平成 19 年度調査以降下がっている (16-1)。男性保護者と女性保護者の評価はあまり変わらないが、女性保護者の方が自主性があると回答する割合がわずかに高い。中学生の調査結果と照らしてみると、中学生は自分に自主性があると思っている割合が保護者の回答した割合より全体的に高い傾向がみられる (16-2)。

### Q17 積極性



子どもに積極性が「大いにある」「まあまあある」と回答した保護者の割合は合わせて64%で、前回よりも「大いにある」が少し増えたものの、全体としては平成19年度調査以降下がっている。「あまりない」「まったくない」と回答した保護者は合わせて36%であるが、中学生の調査結果では、自分から進んで物事に取り組もうと「あまりしていない」「まったくしていない」を合わせると18%であった。保護者の評価の方が厳しい傾向がみられる(17-1)。

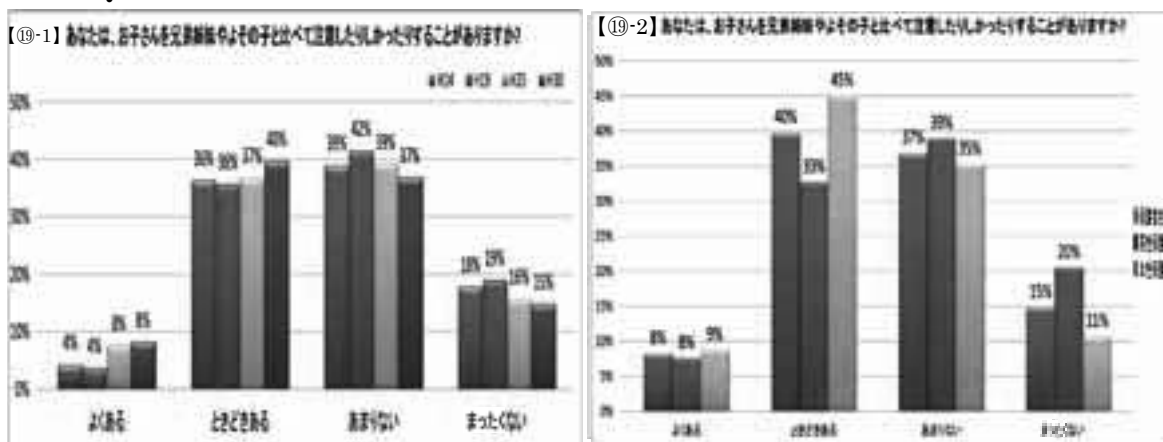
### Q18 忍耐力



子どもに忍耐力が「大いにある」と回答した保護者が前回調査よりも3ポイント増加して24%であった。「まあまあある」と合わせると75%で、前回調査では減少傾向であったが今回は少し持ち直している(18-1)。男性保護者の方が女性保護者よりもやや評価が厳しい(18-2)。中学生の調査では、がまんすべき時はがまんしようと「いつもしている」割合が45%で、保護者の「大いにある」という回答よりも21ポイント高くなっている。

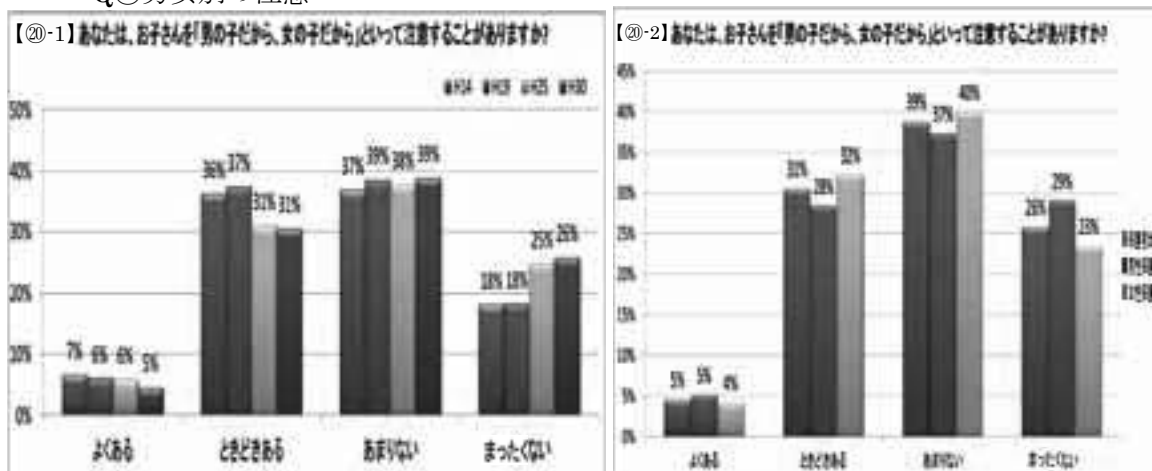
(2) 接し方

Q⑱他の子との比較



子どもを兄弟姉妹やよその子と比べて注意したりしかったりすることが「よくある」「ときどきある」と回答した保護者の割合は前回調査で上昇したが、今回は前回よりさらに3ポイント増えて48%となり、保護者の約半数である(⑱-1)。女性保護者の方が男性保護者よりも他者と比べて注意したりしかったりする割合が高い傾向がみられる(⑱-2)。

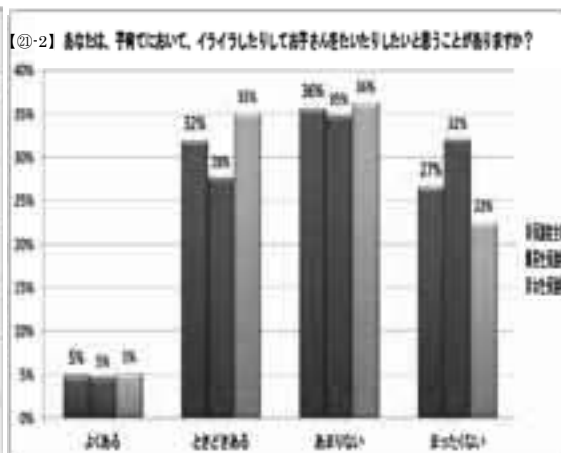
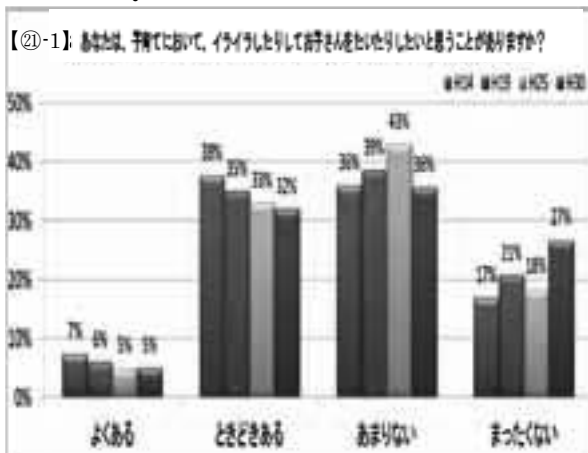
Q⑳男女別の注意



子どもを「男の子だから、女の子だから」といって注意することが「よくある」「ときどきある」を合わせた保護者の割合は平成19年度以降減少傾向で、今回は36%であった。保護者の意識も少しずつ変化してきていると思われる。



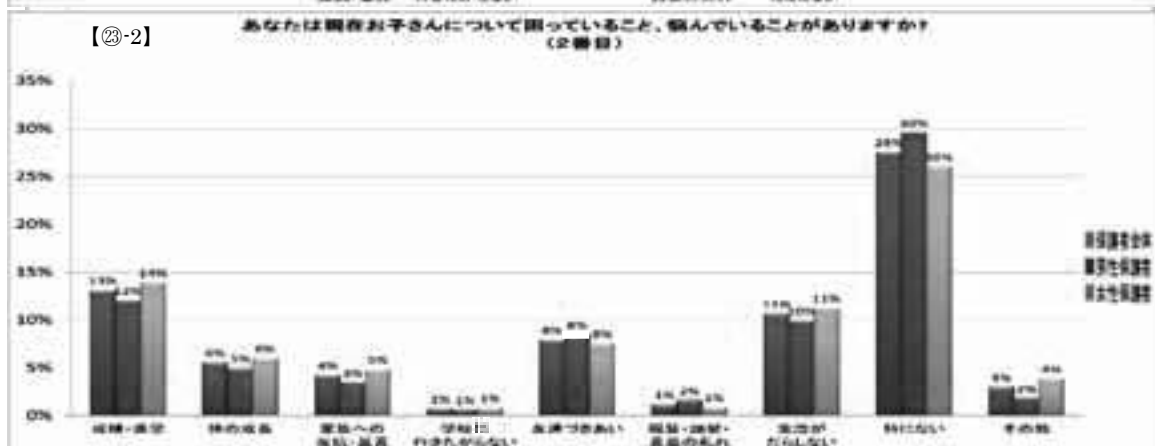
## Q⑫腹が立つ



子育てにおいて、イライラして子どもをたたきたいと思うことが「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は 37%で、調査を重ねるごとに減少している (⑫-1)。「まったくない」と回答した保護者は 27%で、平成 14 年度調査の 17%より 10 ポイントも上昇している。男性保護者よりも女性保護者の方が「ある」割合が少し高い (⑫-2)。日常的により接している分、腹が立つ場面も多いのかもしれない。

## (3) 悩み

### Q⑬子どもに関する悩み



子どもについて保護者が一番困っていること、悩んでいることは「成績・進学のこと」で48%となっている。次いで「生活がだらしくやる気がない」「友達づきあい」が続く。前回調査では「友達づきあい」が二番目に多かったが、今回は「生活がだらしない」が若干上回っている。「特にない」と回答している保護者もかなりいるが、男性保護者の方が少し多い。

## まとめ

保護者の子どもに対する評価について、「子どもの意識や生活」「接し方」「悩み」という視点からみてみる。

中学生の「自主性」、「積極性」についての保護者の評価は、平成19年度調査以降は低下傾向が続いている。「忍耐力」については前回調査までは減少していたが、今回は少し持ち直している。全体的に男性保護者の評価の方が女性保護者よりも少し厳しい。また、中学生の調査結果と照らし合わせてみると、全体的に保護者の評価の方が子どもの自分自身に対する評価よりも辛くなっている。子どもの自己評価は若干あまいのかもしれない。あるいは、保護者の見ていない部分、知らないところで努力しているのかもしれない。

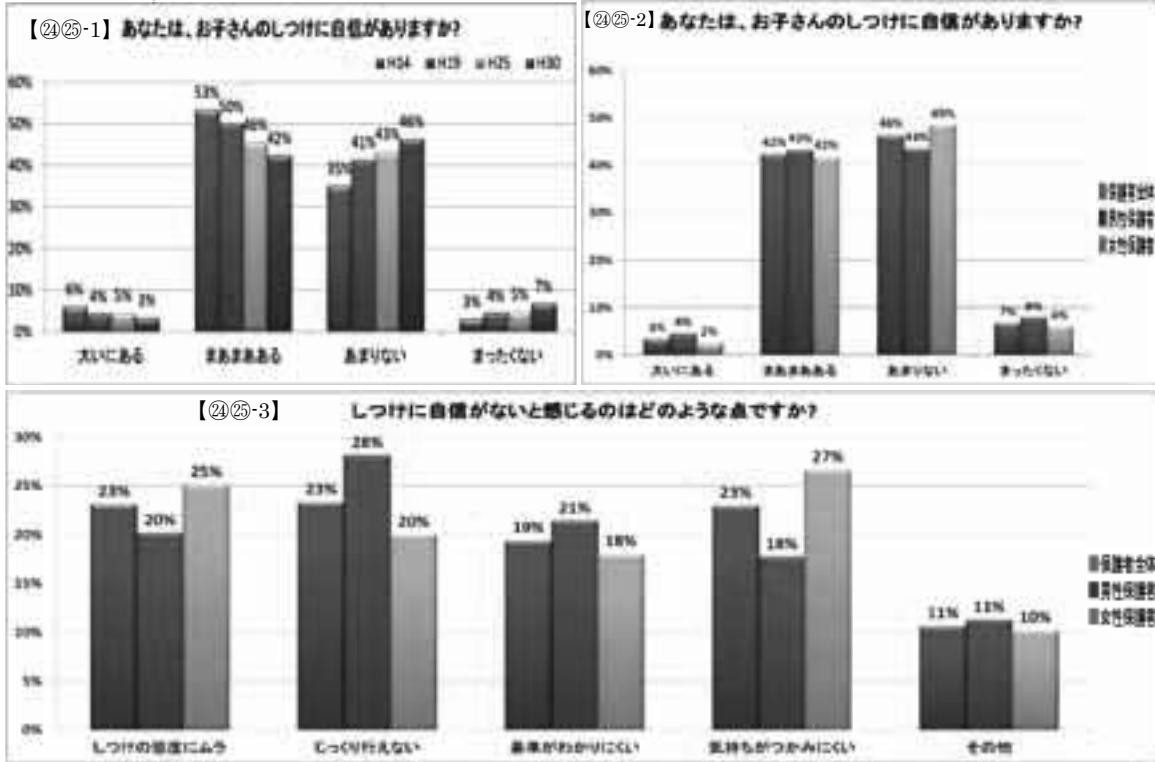
子どもとの接し方では、他の子どもと比べて注意したりしかったりする保護者が増えている傾向がみられる。特に女性保護者の54%と半数以上が「よくある」「ときどきある」と回答している。子どもは比較されることを嫌がる傾向があり、劣等感を抱くきっかけにもなることから、保護者も留意が必要である。「男の子だから、女の子だから」といって注意する保護者は4割以下で減少が続いている。家庭教育でも、性別にかかわらず能力や個性を伸ばしてやりたいという意識が広がってきているものと思われる。子どもに対して手をあげるほど腹が立つことが「よくある」「ときどきある」と回答した保護者は、調査を重ねるごとに減少しているものの4割近くいる。「ある」が減少している傾向は、子どもとの会話や交流が増えている傾向と相関関係にあることが想像されるので、会話の時間や気持ちのゆとりが持てるような環境が引き続き求められる。

子どもに関する悩みでは、これまでと同様に「成績・進路のこと」が第1位であり、子どもの悩みの1位・2位と重なっている。男性保護者よりも女性保護者の方が悩んでいる傾向がある。子どもと将来や人生のことについて話すこと、学校での生活について話すことが男性保護者よりも女性保護者の方が多い分、一緒に悩んだり、イライラしたりすることも多いのではないだろうか。男性保護者と女性保護者が相談し合うことはもちろんだが、保護者が悩みを相談できる他者の存在や支援も必要であろう。

#### 4 養育態度

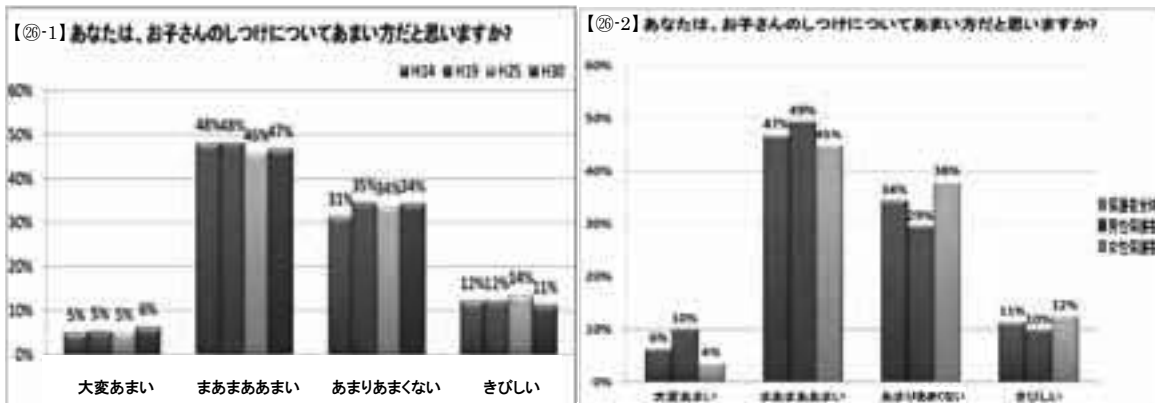
##### (1) 親の意識

###### Q⑭⑮ しつけの自信



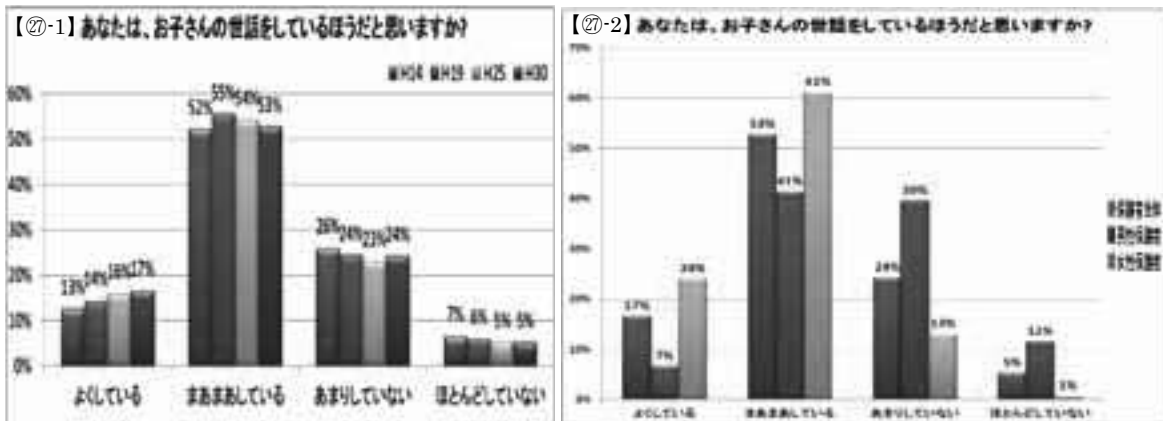
しつけの自信について、経年変化では「大いにある」「まあまあある」を合わせた割合の減少が続いてきたが、今回初めてその割合が45%となり半数を割っている。自信が「あまりない」「まったくない」保護者の方が多くなったということである(⑭⑮-1)。自信がないと感じる理由については、全体としては「気分や感情に左右され、しつけの態度にムラがある」「仕事が忙しく、しつけをじっくり行う余裕がない」「成長とともに、子どもの気持ちがかみにくくなっている」が同率で23%であった。特に「じっくり行えない」は前回よりも4ポイント増えている。男性保護者は「じっくり行えない」が多く、女性保護者は「気持ちがつかみにくい」「しつけの態度にムラがある」が多くなっている。

###### Q⑯ しつけのあましさ



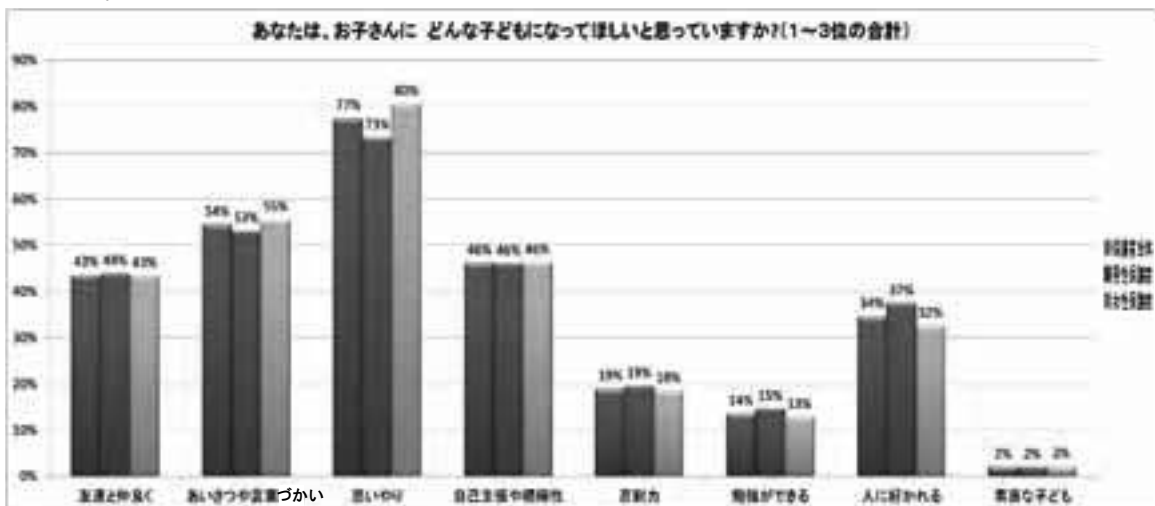
しつけのあまさについては、平成 14 年度調査からあまり変化はみられない。前回より「大変あまい」「まあまああまい」がわずかに増えて、合わせて 53%となっている (26-1)。特に男性保護者はその割合が 59%で、前回より 4 ポイント増えている。女性保護者は男性保護者よりやや厳しく接している様子がうかがえる (26-2)。中学生の調査結果と照らし合わせてみると、保護者よりも「あまりあまくない」「きびしい」割合が高くなっている。

### Q27世話



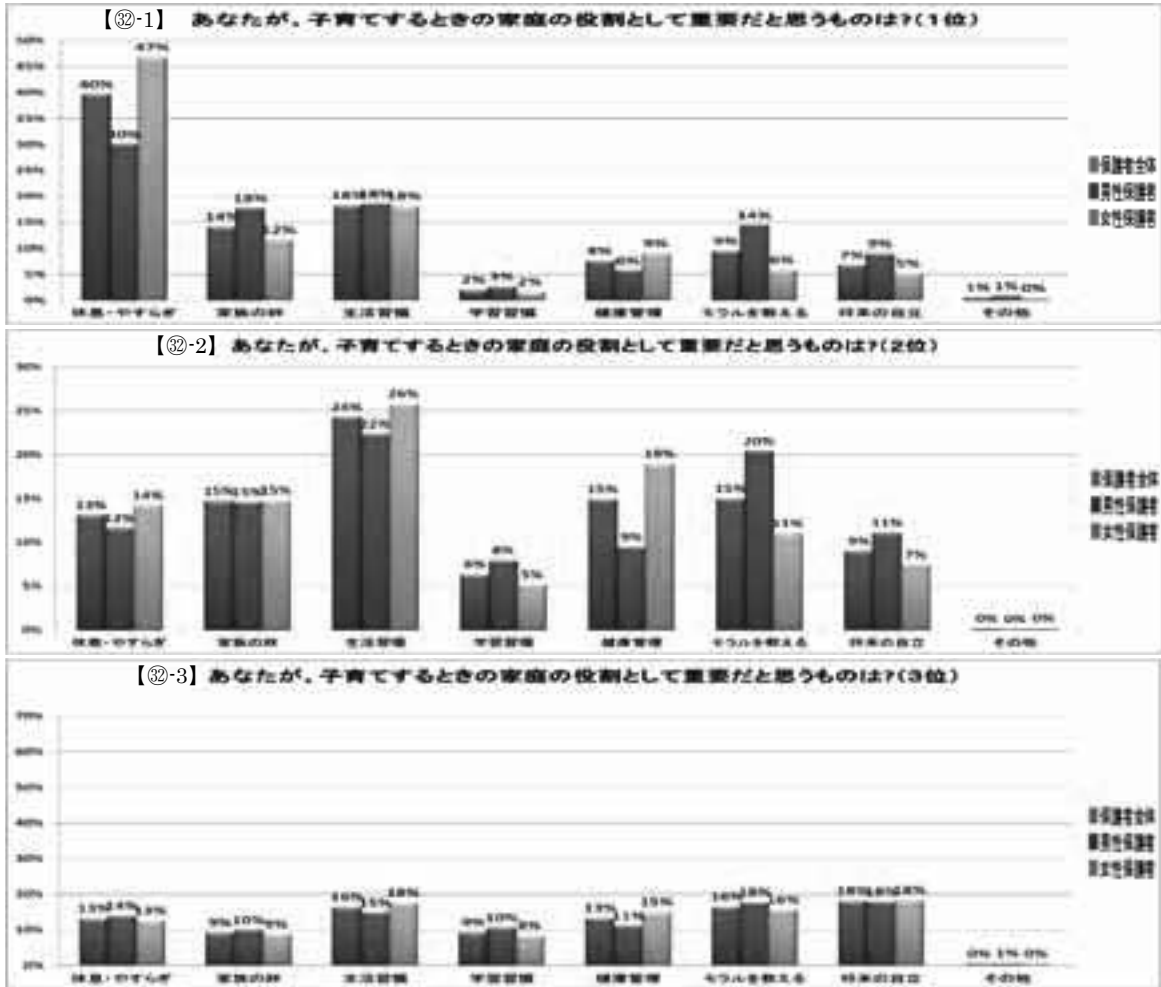
子どもの世話を「よくしている」と回答した保護者の割合は徐々に増えており、「まあまあしている」と合わせた割合は 70%で経年変化はあまりみられない (27-1)。男女間で大きな差がみられることもこれまでと同様で、女性保護者の方がより世話をしている。「よくしている」「まあまあしている」を合わせた割合は、女性保護者 85%、男性保護者 48%で 37 ポイントの差がある。男性保護者の 12%は「ほとんどしていない」と回答している (27-2)。

### Q31子どもの将来像



どんな子どもになってほしいかについては、「思いやりのある子ども」が 77%で最も多い。2位は「あいさつや正しい言葉づかいができる子ども」、3位は「自己主張や積極的な行動ができる子ども」となっている。

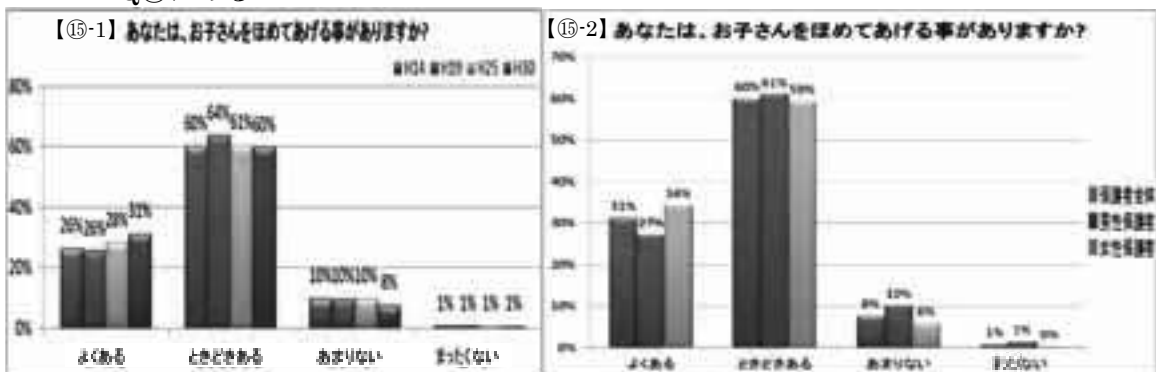
## Q⑫ 家庭の役割



子育てにおける家庭の役割としては、「休息・やすらぎ」を重要とする割合が40%で最も高い。特に女性保護者では半数がそう回答している。次いで「生活習慣を身に付けさせる」の順である(⑫-1)。2位、3位ではその他の役割にあまり大きな差がない。全体として男性保護者は「モラルを教える」「将来の自立に向けた見通しをもたせる」が女性保護者より多く、女性保護者は「休息・やすらぎ」「健康管理」「生活習慣」が男性保護者より多い傾向がみられる(⑫-2,3)。

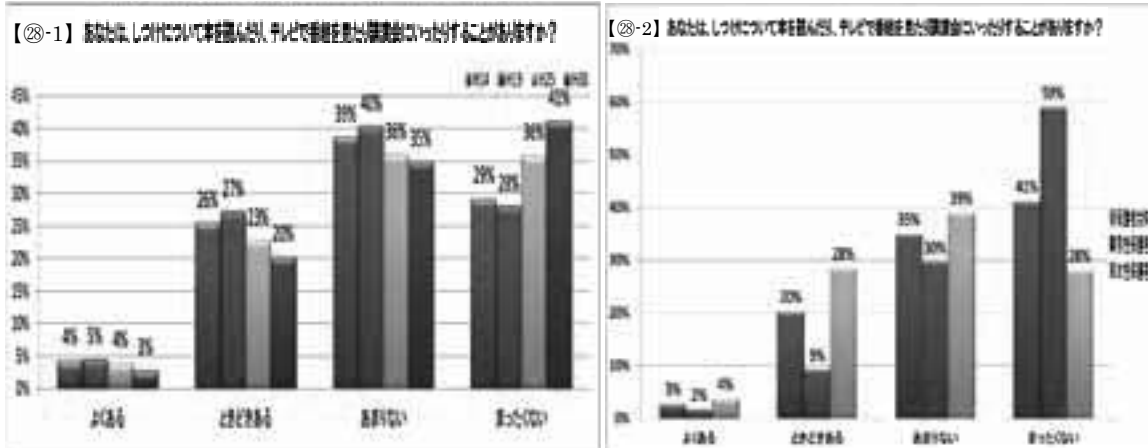
## (2) 養育態度

### Q⑮ ほめる



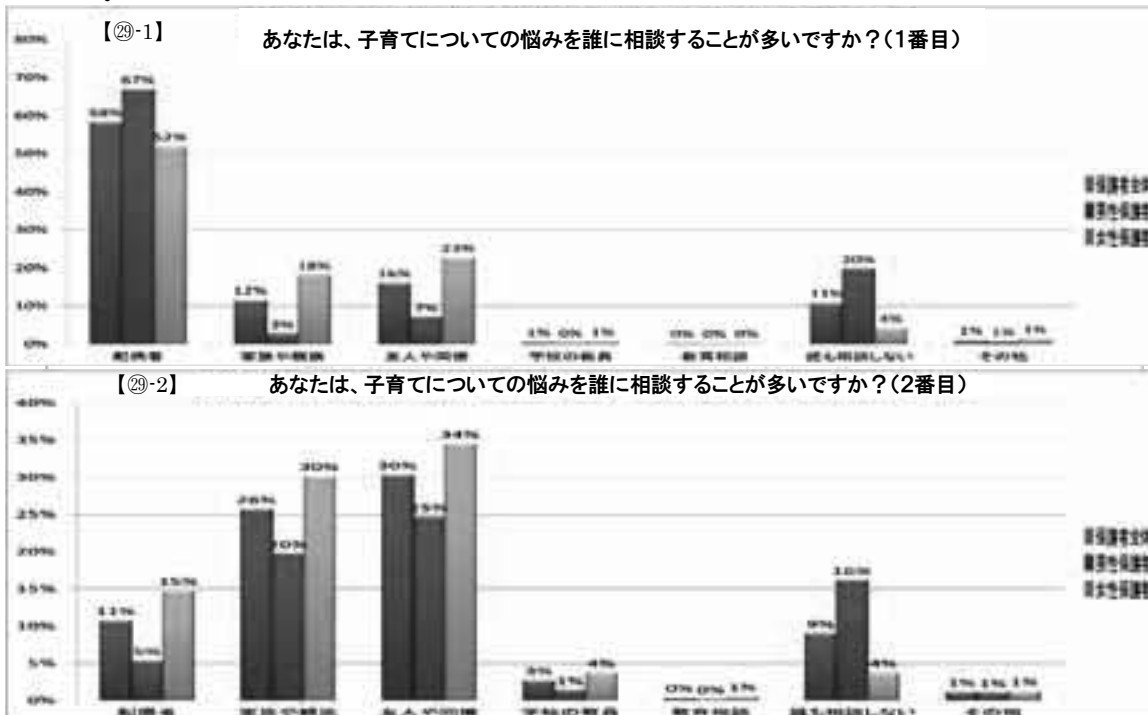
子どもをほめてあげることが「よくある」と回答した保護者は 31%で前回調査より 3ポイント増えているが、「ときどきある」と合わせた割合では経年変化はあまりみられない (15-1)。ほめることが「よくある」割合は、女性保護者の方が男性保護者より 7ポイント高くなっている (15-2)。

### Q28 しつけの学習



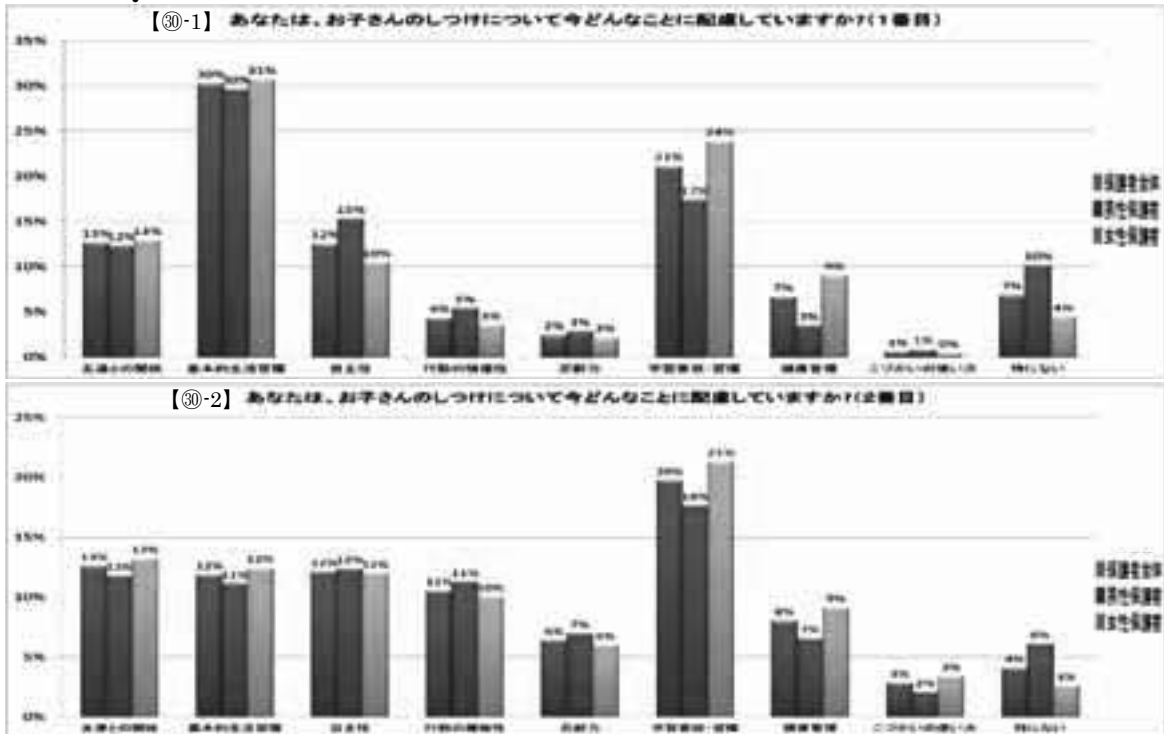
しつけについての学習は、平成 19 年度調査から低下の一途を辿っている。「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は 23%で、7ポイント減少している。反対に「まったくない」は平成 19 年度から 13ポイント増えて 41%となっている (28-1)。特に男性保護者の 59%が「まったくない」と回答しており、「あまりない」と合わせると約 9割の男性保護者が学習することがほとんどない状況である (28-2)。

### Q29 悩みの相談相手



子育てについての悩みの相談相手としては、第1位は「配偶者」で、続いて「友人や職場の同僚」、「配偶者以外の家族や親族」となっている(29-1)。男性保護者は「誰にも相談しない」という回答も2割程度ある(29-2)。

### Q30 しつけの配慮



子どものしつけについて今どんなことに配慮しているかについては、「あいさつや言葉づかいなどの基本的な生活習慣」が最も多かった。次いで「学習意欲・習慣」となっている。「特になし」と回答している男性保護者の割合は、女性保護者の約2倍となっている。

### まとめ

子育てに関する保護者の意識や態度について、「しつけ」「世話」「子どもの将来像」「家庭の役割」「学習」「悩みの相談相手」などの観点からみる。

子どものしつけに自信がある保護者が減少する傾向がこれまで続いてきたが、今回の調査で初めて自信がない保護者が過半数を超えている。自信がないと感じる理由は、女性保護者は「成長とともに、子どもの気持ちがあかみにくくなっている」「気分や感情に左右され、しつけの態度にムラがある」が多く、男性保護者は「仕事が忙しく、しつけをじっくり行う余裕がない」が多くなっている。しつけの甘さについては、経年変化はあまりみられないが、自身をあまいと感じている保護者は半数を超えている。また、男性保護者の方がやや甘く接している傾向がみられる。子どもの世話をしている保護者が7割という割合にあまり変化はなく、男性保護者と女性保護者の差もこれまでと同様である。世話を「よくしている」「まあまあしている」女性保護者は85%、男性保護者は48%で大きな差がある。女性保護者は世話の大半を担っている責任から、より厳しくしつけようとする傾向があるのかもしれない。しつけでどんなことに配慮しているかについては、「あいさつや言葉づかいなどの基本

的生活習慣」が最も多く、次いで「学習意欲・習慣」となっている。

どんな子どもになってほしいかについては、前回同様「思いやりのある子ども」が最も多く、前回より14ポイントも上昇している。次いで「あいさつや正しい言葉づかいができる子ども」で、しつけで配慮している内容との関連がみられる。

家庭の役割として重要だと思うものについては、1位が「休息・やすらぎ」で4割である。2位は「生活習慣を身に付けさせる」で、前回調査の「家族の絆を強める」と逆転している。全体的に、基本的な生活習慣を身に付けることに重きが置かれるようになってきているといえよう。また、前回調査は東日本大震災の2年後に実施されたため、「家族の絆」の優先順位が高くなっていただのではないかと推察される。全体として男性保護者は「モラルを教える」「将来の自立に向けた見通しをもたせる」割合が女性保護者より高く、女性保護者は「休息・やすらぎ」「健康管理」「生活習慣」が男性保護者より高い傾向がみられる。

養育態度で子どもをほめてあげることが「よくある」「ときどきある」を合わせた割合は91%で、多くの保護者がほめることを意識した子育てを行っている様子がうかがえる。しかし、あまりほめていない保護者が、平成14年度調査以降変わらず約1割存在している。

しつけについての学習率は減少傾向が続いているが、その傾向がますます強まっている。「あまり」「まったくない」を合わせると76%で、男性保護者では89%である。しつけに自信がない保護者は増えているにもかかわらず、不安を解消するために子育てや家庭教育に関する本を読んだり、テレビ番組を観たり、講演会に行ったりする行動はほとんどとっていないということになる。保護者の学習機会や情報提供の取組をさらに推進するとともに、働いている保護者、忙しい保護者が増えている状況を考慮して支援のあり方にも工夫が必要であろう。

子育てについての悩みの相談相手は、継続して「配偶者」が最も多い。核家族化が進む中、あるいは働く女性保護者が増えている中で、友人や職場の同僚に相談する割合も少なくなる。男性保護者・女性保護者ともに帰宅時間が遅くなっている状況で、女性保護者が世話の多くを担い、悩みもより抱えている。また「誰にも相談しない」男性保護者も2割ほどいる。ひとり親や周囲に頼る術なく孤立しがちな保護者もいる現在、できれば生活圏内の身近な地域で、配偶者以外で相談できる場や多様な相談に対応できる支援がますます求められている。



## 第4章 全体考察（過去36年間の変化）

ここでは、昭和57年、平成5・10・14・19年・25年、そして平成30年(今回)の調査において継続して共通に質問項目を設定しているものを中心に約36年間の変遷をみていく。

### 1 過去36年間の変化

#### (1) 中学生

##### ① 学校生活

勉強の目的は、前回（平成25年度）調査までは一貫して「希望する学校や会社に入りたいため」の割合が最も高く、次いで「よい成績をとりたいため」の順であったが、今回初めて「よい成績をとりたいため」が最も高くなっている。この2項目を合わせると6割で、この割合はあまり変わらない。特に3年生は進路を目的に勉強する割合が高いこともこれまでと同じである。勉強の理解については、経年でみると約8割の中学生はおおむね理解できているが、学年が上がるにつれて理解できていない中学生が増える傾向も変わらない。ただ「理解できている」割合がこれまでは減少傾向であったのが、今回は上昇して増加に転じている。この傾向が続くことが望まれる。親友がいると回答している割合は漸増傾向が続いているが、今回は約9割でこれまでで最も高くなっている。しかし、継続して1割程度の中学生が「いない」と回答していることには留意が必要である。クラスで決められた仕事に責任を持つ割合は、前々回（平成19年度）から調査ごとに約10ポイントずつ増加しており、今回は75%となっている。昭和57年度の初回調査と比較すると2倍以上に増えており、喜ばしい変化である。男子よりも女子も方がまじめに取り組んでいる傾向は変わらない。

##### ② 保護者と子どもとの交流

将来や人生のこと、学校生活について保護者と話す割合は微増しており、男性保護者とは約5割、女性保護者とは約8割となっている。女性保護者が高い傾向は変わらない。言い分を聞いてくれるかについては、これまでと同様で女性保護者の方が高いものの、全体的に8割前後の中学生が「聞いてくれる」と評価している。今回も全体としては子どもと保護者とのコミュニケーションはかなりとれているといえる。また、より話すようになっている傾向がみられる。保護者のイメージは、男子女子ともに「尊敬できる、頼りになる人」が継続して1位であるが、その割合が増加して約4割となっている。男性保護者に「生活費をかせいでくれる人」が若干多いものの、男性と女性の保護者のイメージが重なってきている傾向は続いている。保護者があまいかについては、「あまい」が前々回までは4～5割で推移していたのが前回は3割に減少していたが、今回はまた4割に近づいている。全体的には女性保護者の方が

「きびしい」割合が高い。特に女子については男性保護者の「あまい」割合が継続して高めである。

### ③ 家庭生活

午後 11 時以降に寝る子どもは相変わらず過半数ではあるが、前々回から減少傾向が続いている。起床時間も前回は引続き早くなっており、早寝早起きの習慣を定着させる取組の成果が着実にみられる。朝食の摂取率は 9 割と高い水準で推移しているが、若干減少気味であることが気になりである。メディアとの接触では、テレビ等の 4 時間以上の視聴は前々回、前回は 2 割を超えていたが今回は 1 割に減少し、代わりにゲームやスマートフォン等の使用時間が長時間化してきている。自分自身のスマートフォン等を持っている割合が前回は 1 割増加していたが、今回はさらに 1 割増えて 65% となっており、使用時間が長くなっている傾向と関連していると思われる。家の手伝いについては、これまでと同様に「する」子どもが 6 割程度で推移しているが、わずかに増加傾向である。リンゴの皮むきといった生活技能は、できる割合が前回調査で大きく減少して約 6 割に落ちたが、今回もほぼ同じ割合となっている。家庭では日常生活の中で意識して体験させることが必要であろう。家族でのあいさつは「する」が 9 割で推移しているが、「いつもする」が調査を迫うごとに増えている。近所へのあいさつを「する」も 9 割前後を推移しているが、「いつもする」が微増傾向である。家庭でのしつけとともに学校や地域におけるあいさつ運動等の成果もあると思われる。

学習塾に通っている中学生は、前回は減少したが今回は 4 ポイント増えて 42% で、ほぼ 4 割前後で推移している。家庭教師は平成 10 年度調査から減少が続いて今回はわずかに 2% となっている。塾等以外の家庭学習を「まったくしない」割合が、28% (平成 14 年)、19% (平成 19 年)、11% (平成 25 年) と着実に低下してきたが、今回は 8% と 1 割を切っている。家庭での学習習慣がかなり定着してきたといえよう。

家庭の満足度は高まっており、特に「とても満足」が増加する傾向が続いている。しかしながら、満足していない子どもは減少しているものの 1 割は存在することに留意しなければならない。

### ④ 個人生活

子どもが楽しいと感じる場所として、「学校」はこれまで減少気味で特に前回は 3 割まで落ち込んだが、今回は 7 ポイント増加して約 4 割と持ち直している。「家庭」の割合も増加傾向である。休日の過ごし方は、1 位が「部活動・スポーツ」であることは変わらない。続いて「テレビやゲーム」「家でゴロゴロ」「友達と外出」が上位を占めていることもこれまでとほぼ同じだが、「友達と外出」がますます減少し、「テレビやゲーム」「家でゴロゴロ」が増加傾向である。

## ⑤ 自己評価

自主性、積極性、忍耐力については、8～9割の子どもが「ある」と回答しており、全体的に増加傾向である。保護者の評価よりも子どもの自己評価の方がかなり高いこともこれまでと同様である。子どもと大人の基準の違いも考えられる。また、保護者の見ていない場面でごんばっていることもあるかもしれない。「イライラすることがある」と回答している子どもはこれまでと同様7割程度であるが、前回までは「よくある」が増加傾向であったのが今回は5ポイント下がって増加に歯止めがかかっている。悩みの1位は「勉強・成績」、次が「特にない」は初回から変わっていない。男子よりも女子の方が悩みを抱えがちである傾向も変わらない。ただ今回は、勉強や友人関係に加えて「部活動」の悩みも女子の方が多くなっている。休日の過ごし方で、女子の方が男子よりも「部活動」の割合が高かったこととも関連していると思われる。悩みの相談相手の1位は、これまで減少傾向は続いていたもののずっと「友だち」であったが、今回「母」の割合がわずかに多く1位となっている。特に、女子は1位が「友だち」であるが、男子は1位が「母」である。「もう学校に行きたくない」と思うかについては、平成5年(21%)を除くと継続して3割が「よくある」「ときどきある」と回答している。今回は前回よりわずかに減少しているものの、不登校意識を持つ子どもの割合はこの25年近くほとんど変わっていないということが分かる。

## (2) 保護者

### ① 家庭生活

保護者が朝、子どもを起こしている割合は65%で、これまでと変わらない。早寝早起きの習慣が定着してきている背景には、保護者の努力があることがうかがえる。子ども自身が自分で起きる習慣を身に付けるよう促すことが大切である。「朝食を用意している」「あいさつをさせる」ことについては、大半の保護者がしていると回答しているものの、朝食の用意については「する」が徐々に減少しており、10年間で13ポイント少なくなっていることが気がかりである。

メディア接触に関して何らかのルールを決めている家庭は前回半数を超えたが、今回はさらに10ポイント増加して6割を超えている。しかしながら子どもたちのメディアとの接触時間は長くなってきており、ルールの内容を検討するなど更なる対応が求められる。家の手伝いをしなかった時に比べて、校則を守らなかった時の注意が、以前はより厳しかった。今回「きびしくしかる」がわずかに増えてはいるものの、全体としてはここ15年で厳しさが薄らいできている。また、保護者自身が注意する割合も減少する傾向がみられる。

保護者の帰宅時間については平成19年度から調査しているが、男性保護者と女性保護者ともに少しずつ遅くなってきている。特に男性保護者の4割強が午後8時以降の帰宅で、思春期における家庭教育にかかわるためにもワーク・ライフ・バランスの実現がますます重要になっている。

保護者に対する言葉づかいが乱暴であった時に、注意する割合は9割以上

で一定数を保っている。あいさつや校則違反の徹底、手伝いをさせることよりも高い割合できびしくしつけており、保護者自身に対する態度にはより厳格に対処しているようである。

地域行事への参加は減少しており、今回 7 ポイント減って 49%と半数を割っている。仕事などで忙しく、地域とのかかわりが少なくなっている様子がうかがえる。

## ② 交流

子どもと将来や人生のこと、学校生活について話す割合はここ 15 年ほどでは一定して約 8 割が話すと回答している。男性保護者と女性保護者に差があることもこれまでと同様で、女性保護者の 9 割が話しているが、男性保護者の 3 割は話していない。子どもに家庭のことで意見を聞く保護者は 6 割前後、子どもの言い分を聞く保護者は 9 割強で、ともにここ 15 年ほど微増傾向である。

中学生の調査結果と照らしてみると、これまでと同じく、全体として保護者が思っているほどには子どもは交流できていると思っていない。子どもの意見や考えをしっかりと「聞いている」と保護者が思っているが、あまり「聞いてくれない」と子どもは感じている場合もあるということである。そのことを保護者は自覚しておいた方がよい。

## ③ 保護者による子どもの評価

子どもの自主性、積極性については、「ある」と回答した保護者が初回から増加傾向であったのが、ここ 15 年は減少に転じて 6~7 割になっている。忍耐力はいったん減少したものの、今回は少し増えて持ち直して 75%であった。保護者の評価は、これまでと同様、子どもの自己評価よりもかなり厳しい結果となっている。

「男の子だから、女の子だから」と男女で区別して注意することは継続して減少している。兄弟姉妹やよその子と比較して注意することが「ある」は前回少し増加したが、今回はさらに増えて 48%と約半数になっている。

これまでの調査と同様に 4 割前後の保護者がイライラして子どもに手をあげたいと思うことが「ある」と回答しているが、継続して減少傾向にはある。

子どもについて悩んでいることの 1 位はこれまで継続して「成績・勉強」であり、子どもの回答とも共通している。ただ、これまで「友達づきあい」が次いで上位であったのが、今回は「生活がだらしない」の方が若干多くなっている。しつけでもっとも配慮していることの 1 位が「基本的生活習慣」であることとの関連がみられる。

## ④ 養育態度

しつけについての自信は初回からずっと漸減傾向が続いているが、自信のある保護者が今回初めて半数を割って 45%となっている。過半数の保護者に自信がないということになる。しかしながら、その不安を解消する有効な手段である学習を行う保護者は減少しており、前回調査からそれぞれ 1 割低下し

て、男性保護者の約9割、女性保護者の約7割が「あまりない」「まったくない」と回答している。

しつけについて配慮していることで最も割合が高いのは一貫して「基本的な生活習慣」である。「学習意欲・習慣」が次いで多いのもこれまでと同様であるが、その割合は引き続き増加傾向にある。

しつけに自信がない保護者が増えている一方で、しつけにあまい保護者は微増傾向で半数を超えている。子どもの世話については、「よくしている」「している」が合わせて7割で大半の保護者がしているが、女性保護者85%、男性保護者48%とこれまでと同様、男女で差が大きい。

子どもの将来像の1位は、それまでの「思いやりのある子ども」から平成19年度に「あいさつや正しい言葉づかいができる子ども」に変わったが、前回調査で「思いやりのある子ども」にまた戻った。今回も「思いやり」が1位であるが、割合が「あいさつや言葉づかい」よりも23ポイント高い77%となっている。勉強や成績のこと、基本的な生活習慣を身に付けることを気にしながらも、人間的には思いやりのある人に成長してほしいという保護者の願いがうかがえる。

## 2 総合考察と提案

### (1) 自立のための力を育む家庭教育へ

家庭はすべての教育の出発点であり、常に子どもの心と生活の拠りどころとなる場である。家族とのかかわりを通じて、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、思いやりや道徳心、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身に付ける上で重要な役割を担っている。その「家庭の教育力」が低下したといわれてきた。福岡県では、「早寝早起き朝ごはん」運動、食育推進、青少年アンビシャス運動、規則正しい生活習慣づくりの取組等を推進してきたが、これまでの経過から、全体として保護者は前向きに取り組んできており、取組の成果がみえてきている。しかしながら、同時にいくつかの課題も浮かび上がっている。

第一に、子どもの基本的な生活習慣がより定着してきた。保護者も意識してしつけ、子ども自身も「早寝早起き」になり、あいさつもより「する」ように変化してきた。ただ、保護者に朝起こされている子どもが多いのが実態で、これからは自ら起床する習慣を身に付けるよう促すことが大切である。やがて子どもは保護者の元を離れて生活する時がくる。その時のための練習が始まっていることを、保護者も子どもも自覚すべきである。朝食については、大半の保護者が用意しているが、その割合が低下傾向であることが懸念される。食事の大切さを保護者が理解することはもちろん必要だが、保護者ができない場合は、中学生ともなれば、忙しい保護者に代わって自分で用意をする生活能力も身に付けてほしい。これも自立のトレーニングである。たとえば、そのために必要な生活技能（りんごの皮むきなど）は、4割ほどの子どもはできないという状況である。早寝早起きやあいさつだけでなく、さまざまな生活体験の機会が求められている。家庭学習の習慣は「まったくしない」が8%まで減少してお

り、かなり定着してきたといえよう。

第二に、保護者は忙しさや不安の中でがんばっている。帰宅時間は男性保護者だけでなく女性保護者も遅くなる傾向で、「女性の活躍推進」によりこの傾向はこれからも続くことが予想される。特に女性保護者は世話の多くを担っており、子どもとの会話や悩みの相談相手も圧倒的に女性保護者が中心的役割を果たしている。男女ともに働き方の見直しやワーク・ライフ・バランスの推進が期待されるが、現状は厳しい。そのような中、しつけに自信がない保護者が過半数を超えた。子どもの気持ちがつまみにくいという思春期特有の理由とともに、忙しくて余裕がなく、気持ちもイライラしている保護者の様子がうかがえる。このようにしつけに不安を抱えながらも、不安を解消するための学習活動等については行っていない保護者が多数派で、しかも増えている。ニーズはあるのに対応ができていない。保護者の啓発と同時に、忙しい保護者がアクセスしやすい情報や学習機会の提供を工夫することもこれまで以上に必要になっている。ちなみに、子どもの保護者に対するイメージは「尊敬できる人、頼りになる人」が1位で男性保護者・女性保護者ともに上昇している。保護者が忙しく、自信がないながらもがんばっている姿を、子どもは子どもなりにしっかりみているのではないだろうか。

第三に、学校や家庭が子どもにとってより楽しい場になってきている。最も楽しいと感じる場として学校も家庭も割合が上昇しているのは好ましい傾向である。特に家庭についてみると、子どもの9割が家庭生活に満足している。その背景は、一つは保護者と子どもがより話すようになり、保護者が子どもの言い分や意見をより聞くようになってきていることが考えられる。もう一つは、休日の過ごし方で、部活動が1位であることは変わらないものの、「友達と外出」よりも「テレビやゲーム」「家でゴロゴロ」の方が多くなっていることから想像されるが、ゲームやスマートフォンなどメディアとの接触に今までより自由時間を使うようになってきており、家の中で過ごすことが楽しいと感じているのではないだろうか。

第四には、そのメディアとの接触についてである。全体的に長時間化が急速に進んでおり、平日に4時間以上接触している子どもも増加している。テレビ視聴よりも、ゲームやスマートフォンとの接触が増え、依存症やSNS上のトラブルなどが多数報告される現在、保護者が実態を認識することと、家庭で使用のルールを決めて守ることを徹底するなどの対処が急ぎ必要である。新しいメディアは正しく使えば便利な道具であるが、保護者世代は自分たちが経験していないために、問題が起きるたびに常に対処が後手に回らざるをえない。保護者自身が、最新の状況を把握する意識を持つことも重要である。子どものメディア使用に関する保護者の学習は喫緊の課題である。

第五に、保護者はより優しくなり、子どもの自己評価はあまい傾向がある。保護者の7割が子どもの自主性や積極性などを「ある」と評価しているものの、その割合は減少傾向である。ところが、反対に子どもの自己評価では8~9割が「ある」で増加傾向である。保護者の見ていない場面でもがんばっていることも考えられるが、子どもの自己評価は多少あまい傾向があることを前提にみた方がいいかと思われる。保護者の方がより辛く評価しているものの、しつけについては厳しく叱る保護者がここ15年ほどは減少している。また、保護者自身が子どもを注意する行為も減少傾向である。子どもにとって厳しい存在は、男性保護者よりも女性保護者であり、特に男性保

護者があまい傾向が出ている。女性保護者の方が子どもと過ごす時間が長くかわりも多いことが関係しているかと思われる。しつげに自信がない保護者が増えていることから、叱っていいものか、どのように注意したらよいのか、対応の仕方に迷いがあることも考えられる。家庭教育学級や子育てに関する講座などで、保護者同士でしつげの仕方について悩みを話し合い、情報を共有することも大切であろう。

最後に、家庭教育格差の問題である。全体としては家庭で努力して取り組んできた成果がみられるものの、基本的な生活習慣についても、世話についても、保護者と子どもの交流にしても、「していない」という保護者が変わらずに一定数いる。家庭が一番楽しい場所ではない子どもも存在している。教育基本法の家庭教育に関する条文（第10条）では「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする」と記しているように、保護者には責任がある。しかしながら、その責任を果たさない、あるいは果たせない保護者も存在するのが実態である。条文では続けて、「国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない」としており、保護者だけでは難しい場合は、保護者を支援することが必要であることを明記している。全体の中では少数であっても、決して少なくない「支援を必要とする家庭」の存在には、関係部局が連携したよりきめ細やかな支援が求められる。

## （2）機動力と実効性のある連携・協働を

第三期教育振興基本計画（平成30年）においても、今後5年間の教育政策の目標の一つとして「家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進」を掲げ、その中で「多様化する家庭環境に対し、地域全体で家庭教育を支える」ことを最初に述べている。具体的には、「関係府庁が連携し、妊娠期から学齢期以降までの切れ目のない支援の実現に向けて、地域における子育て支援と家庭教育支援の連携体制を構築し、教育委員会と他の部局の間、関係機関・関係者の間で、支援が必要な子どもや家庭に関する情報の共有化や協働の促進を図る」こと、「家庭教育支援員となる人材の育成や、訪問型家庭教育支援の充実を図るとともに、必要となる個人情報や円滑かつ適切な共有に係る好事例の収集や周知を行うなど、様々な問題を抱えながらも地域から孤立し、自ら相談の場にアクセスすることが困難な家庭やその保護者と子どもに対する支援を強化する」こと、「大人と子どもが触れ合いながら充実した時間を過ごすことができるよう、学校休業日の分散化、有給休暇取得の促進、多様な活動機会の取組を官民一体として推進する」ことをあげている。

家庭教育の第一義的な責任は保護者にあることは常に心に留めながらも、保護者だけではできない家庭もあることを前提に施策を考えなければならない時代となっている。家庭と学校、地域との連携協力はもちろん、教育と福祉との連携・協働がより重要になってきている。

特に困難を抱える家庭でなくても、都市化や核家族化、科学技術等が進んだ現代は一般的にすべての家庭で子どもに生きる力を育成することが難しい環境となっている。子どもの生活体験等についても、便利で豊かな日常では体験の場面がなかなかない。学

校と社会教育が連携した通学合宿や自然の家などを活用した生活体験、集団宿泊体験、自然体験や、農業体験、職業体験など多様な体験の機会が増え、安価で提供されることが望まれる。その際、大人に支援してもらおう活動ばかりではなく、子ども自身が地域とかかわり、他者の「役に立つ」体験も必要である。ほめられるだけでなく感謝されることを通して、やりがいや自己有用感を得ることができる。また、お膳立てされた体験だけでなく、子どもたち自らが企画・運営に参画し、主体的に取り組む機会も考慮してほしい。子ども会やスポーツ団体、文化団体等の社会教育関係団体の活動も可能性の一つである。放課後や休日にもスポーツ等の部活動一辺倒ではなく、芸術・文化的活動や読書などにも親しむ機会が増えるとよい。家庭では、そのような多様な体験活動に子どもが参加したり挑戦したりすることを積極的に促し、応援してもらいたい。また、保護者が仕事や介護等で忙しくなる傾向がある中、家庭に保護者がいる時間そのものが限られており、また減少している。家庭教育の担い手がない時間が長くなっているのである。家庭教育を補完する意味でも、放課後・土日の居場所や教育的プログラムが求められている。そのためには、地域人材の協力が欠かせない。支援ボランティアの発掘・育成や、既存の組織団体とのコーディネート機能を社会教育が担うことも大切である。

保護者の学習を推進するための連携も今後の課題である。調査では、しつげに自信がないまま不安を抱えつつ過ごしている保護者が多いことが分かった。不安を解消したいというニーズはありながら、それが学習と結びついていない。仕事をしている女性保護者が主流になり、帰宅時間が遅い父親も少なくない状況は、今後も続くかと思われる。そのことを前提に、土曜や日曜の活用、学校行事との同時開催、企業への出前講座、インターネットを利用する学習など、さまざまな選択肢で多様なかかわりが可能な学習機会や情報提供の整備も検討課題であろう。

前述した第三期教育振興基本計画では、施策の成果の測定指標として「地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合の改善」があげられている。学習機会だけではなく、相談体制も大切である。調査では、しつげや子育ての悩みの相談相手は、配偶者や友人・職場の同僚、親族がほとんどであった。地域全体で家庭教育を支えるといわれながらも、身近な地域で相談する人はあまりいないことが示されている。家族や友人に相談できる人、それで悩みや問題が解決する人はよいが、それでは解決しないような問題を抱えている場合や「誰にも相談しない」約 1 割の保護者のことを考えると、地域で対応できる仕組みとその周知が必要であろう。これまでも、電話相談、面接相談などに加えて、インターネットを活用した相談など体制は整備されてきているが、本当に必要とする保護者に声をかけたり、そのような情報を直接届けたりするようなきめ細かな対応が求められる。

中学校では、小学校ほど PTA 活動も活発ではないかもしれないが、これまで行われてきた PTA 活動や公民館等での家庭教育講座、子育てサロン等の成果や蓄積を踏まえ、見直ししながら、「家庭教育支援チーム」など新たな手法を開拓することも考えられる。チームにかかわる関係者は、その地域や校区の特性やニーズに合わせて、柔軟に連携・協働する形を作り上げていけばよいのではないだろうか。場合によっては、自治会、老人会、婦人会などの地域団体、児童相談所や福祉事務所、民生委員・児童委員、助産師など医療・福祉部局との連携、警察や少年サポートセンター、更生保護施設等の法務関係との連携、労働行政や民間企業との連携も必要であろう。コミュニティスクールなど保護者や地域住民が学校の運営に参画する仕組みづくりも推進されている。また、地域



学校協働活動のように、子どもの成長を目標として共有しつつ、学校を核とした地域づくりも進められている。チームには、教員はもちろん、学校を支援するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等もかかわることができよう。

家庭教育の支援は、①子育てやしつけを担っている保護者を支援する取組と、②保護者に代わって、あるいは保護者と協力して、直接子どもの成長・発達を支援する取組の両方が必要である。それぞれについて、教育行政や学校だけでなく、より効果的に課題に対処できる連携・協働を、関係者が話し合える総合的な体制づくりと、そのための調整機能、そして子どもたちの健やかな成長を共に願う大人たちの意志が、これまで以上に求められている。

## Ⅱ 参考資料

実施要項

配布アンケート

集計表

調査協力校

平成30年度 中学生の意識・行動と保護者の家庭教育に関する調査実施要項

1 調査の趣旨

家庭はすべての教育の出発点であり、基本的な生活習慣・豊かな情操・自立心等を養う上で、重要な役割を担っている。さらに近年、少子高齢化や人間関係の希薄化等、社会状況の変化に伴い、家庭教育力の重要性が改めて問われている。

子どもたちの成長に様々な影響を及ぼす家庭の教育力を向上させるために、家庭における教育を支援する仕組みをつくることは、社会の緊急かつ重要な課題である。

福岡県では、昭和57年度、平成5年度、平成10年度、平成14年度、平成19年度、平成25年度に中学生とその保護者を対象に「中学生の意識・行動と保護者の家庭教育に関する調査」を実施してきた。本年度は、5年ぶり7回目の調査となる。

本調査は、調査結果を分析・比較し、現在の家庭教育の問題点とその原因等を明らかにするとともに、今後の家庭教育支援の在り方や方向性を解明し、諸施策や社会環境づくりに活かしていくものである。

2 調査の実施者

福岡県立社会教育総合センター

3 調査の対象及び人数

県内6地区の中学生約2,400名とその保護者約4,800名

※ 本調査は、昭和57年度、平成5・10・14・19・25年度に続く経年調査であり、基本的に前回調査校を対象とする。

【地区別調査対象予定校】 政令市以外は、教育事務所担当地区

福岡市	福岡市立那珂中学校	北九州地区	直方市立直方第三中学校
福岡地区	大野城市立大野中学校	南筑後地区	八女市立星野中学校
北筑後地区	久留米市立三潴中学校	筑豊地区	飯塚市立穂波東中学校

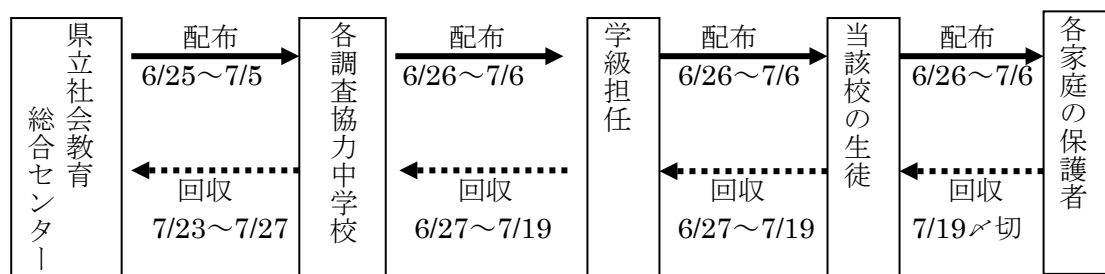
4 調査の実施期間

平成30年7月

5 調査方法

(1) 中学生用、保護者用（男性・女性）の質問形式の調査票により行う。ただし、保護者用の質問の構成と内容は男女ともに同一のものとする。

(2) 調査票は、県立社会教育総合センターが直接、各調査協力中学校に持参し、担任をとおして中学生及び保護者へ配布・回収し、同センターが同校で受け取る。



6 調査票（別紙参照）

調査票は生徒用（ピンク色）と保護者用（黄色）の2種類とする。

7 調査結果の処理

調査結果を家庭教育支援資料としてまとめ、関係機関・団体等に配布する。

### 生活に関するアンケート

◎記入の仕方についてのお願い

- 各質問に対する答えは、回答項目のうちもっともあてはまるものの番号（1. 2. 3. …）を右側の口に記入してください。また、（ ）に必要事項を記入してください。
- 次の質問にお答えください。

あなたの学年	あなたの性別に○
年	男・女

名前を記入する必要はありません

問 1. あなたは、平日だいたい何時に起きていますか。

- 午前6時前
- 午前6時～6時半
- 午前6時半～7時
- 午前7時～7時半
- 午前7時半以降

1

問 2. あなたは、平日だいたい何時に寝ていますか。

- 午後9時前
- 午後9時～10時
- 午後10時～11時
- 午後11時～午前0時
- 午前0時～午前1時
- 午前1時以降

2

問 3. あなたが、ふだん勉強するのはどうしてですか。もっともあてはまるものを選んでください。

- よい成績をとりたいから
- 希望する学校や会社に入りたいため
- 人や社会の役に立ちたいから
- いろいろなことを知りたいから
- 学校でみんなについて行けないと困るから
- 学校に行っているから
- 親や周りの人が勉強しろというから
- なんとなく
- その他（ ）

3

問 4. あなたは学校の勉強をどのくらい理解できていると思いますか。

- だいたい理解できている
- まあまあ理解できている
- あまり理解できていない
- 理解できていない

4

問 5. あなたは、おたがいに理解し、心をうちあけて話せる「親友」がいますか。

- いつもいる
- 前はいなかったが今はいる
- 前はいたが今はいない
- ずっといない

5

問 6. あなたは、掃除当番やクラスで決められた仕事をしていますか。

- まじめに責任をもってしている
- しかたないからしている
- ときどき人にまかせて手を抜く
- まったくしていない

6

問 7. あなたは、家族の人と将来や人生のことについて話すことがありますか。ア、イ、ウのそれぞれについて下の番号を1つずつえらんでください。（同じ番号でも可 問7～11まで）

- よく話す
- ときどき話す
- あまり話さない
- まったく話さない

7

ア、男性保護者と	<input type="text"/>
イ、女性保護者と	<input type="text"/>
ウ、その他の家族と	<input type="text"/>

問 8. あなたは、家族の人と学校生活について話すことがありますか。ア、イ、ウのそれぞれについて下の番号を1つずつえらんでください。

- よく話す
- ときどき話す
- あまり話さない
- まったく話さない

8

ア、男性保護者と	<input type="text"/>
イ、女性保護者と	<input type="text"/>
ウ、その他の家族と	<input type="text"/>

問 9. あなたが家族の人と違う意見や考えを持っているときに、次の人はあなたの言い分をきちんと聞いてくれますか。ア、イ、ウのそれぞれについて下の番号を1つずつえらんでください。

1. よく聞いてくれる      3. ほとんど聞いてもらえない  
2. ときどき聞いてくれる      4. まったく聞いてもらえない

9

ア、男性保護者は	
イ、女性保護者は	
ウ、その他の家族は	

問 10. あなたにとって、家族の人はどのような存在ですか。もっともそう思うものをア、イ、ウのそれぞれについて下の番号を1つずつえらんでください。

1. 尊敬ができたり、頼りになったりする人      6. 口うるさい人  
2. 理解のある人      7. 生活費をかせいでくれる人  
3. 友達のような親しみのもてる人      8. 放任であまい人  
4. いろいろ教え指導してくれる人      9. その他 ( )  
5. 自分勝手に無責任な人

10

ア、男性保護者は	
イ、女性保護者は	
ウ、その他の家族は	

問 11. あなたの家族の人は、あなたに対してしつげがあまい方だと思いますか。ア、イ、ウのそれぞれについて下の番号を1つずつえらんでください。

1. 大変あまい      3. あまりあまくない  
2. まあまああまい      4. きびしい

11

ア、男性保護者は	
イ、女性保護者は	
ウ、その他の家族は	

問 12. あなたは、朝食を食べていますか。

12

1. 毎日食べている      3. ときどき食べている  
2. ほとんど毎日食べている      4. 食べていない

問 13. あなたは、ふだん夕食を誰と食べますか。

1. 家族全員と      3. 家族以外の誰かと      5. 夕食を食べていない  
2. 家族の誰かと      4. 一人で      6. その他 ( )

13

問 14. あなたは、こづかいをどのようにもらっていますか。

1. 一ヶ月まとめて      3. 必要時に      5. その他 ( )  
2. 毎日定額      4. もらっていない

14

問 15. あなたは、家庭の仕事をしていますか。(家庭の仕事…風呂掃除など家庭生活において自分が分担している仕事)

1. 言われなくてもする      4. 言われてもしない  
2. 言われたらする      5. 言われないのでしない  
3. 言われてもしないことがある

15

問 16. あなたは家で決まった家庭の仕事をしていますか。

1. いつもしている      3. あまりしていない  
2. ときどきしている      4. まったくしていない

16

※家庭の仕事の内容

問 17. あなたは、リンゴの皮をナイフ（ほうちょう）でむくことができますか。

17

1. できる      2. まあまあできる      3. あまりできない      4. まったくできない

問 18. あなたは、学習塾に通ったり、家庭教師に習ったりしていますか。

18

1. 学習塾      2. 家庭教師      3. 両方      4. どちらともない

(裏面に続きます)

- 問 19. あなたは塾や家庭教師以外に平日どれくらい家庭で勉強していますか。(宿題を含む)
- |              |                |                     |    |                      |
|--------------|----------------|---------------------|----|----------------------|
| 1. まったくしていない | 4. 1 時間 30 分程度 | 7. 3 時間程度           | 19 | <input type="text"/> |
| 2. 30 分程度    | 5. 2 時間程度      | 8. 3 時間 30 分程度      |    |                      |
| 3. 1 時間程度    | 6. 2 時間 30 分程度 | 9. 4 時間以上 (具体的に 時間) |    |                      |
- 問 20. あなたは、テレビ、ビデオ、DVDやネットの動画を平日に1日平均どのくらい見えていますか。
- |                |                |                      |    |                      |
|----------------|----------------|----------------------|----|----------------------|
| 1. まったく見えていない  | 5. 2 時間程度      | 9. 4 時間程度            | 20 | <input type="text"/> |
| 2. 30 分程度      | 6. 2 時間 30 分程度 | 10. 4 時間 30 分程度      |    |                      |
| 3. 1 時間程度      | 7. 3 時間程度      | 11. 5 時間程度           |    |                      |
| 4. 1 時間 30 分程度 | 8. 3 時間 30 分程度 | 12. 5 時間 30 分程度      |    |                      |
|                |                | 13. 6 時間以上 (具体的に 時間) |    |                      |
- 問 21. あなたは、ゲーム (テレビ、パソコン、ネット、携帯型、携帯やスマートフォン全てふくむ) を平日に1日平均どのくらいしていますか。
- |              |                |                     |    |                      |
|--------------|----------------|---------------------|----|----------------------|
| 1. まったくしていない | 4. 1 時間 30 分程度 | 7. 3 時間程度           | 21 | <input type="text"/> |
| 2. 30 分程度    | 5. 2 時間程度      | 8. 3 時間 30 分程度      |    |                      |
| 3. 1 時間程度    | 6. 2 時間 30 分程度 | 9. 4 時間以上 (具体的に 時間) |    |                      |
- 問 22. あなたは、携帯電話、スマートフォンを持っていますか。
- |                      |                |    |                      |
|----------------------|----------------|----|----------------------|
| 1. 持っていないし、使ったことがない  | 4. 兄弟で共有している   | 22 | <input type="text"/> |
| 2. 持っていないけれど使ったことはある | 5. 自分のものを持っている |    |                      |
| 3. 親と共有している          |                |    |                      |
- 問 23. あなたは、平日に1日平均どのくらい携帯電話、スマートフォンを使いますか。(電話、メール、ネット、ゲーム等全てふくむ)
- |             |             |                     |    |                      |
|-------------|-------------|---------------------|----|----------------------|
| 1. まったく使わない | 3. 1~2 時間未満 | 5. 3~4 時間未満         | 23 | <input type="text"/> |
| 2. 1 時間未満   | 4. 2~3 時間未満 | 6. 4 時間以上 (具体的に 時間) |    |                      |
- 問 24. あなたは、近所の人に会ったらあいさつをしていますか。
- |          |           |           |            |    |                      |
|----------|-----------|-----------|------------|----|----------------------|
| 1. いつもする | 2. ときどきする | 3. あまりしない | 4. まったくしない | 24 | <input type="text"/> |
|----------|-----------|-----------|------------|----|----------------------|
- 問 25. あなたは、家族に「おはよう」「おやすみ」「行ってきます」「ただいま」などの日常のあいさつをしていますか。
- |          |           |           |            |    |                      |
|----------|-----------|-----------|------------|----|----------------------|
| 1. いつもする | 2. ときどきする | 3. あまりしない | 4. まったくしない | 25 | <input type="text"/> |
|----------|-----------|-----------|------------|----|----------------------|
- 問 26. あなたが楽しいと感じることが一番多いのは、どこにいるときですか。
- |       |       |         |            |    |                      |
|-------|-------|---------|------------|----|----------------------|
| 1. 学校 | 2. 家庭 | 3. 友達の家 | 4. その他 ( ) | 26 | <input type="text"/> |
|-------|-------|---------|------------|----|----------------------|
- 問 27. あなたは、休日をどのように過ごしていますか。多い順に3つえらんでください。
- |                        |                             |     |                      |
|------------------------|-----------------------------|-----|----------------------|
| 1. 家でなんとなくゴロゴロしている     | 9. 趣味などをする                  | 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 音楽やラジオを聞く           | 10. ボランティア活動や奉仕活動に参加する      |     |                      |
| 3. 家でテレビを見たりゲームをしたりする  | 11. 友達と外出 (遊びや買い物など)        | 2 位 | <input type="text"/> |
| 4. 読書 (マンガや雑誌を除く)      | 12. 家族との団らんや外出 (買い物・レジャーなど) |     |                      |
| 5. マンガや雑誌を読む           | 13. 公民館活動など地域の活動に参加する       | 3 位 | <input type="text"/> |
| 6. 家で勉強をしたり、学習塾に行ったりする | 14. その他 ( )                 |     |                      |
| 7. 部活動やスポーツクラブに参加する    |                             |     |                      |
| 8. 外で体を動かして遊ぶ          |                             |     |                      |
- 問 28. あなたは、自分で判断し行動しようとしていますか。
- |             |              |    |                      |
|-------------|--------------|----|----------------------|
| 1. いつもしている  | 3. あまりしていない  | 28 | <input type="text"/> |
| 2. ときどきしている | 4. まったくしていない |    |                      |

問 29. あなたは自分から進んで物事に取り組もうとしていますか。 29

1. いつもしている      3. あまりしていない  
2. ときどきしている      4. まったくしていない

問 30. あなたは、がまんすべき時はがまんしようとしていますか。 30

1. いつもしている      3. あまりしていない  
2. ときどきしている      4. まったくしていない

問 31. あなたは、最近、何となくイライラすることがありますか。 31

1. よくある      2. ときどきある      3. あまりない      4. まったくない

問 32. あなたが、悩んでいること、困っていることを次の順で選んでください。悩んだり、困ったりしていることがない場合は 9. の番号を記入してください。

1. 健康	4. 進路	7. 友達・クラス	32	1 番目に悩んだり困ったりしていること	<input type="text"/>
2. 体型	5. 勉強・成績	8. 恋愛		2 番目に悩んだり困ったりしていること	<input type="text"/>
3. 性格	6. 部活動	9. 特にない	10. その他 (		)

問 33. あなたは、困っていることや悩みを誰に相談しますか。次の順で選んでください。なお、相談しない場合や相談する人がいない場合は 7. 及び 8. の番号を記入してください。

1. 父	4. 兄弟姉妹	7. 誰にも相談しない	33	1 番目に相談する人は	<input type="text"/>
2. 母	5. 友だち	8. 相談する人がいない		2 番目に相談する人は	<input type="text"/>
3. 祖父・祖母	6. 先生	9. その他 (			)

問 34. あなたは、最近「もう学校に行きたくない」と思うことがありますか。 34

1. よくある      2. ときどきある      3. あまりない      4. まったくない

問 35. あなたは、自分がイヤになったりダメな人間だと思ったりすることがありますか。 35

1. いつもある      2. ときどきある      3. あまりない      4. まったくない

※問 35 で 1 または 2 を選んだ人はどんな時にそう思うのか、あてはまる大きな理由を順に 2 つ選んでください。(ひとつでも構いません。)

1. 成績が上がらない時	5. スポーツや部活動などが上手にならない時	※
2. 友達との関係がうまくいかない時	6. その他 (	理由 1 位 <input type="text"/>
3. 親や先生とうまくいかない時		理由 2 位 <input type="text"/>
4. 自分で決めたことをやり遂げられない時		

問 36. あなたは、家庭での生活に満足していますか。 36

1. とても満足している      3. あまり満足していない  
2. まあまあ満足している      4. まったく満足していない

※上の問 36 で選んだ項目について、そう思う理由を具体的に書いてください。

問 37. あなたは、地域活動、ボランティア活動、自然に触れる体験などの機会があれば、参加したいと思いませんか。 37

1. 大いに思う      2. まあまあ思う      3. あまり思わない      4. まったく思わない

◇ご協力ありがとうございました。

## 家庭教育に関するアンケート

このアンケートは、保護者の家庭教育に関する調査であるため全ての保護者を対象としています。男性の保護者・女性の保護者が、それぞれ別々に回答していただくようお願いいたします。

名前を記入する必要はありません

◎記入の仕方についてのお願い

- この調査用紙を持って帰ったお子さんのことについてお答えください。
- 各質問に対する答えは、回答項目のもっともあてはまるものの番号（1. 2. 3. …）を右側の□に記入してください。また、（ ）に必要事項を記入してください。
- 次の質問のあてはまる数字に○をつけてください。

お子さんの学年	お子さんの性別	アンケートを記入されるのは	ご記入くださった方の年齢
1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生 ※この記入用紙の お子さんの学年	1. 男 2. 女	1. 男性保護者 2. 女性保護者	1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳以上

- 問 1. あなたは朝、お子さんを起こしていますか。 1
1. 毎朝起こす      3. ほとんど起こさない  
2. ときどき起こす      4. 起こさない
- 問 2. あなたの家では、お子さんに朝食を用意していますか。 2
1. 毎日用意する      3. ときどき用意する  
2. ほとんど毎日用意する      4. 用意しない
- 問 3. あなたは、お子さんに「おはよう」「おやすみ」「行ってきます」「ただいま」など、家庭内でのあいさつをさせていますか。 3
1. 必ずさせている      3. あまりさせていない  
2. だいたいさせている      4. まったくさせていない
- 問 4. あなたは、お子さんが校則に違反した服装や髪型をしている場合、どのように対応していますか。 4
1. きびしくしかる      3. 特に注意しない      5. その他の家族に任せる  
2. おだやかに注意する      4. 配偶者に任せる      6. その他（      ）
- 問 5. あなたは、お子さんが宿題や手伝いをするのを忘れていたら注意しますか。 5
1. 必ずする      2. ときどきする      3. あまりしない      4. まったくしない
- 問 6. あなたは、お子さんのあなたに対する言葉づかいが乱暴であったとき、どのような対応をしていますか。 6
1. きびしくしかる      3. 特に何も言わず聞き流す      5. その他の家族に任せる  
2. おだやかに注意する      4. 配偶者に任せる      6. その他（      ）



問 7. あなたは、お子さんのテレビやゲーム、スマートフォン等の視聴・使用時間等について何かルールを決めていますか。 7

1. きちんとルールを決めている    3. ほとんど決めていない  
2. だいたい決めている            4. まったく決めてない

問 8. あなたは、お子さんの成績にもっとも影響するものは次のどれだと思いますか。1つだけ選んでください。 8

1. 先生の教え方や人柄    4. 本人の能力    7. 地域の環境  
2. クラスの雰囲気        5. 本人の努力    8. 塾や家庭教師  
3. お子さんの友達        6. 家庭の環境    9. その他 (            )

問 9. あなたは、平日だいたい何時に帰宅していますか。 9

1. ふだん自宅にいる    3. 午後6時～8時    5. 午後10時以降  
2. 午後6時以前        4. 午後8時～10時

問 10. あなたは、お子さんと、お子さんの将来や人生の事について話すことがありますか（どんな仕事につくか、どんな生き方をするかなど、受験以外のことで） 10

1. よくある    2. ときどきある    3. あまりない    4. まったくない

問 11. あなたは、お子さんとお子さんの学校での生活について話すことがありますか。 11

1. よくある    2. ときどきある    3. あまりない    4. まったくない

問 12. あなたは、お子さんに家庭のことで意見を聞いたり、相談したりすることがありますか。 12

1. よくある    2. ときどきある    3. あまりない    4. まったくない

問 13. あなたのお子さんは、あなたに対して自分の考えや疑問をはっきり述べますか。 13

1. よく述べる    2. ときどき述べる    3. ほとんど述べない    4. まったく述べない

問 14. お子さんがあなたの価値観と異なる考えや行動を示す場合、どの程度お子さんの考えや言い分を聞きますか。 14

1. しっかりと聞く    2. ときどき聞く    3. ほとんど聞かない    4. まったく聞かない

問 15. あなたは、お子さんをほめてあげる事がありますか。 15

1. よくある    2. ときどきある    3. あまりない    4. まったくない

問 16. あなたは、お子さんに自主性（自分で判断し行動する）があると思いますか。 16

1. 大いにあると思う            3. あまりないと思う  
2. まあまああると思う        4. まったくないと思う

問 17. あなたは、お子さんに積極性（自分から進んで物事に取組む）があると思いますか。 17

1. 大いにあると思う            3. あまりないと思う  
2. まあまああると思う        4. まったくないと思う

問 18. あなたは、お子さんに忍耐力（がまんすべき時はがまんする）があると思いますか。 18

1. 大いにあると思う            3. あまりないと思う  
2. まあまああると思う        4. まったくないと思う

問 19. あなたは、お子さんを兄弟姉妹やよその子と比べて注意したりしかったりすることがありますか。 19

1. よくある    2. ときどきある    3. あまりない    4. まったくない

問 20. あなたは、お子さんを「男の子だから、女の子だから」といって注意することがありますか。 20

1. よくある    2. ときどきある    3. あまりない    4. まったくない

(裏面もあります)



問 30. あなたは、お子さんのしつけについて今どんなことに配慮していますか。次の順に選んでください。なお、しつけについて取り立てて心を配っていない方は 9. を選んでください。

30

1 番目に心を配っている事	
2 番目に心を配っている事	

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 1. 友達との関係               | 6. 学習意欲・習慣  |
| 2. あいさつや言葉づかいなどの基本的生活習慣 | 7. 健康管理     |
| 3. 自主性                  | 8. こづかいの使い方 |
| 4. 行動の積極性               | 9. 特にない     |
| 5. 忍耐力                  | 10. その他 ( ) |

問 31. あなたは、お子さんにどんな子どもになってほしいと思っていますか。上位 3 つを選んでください。(1~2 つでもかまいません)

31

- |                         |              |     |                      |
|-------------------------|--------------|-----|----------------------|
| 1. 友達と仲良くできる子ども         | 6. 勉強ができる子ども | 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. あいさつや正しい言葉づかいができる子ども | 7. 人に好かれる子ども | 2 位 | <input type="text"/> |
| 3. 思いやりのある子ども           | 8. 素直な子ども    | 3 位 | <input type="text"/> |
| 4. 自己主張や積極的な行動ができる子ども   | 9. その他 ( )   |     |                      |
| 5. 耐えることができる子ども         |              |     |                      |

問 32. あなたが、子育てをするときの家庭の役割として重要だと思うものを、順に 3 つ選んでください。

32

- |                                 |                      |     |                      |
|---------------------------------|----------------------|-----|----------------------|
| 1. 休息・やすらぎ                      | 5. 健康管理をする           | 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 家族の絆 <small>きずな</small> を強める | 6. モラルを教える           | 2 位 | <input type="text"/> |
| 3. 生活習慣を身に付けさせる                 | 7. 将来の自立に向けた見通しを持たせる | 3 位 | <input type="text"/> |
| 4. 学習習慣を身に付けさせる                 | 8. その他 ( )           |     |                      |

問 33. あなたは、地域活動、ボランティア活動、自然に触れさせる体験などの機会があれば、お子さんを参加させたいと思いますか。

33

1. 大いに思う    2. まあまあ思う    3. あまり思わない    4. まったく思わない

問 34. しつけや子育て及び家庭教育について悩みやご意見等ありましたら自由にお書きください。

◇ご協力ありがとうございました。























## 調査協力校

福岡市立那珂中学校
直方市立直方第三中学校
大野城市立大野中学校
八女市立星野中学校
久留米市立三潴中学校
飯塚市立穂波東中学校